

+27-36

C8
4

法令全書

詔勅

朕貴族院多額納稅者議員互選規則第二十四條ニ依リ三重縣ニ於テ貴族院多額納稅者議員關員ノ爲ニ補關選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

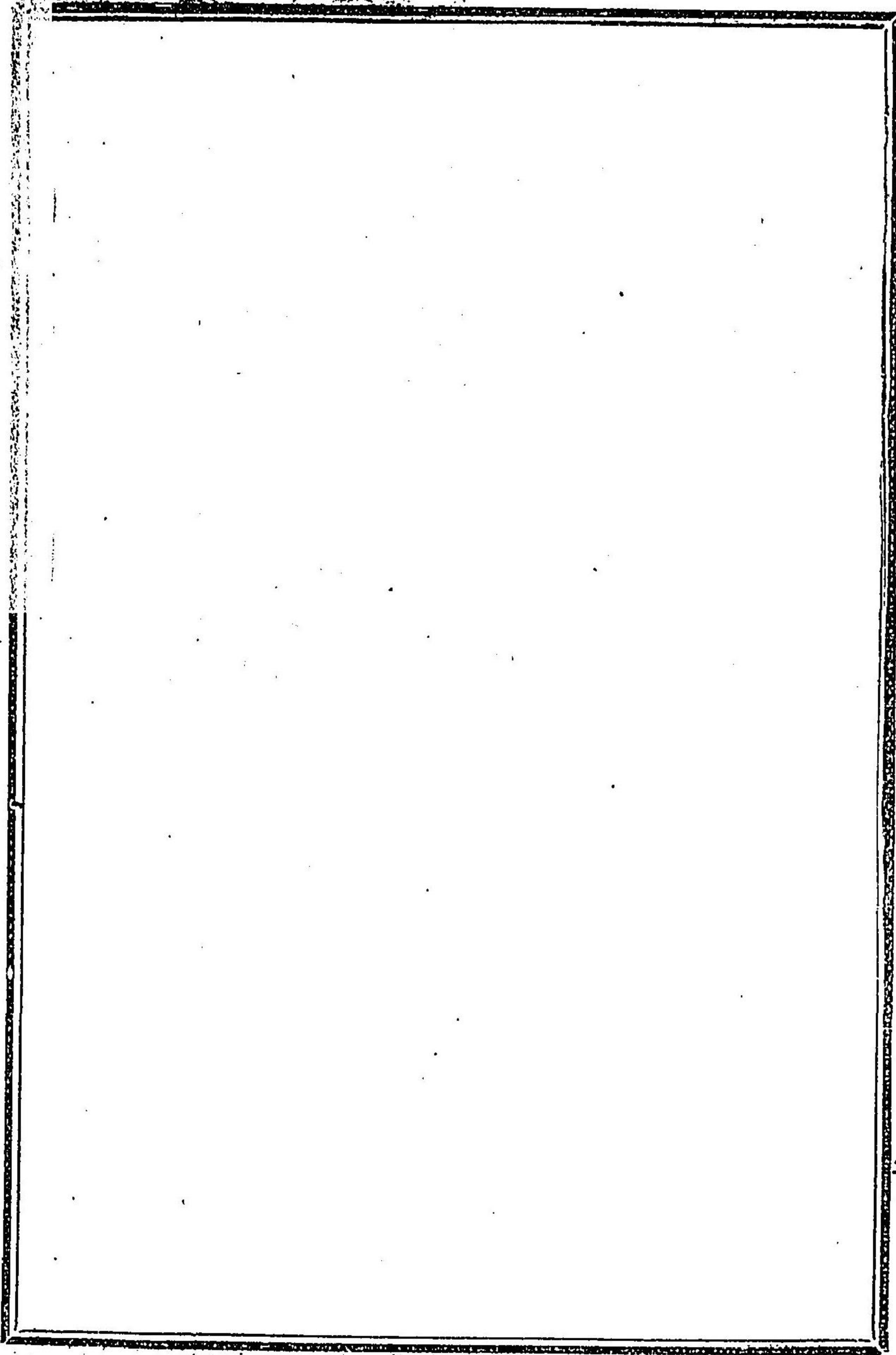
明治三十年一月十二日 (官報一月十三日)

朕茲ニ大喪ニ丁リ各地方慈善救濟ノ爲メ特ニ命シ内帑ノ金ヲ出シ其資ヲ補ハシム

(官報一月三十一日)



明治三十年一月 詔勅

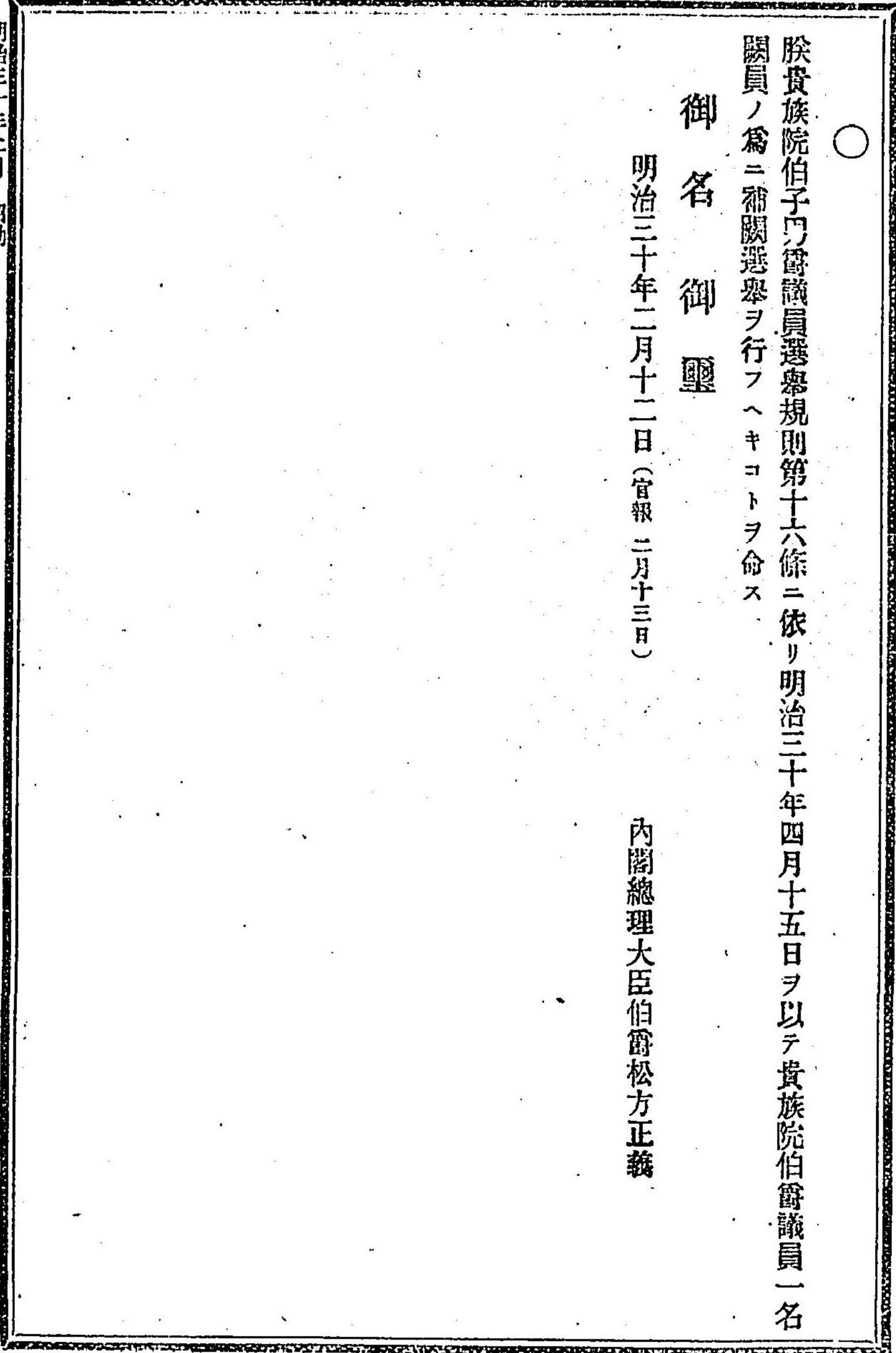


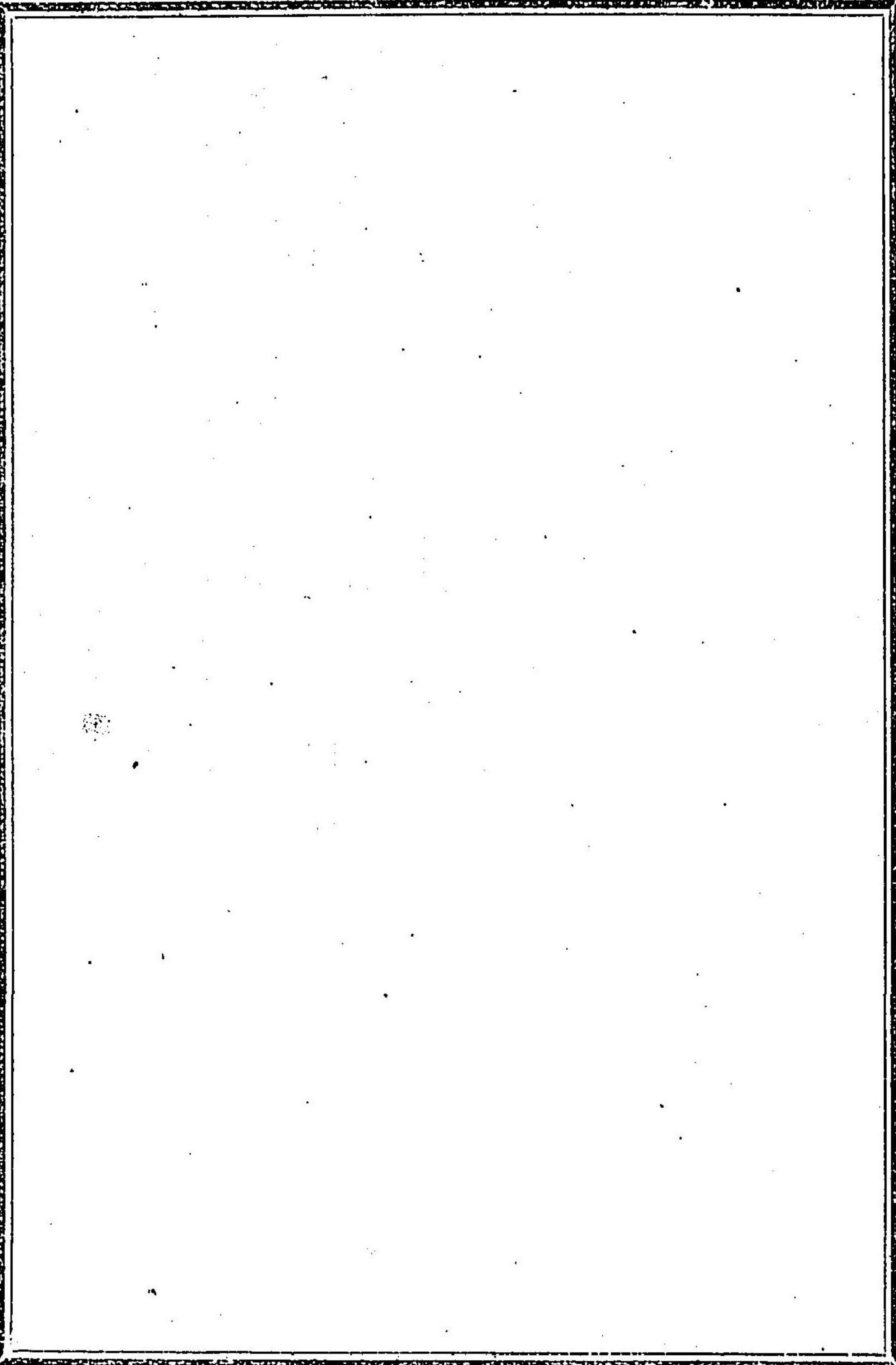
○
朕貴族院伯子爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治三十年四月十五日ヲ以テ貴族院伯爵議員一名
關員ノ爲ニ補關選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治三十年二月十二日(官報二月十三日)

内閣總理大臣伯爵松方正義





○ 朕貴族院令第四條及貴族院伯子男爵議員選舉規則第五條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ各左ノ員數ヲ選舉スヘキコトヲ命ス

伯爵 十五人

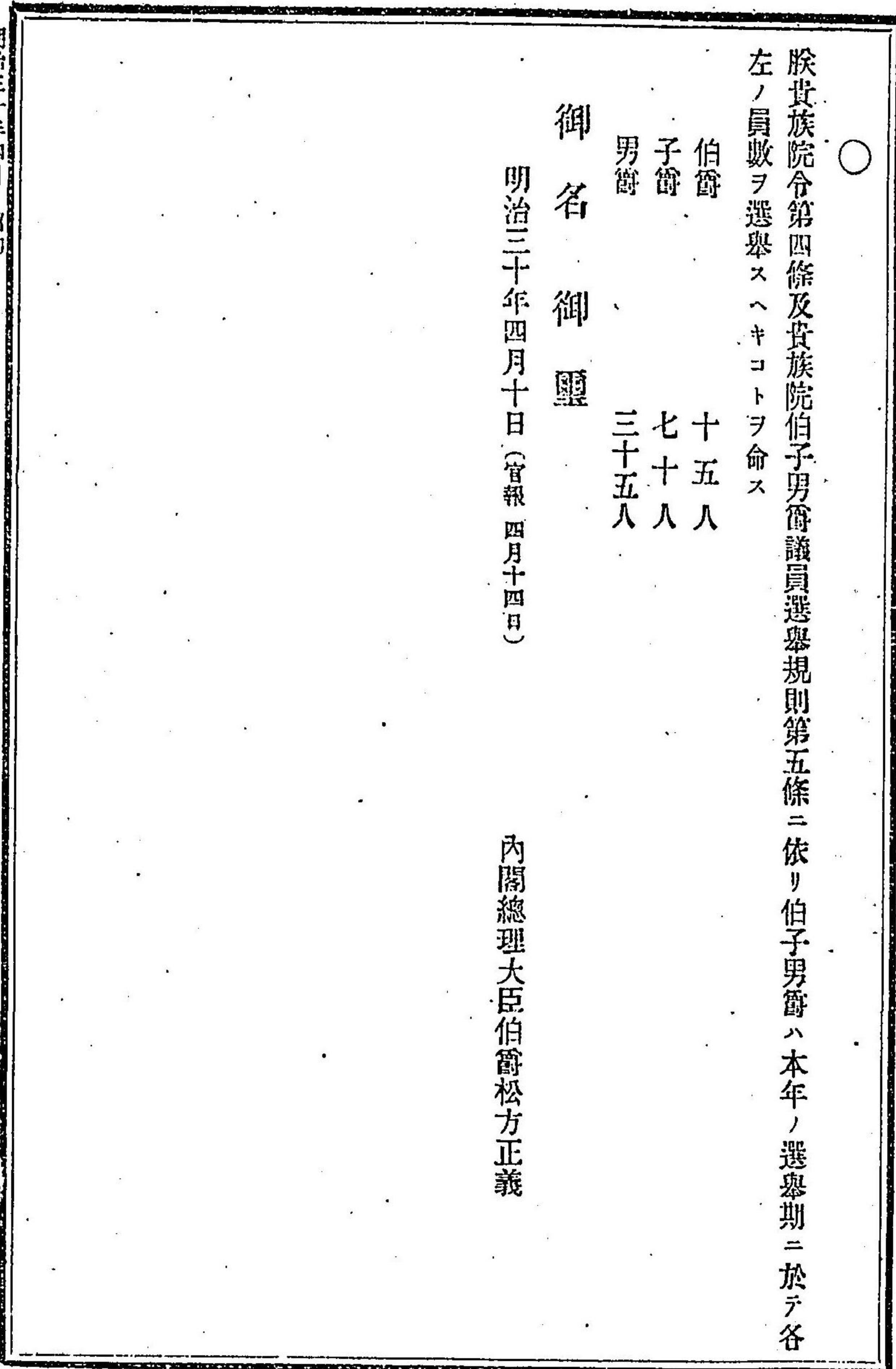
子爵 七十八人

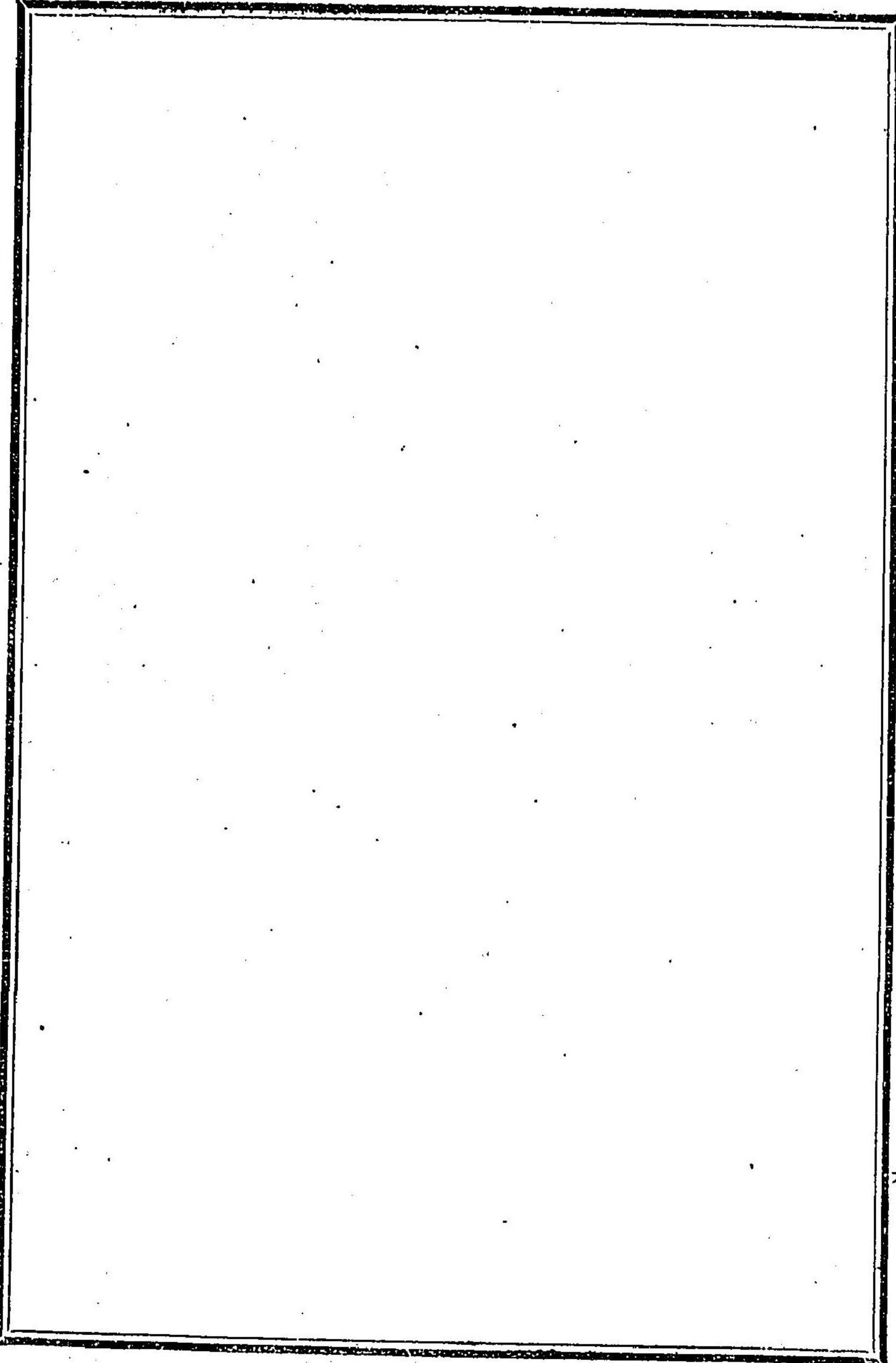
男爵 三十五人

御名 御璽

明治三十年四月十日(官報四月十四日)

内閣總理大臣伯爵松方正義



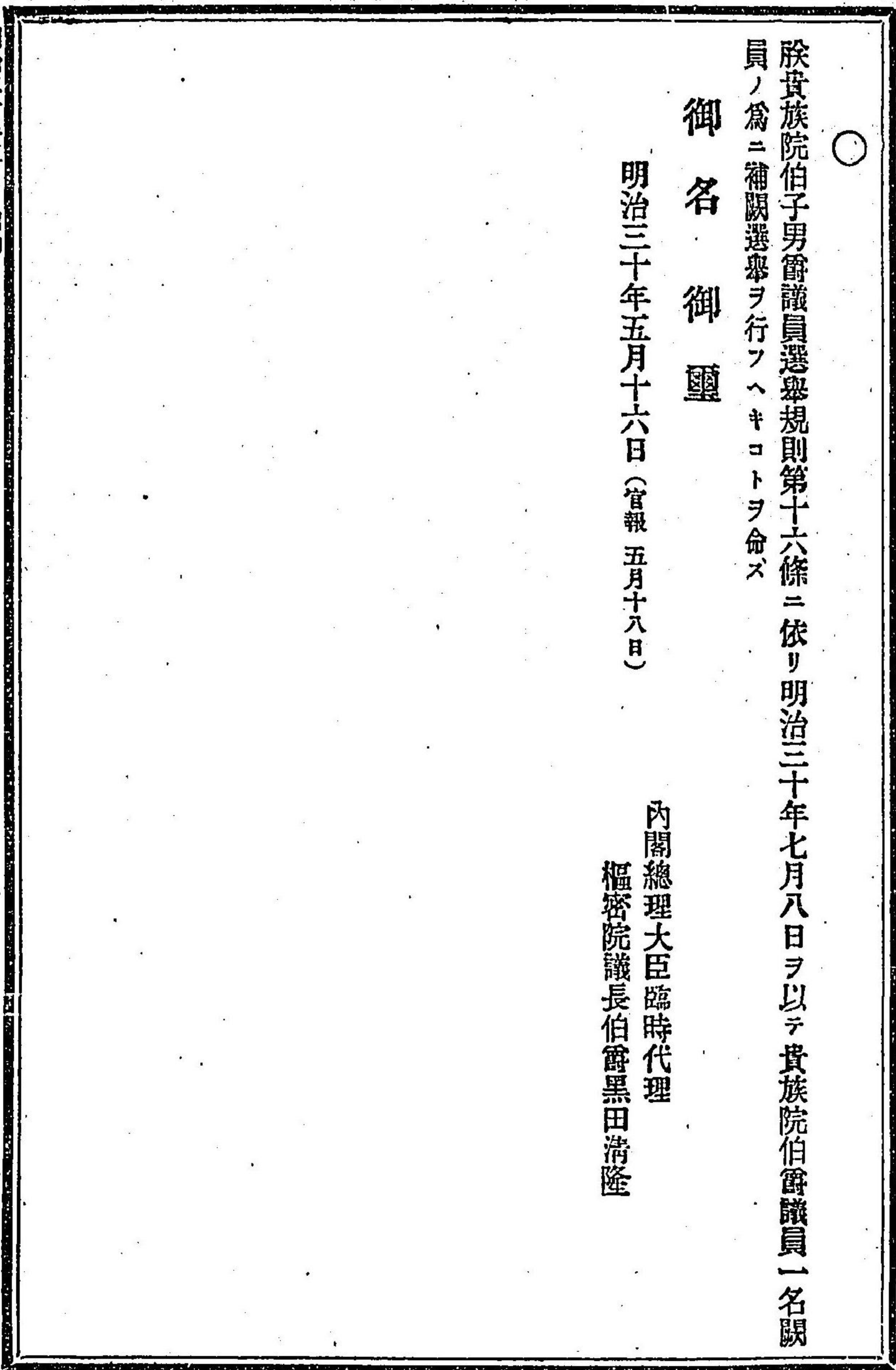


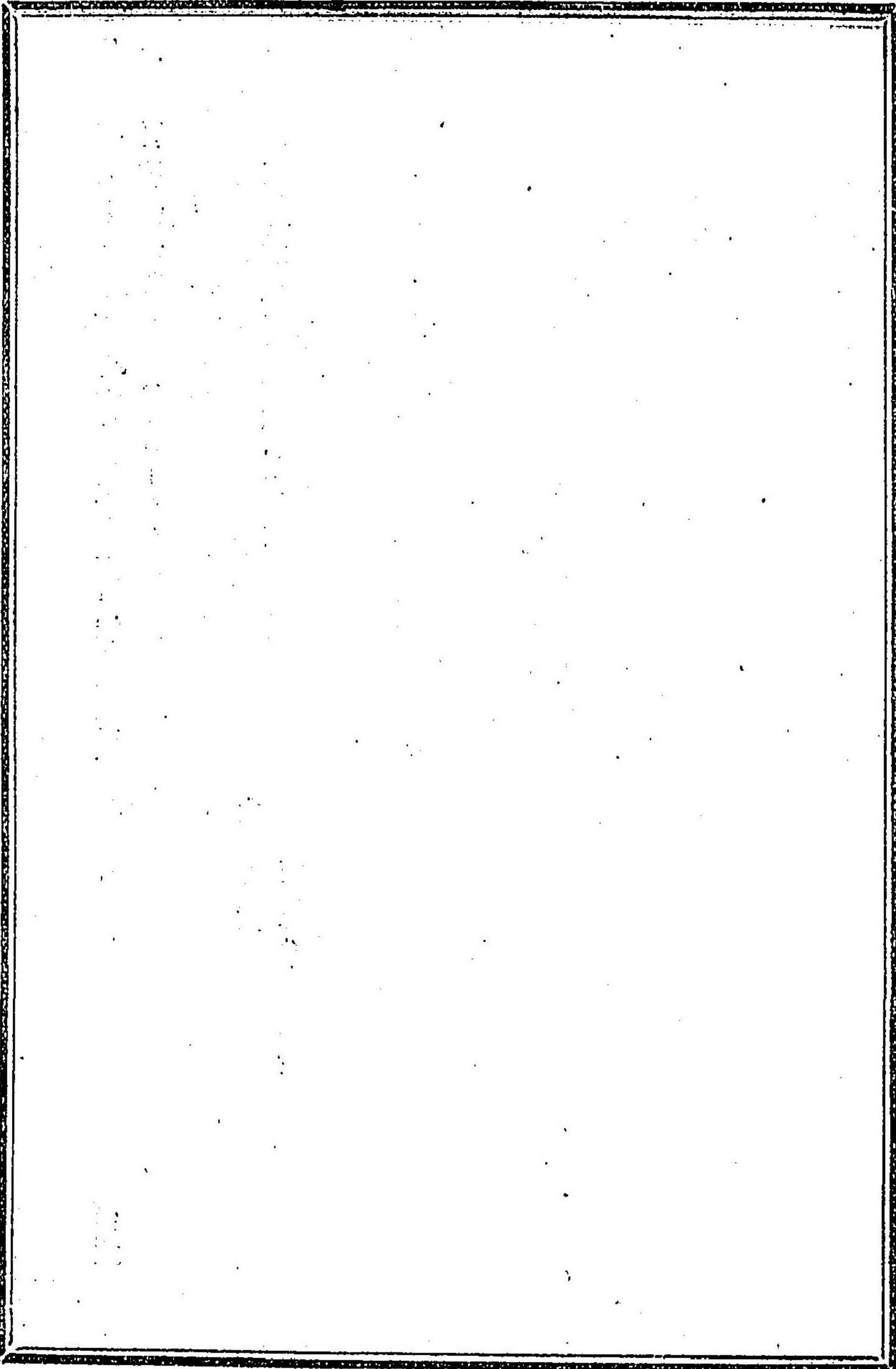
○
朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治三十年七月八日ヲ以テ貴族院伯爵議員一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ズ

御名 御璽

明治三十年五月十六日(官報五月十八日)

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黒田清隆





朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治三十年十二月二十五日ヲ以テ貴族院子爵議員一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治三十年十月二十九日(官報十一月一日)

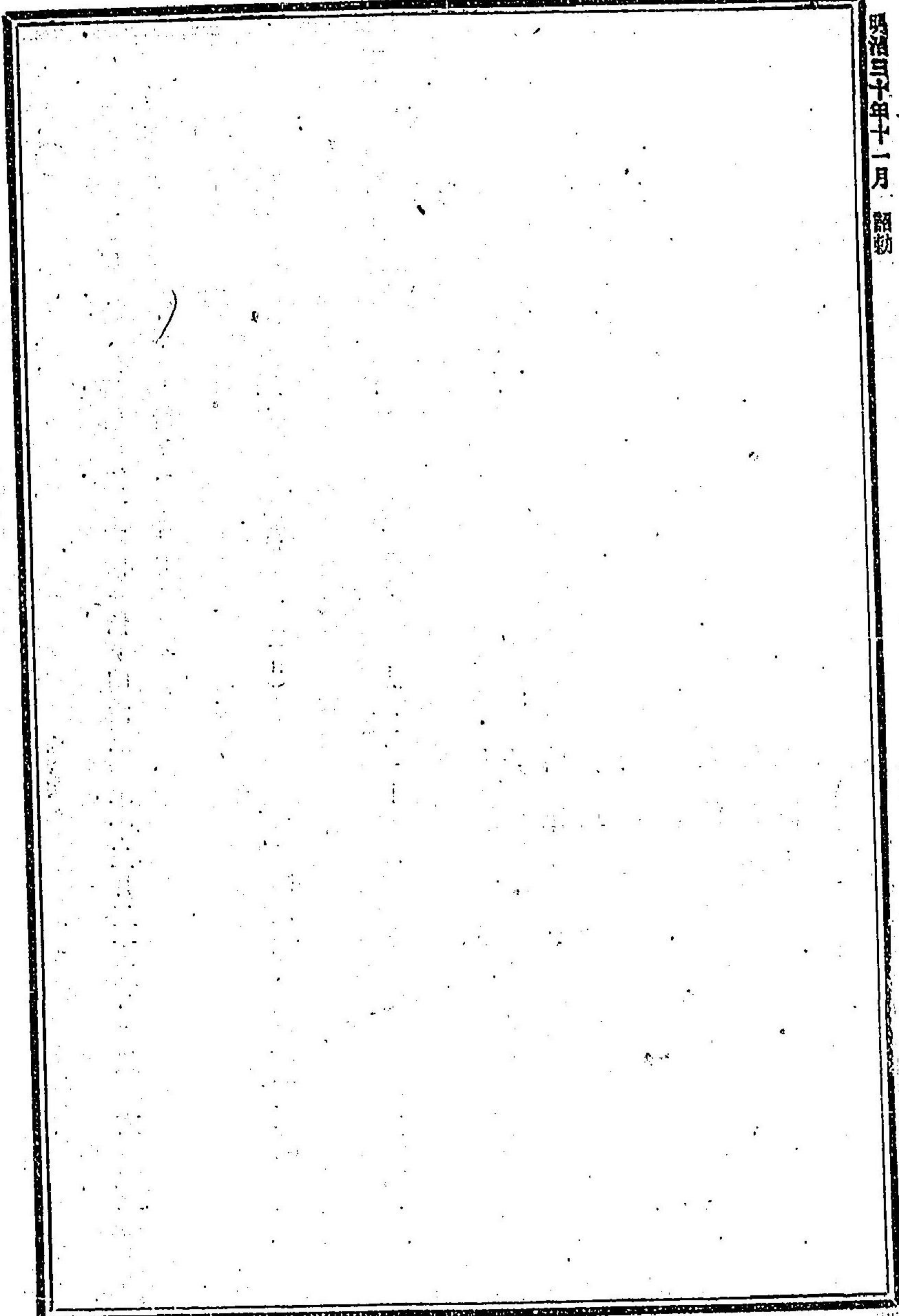
内閣總理大臣伯爵松方正義

朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十二月二十一日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治三十年十一月九日(官報十一月十日)

- 内閣總理大臣兼大藏大臣 伯爵松方正義
- 海軍大臣 臣侯爵西郷從道
- 陸軍大臣 臣子爵高島綱之助
- 內務大臣 臣伯爵樺山資紀
- 逓信大臣 臣子爵野村靖
- 司法大臣 臣清浦奎吾
- 外務大臣 臣男爵西德二郎
- 文部大臣 臣濱尾新
- 農商務大臣 臣男爵山田信道



朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ十二月二十四日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

御名 御璽

明治三十年十二月二十一日(官報十二月二十二日)

- 内閣總理大臣兼 大藏大臣 伯爵松方正義
- 海軍大臣 臣侯爵西郷從道
- 陸軍大臣 臣子爵高島綱之助
- 内務大臣 臣伯爵樺山資紀
- 逓信大臣 臣子爵野村靖
- 司法大臣 臣清浦奎吾
- 外務大臣 臣男爵西德二郎
- 文部大臣 臣濱尾新
- 農商務大臣 臣男爵山田信道

朕帝國憲法第七條ニ依リ衆議院ノ解散ヲ命ス

御名 御璽

明治三十年十二月二十五日

- 内閣總理大臣兼 大藏大臣 伯爵松方正義

朕帝國憲法第七條及第四十四條第二項ニ依リ貴族院ノ停會ヲ命ス

御名 御璽

明治三十年十二月二十五日

海軍	大臣	侯爵	西郷從道
陸軍	大臣	子爵	高島綱之助
內務	大臣	伯爵	樺山資紀
遞信	大臣	子爵	野村靖
司法	大臣	清浦	奎吾
外務	大臣	男爵	西 德二郎
文部	大臣	濱尾	新
農商務	大臣	男爵	山田信道

內閣總理	大臣	兼	伯爵	松方正義
大藏	大臣	侯爵	西郷從道	
海軍	大臣	子爵	高島綱之助	
陸軍	大臣	伯爵	樺山資紀	
內務	大臣	子爵	野村靖	
遞信	大臣	清浦	奎吾	
司法	大臣	男爵	西 德二郎	
外務	大臣	濱尾	新	
文部	大臣	男爵	山田信道	
農商務	大臣	男爵	山田信道	

法令全書

法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道公債及事業公債利子支拂期改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月二十三日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵 松方正義

法律第一號 (官報二月二十四日)
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法明治二十九年法律第五十九號事業公債條例及明治二十九年法律第九十三號北海道鐵道敷設法ニ依ル公債ノ利子ハ毎年三月九月ニ於テ支拂フモノトス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣總督府特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月二十四日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵 松方正義
拓殖務大臣 子爵 高島綱之助

法律第二號 (官報二月二十六日)

臺灣總督府特別會計法

第一條 臺灣總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歲入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ
第二條 前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三條 本法ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル東京大阪砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月二十七日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 臣子爵高島鞞之助

法律第三號(官報三月一日)

明治三十年度ヨリ漸次ニ金百參拾萬千五拾七圓參拾貳錢八厘ヲ東京砲兵工廠据置運轉資本金ニ金百拾六萬五千貳百貳拾九圓六拾七錢壹厘ヲ大阪砲兵工廠据置運轉資本金ニ増加ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル千住製絨所据置運轉資本増加ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月二十七日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 臣子爵高島鞞之助

法律第四號(官報三月一日)

明治三十年度ヨリ漸次ニ金貳拾壹萬參千五百參圓貳拾錢九厘ヲ千住製絨所据置運轉資本金ニ増加ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島地租徵收期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第五號(官報三月十日)

鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收ス

大隅國大島郡ノ内大島、徳ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島

翌年五月一日ヨリ同三十一日限

薩摩國川邊郡ノ内硫黃島、竹島、黒島、口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀬島、臥蛇島、惡石島、寶島

翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道敷設法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月十一日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 臣子爵高島綱之助
逓信大臣 臣子爵野村 靖

法律第六號(官報三月十三日)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第二條 中央線及北陸線ノ連絡線ヲ左ノ通改ム

一 岐阜縣下多治見ヨリ岐阜ニ至ル鐵道

一 前項ノ線路ヨリ分岐シ若ハ長野縣下松本ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

〔參照〕

法律第四號鐵道敷設法(明治二十五年六月二十一日官報抄錄)

第二條 豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

中央線及北陸線ノ連絡線

一 岐阜縣下岐阜若ハ長野縣下松本ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵免許稅徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月十五日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義
農商務大臣 臣子爵榎本武揚

法律第七號(官報三月十七日)

狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトス

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル作業會計法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月十七日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第八號(官報三月十八日)

明治二十三年法律第十七號作業會計法中左ノ通改正シ明治二十一年度ヨリ施行ス
第一條中作業直接ノ費用ニ充ルコトヲ許シ「作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ」ト改メ但書ヲ删除ス

〔參照〕

法律第十七號作業會計法(明治二十三年三月十八日官報)抄録

第一條 左ノ作業所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本措置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其所屬雜收入ハ作業直接ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム但事務ニ關スル作業間接ノ費用ハ總テ一般ノ會計ニ依ラシム

- 第一 造幣局
- 第二 印刷局
- 第四 電信燈差用品製造所
- 第五 廣島鐵山

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル新聞紙條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月十九日

内閣總理大臣伯爵松方正義

拓殖務大臣子爵高島鞆之助
内務大臣伯爵樺山資紀

法律第九號(官報三月二十四日)

新聞紙條例中左ノ通改正ス

第十九條 削除

第二十條 削除

第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第二十四條中「裁判官」ヲ「裁判所」ト改ム

第三十條中第二十一條ニ違ヒ「第二十一條ノ禁令ヲ犯シ」ト改ム

第三十一條中第二十二條ニ違ヒ「第二十二條ノ禁令ヲ犯シタル」ト改ム

第三十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス
第三十一條ノ二 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯シタル者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔參照〕

勅令第七十五號新聞紙條例(明治二十年十二月二十九日官報抄録)

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニテアラシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル蠶種検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十年三月十九日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
農商務大臣 子爵 榎本武揚

法律第十號(官報三月二十四日)

蠶種検査法

第一條 此ノ法律ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種及製絲用種ノ越年スルモノヲ謂フ

第二條 原種ハ框製ニスヘシ

第三條 蠶種ハ左ニ掲グル繭ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ス

- 一 二蠶以上合同シテ作りタル繭
- 二 繭層片薄ナル繭若ハ形狀ヲ失スルコト著シキ繭
- 三 繭層薄弱ニシテ繭ノ全量百ニ對シ 繭層ノ量春蠶ニ在リテハ八、夏秋蠶ニ在リテハ六ニ達セサルモノ

第四條 蠶種ハ原種ヨリ產生シタル繭ヲ用井ルニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

第五條 蠶種製造者ハ收繭後及産卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ繭蛾卵、製絲用種ニ在リテハ繭卵ノ検査ヲ受クヘシ

第六條 第三條ニ掲ケタル繭ハ收繭後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ

第七條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テハ検査合格ノ證印ナキ蠶種ヲ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得ス

第八條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テ必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律施行地以外ニ於テ製造シタル製絲用種ノ買受又ハ讓受ヲ認許スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ卵ノ検査ヲ受ケシムヘシ

第九條 地方長官ハ蠶種検査員ヲシテ養蠶期中蠶種製造者ニ就キ掃立蟻量ノ多寡生育ノ狀況及病

蠶ノ有無ヲ視察セシムルコトヲ得

蠶種製造者ハ前項ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 蠶種検査員其ノ職務ヲ行フトキハ證票ヲ携帯スヘシ

第十一條 蠶種検査員ハ自己若ハ家族ノ製造スル蠶種ノ検査ヲナスコトヲ得ス

第十二條 蠶種検査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以內ヲ補助スルコトヲ得

第十三條 北海廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第十四條 地方長官ハ土地ノ情況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ施行セサルコトヲ得

第十五條 第三條第四條第五條第七條及第八條第二項ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第十六條 第六條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ五十圓以上一圓九十五圓以下ノ科料ニ處ス

第十八條 此ノ法律中蠶種ノ製造及検査ニ關スル規定ハ自家用ノ蠶種ノミヲ製造スル者ニ適用セス

第十九條 學術研究ノ爲農商務大臣又ハ地方長官ノ承認ヲ得蠶種ヲ製造スル者及其ノ製造シタル

蠶種ニハ本法ヲ適用セス但シ賣渡スコトヲ得ス

第二十條 検査方法及此ノ法律施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第二十一條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二條ノ規定ハ此ノ法律施行後一箇

年間之ヲ適用セス

第二十二條 明治十九年農商務省令第九號蠶種検査規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲

ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯耆松方正義
陸軍大臣 臣子爵高島綱之助
逓信大臣 臣子爵野村 靖

法律第十一號(官報三月二十四日)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可ス

ルコトヲ得

一 廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種牡馬検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
農商務大臣 子爵榎木武揚

法律第十二號(官報三月二十五日)

種牡馬検査法

第一條 牡馬ハ此ノ法律ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ

得ス

第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ

第三條 證明書ノ效力ハ滿一箇年トス

前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停

止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ
 第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス
 第五條 此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス
 第六條 學術研究ノ爲牡馬ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトアルヘシ
 第七條 検査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八條 種牡馬検査ノ標準及方法検査委員ノ組織其ノ他此ノ法律施行ノ爲必要ノ規程ハ農商務大臣之ヲ定ム
 附則
 第九條 此ノ法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノトス
 第十條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治三十年三月二十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
陸軍大臣 子爵高島綱之助

法律第十三號(官報 三月二十六日)
 戰時若ハ事變ニ際シ召集スル在郷ノ陸軍軍人及兵役義務アル者竝之ヲ引率スヘキ者ニ支給スヘキ旅費召集諸費ニ付テハ市町村長市ノ區長並戸長及之ニ準スヘキ者ニ現金仕拂ヲ爲サシムル爲現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長市ノ區長並戸長及之ニ準スヘキ者ニ對シ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ適用ス
 平時在郷ノ陸軍軍人及兵役義務アル者ヲ召集スル場合ニ在テモ前諸項ヲ適用スルコトヲ得
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關稅定率法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯耆松方正義
拓殖務大臣 子爵高島綱之助

法律第十四號(官報 三月二十九日)
 關稅定率法
 第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニシテ附屬稅表第一種ニ屬スルモノハ同表ノ稅率ニ依リ輸入稅ヲ課シ第二種ニ屬スルモノハ輸入稅ヲ免シ第三種ニ屬スルモノハ輸入ヲ禁ス
 第二條 物品ノ課稅價格ハ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入港ニ到着スル迄ノ諸費ヲ加ヘテ算定ス
 第三條 附屬稅表ニ掲グル物品ニシテ從價稅ニ代フルニ從量稅ヲ以テスルヲ便宜トスルモノハ勅令ヲ以テ其ノ物品及細別ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ從量稅ハ前條ノ算法ニ依リ六箇月以上ノ平均價格ヲ算出シ附屬稅表ノ稅率ニ基キ之ヲ定ムヘキモノトス
 第四條 附屬稅表中二箇以上ノ稅率ヲ適用シ得ヘキ物品ニ對シテハ其ノ最高ノ率ニ從テ課稅ス
 第五條 左ノ物品ハ輸入稅ヲ課セス
 第一 御料品

第二 帝國陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器彈藥及爆發物

第三 海軍艦船

第四 帝國ニ派遣セラレタル各國公使ニ屬スル自用品

第五 勳章賞牌

第六 記録文書其ノ他ノ書類

第七 商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル

第八 旅具(旅客ノ携帶スルモノ)

第九 官立公立ノ博物館及物品陳列所ヘ永久陳列ノ爲ニ輸入スル物品

第十 内國産ニシテ五箇年以内ニ外國ヨリ積戻リ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ煙草類酒類ヲ除ク

第十一 修繕ノ爲外國ニ輸出シ再ヒ輸入スルモノ

第七號第八號第九號ハ物品ノ税關ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル

第十一號ノ物品ハ輸出ノ際豫メ再輸入ノ期限ヲ定ムヘシ

第六條 左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ再ヒ輸出スルモノハ輸入税ヲ課セズ但シ輸入ノ際其ノ輸入税金ニ相當スル金額ヲ預入レ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

第一 修繕ノ爲一時輸入スルモノ

第二 學術研究旅行者使用ノ爲一時輸入スルモノ

第三 試験品トシテ一時輸入スルモノ

第四 商人工業者及注文取集旅商ノ見本品トシテ一時輸入スルモノ

第五 演劇其ノ他興行用ノ爲一時輸入スルモノ

第七條 附屬稅表中改正ヲ要スルトキハ施行期日ヨリ少ナクモ六箇月前ニ之ヲ公布ス

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

輸入稅表		
番號	品名	稅率
一	第一類 兵器、時計、學術器具及機械類	一、〇
二	大砲、小銃、拳銃、刀劍、砲彈、裝藥其ノ他諸兵器	二、五
三	權衡及尺度	一、〇
四	晴雨計	一、〇
五	雙眼鏡	一、〇
六	甲 革ヲ以テ裝ヒ若クハ塗漆シタルモノ	一、五
七	乙 其ノ他各種	二、〇
八	座時計、掛時計及同部分品	二、〇
九	鐘錶、時計及同部分品(航海用ノモノ)	二、〇
一〇	坩堝(各種)	一、〇
一一	刃物(別項ニ掲ケサルモノ)	一、〇
一二	潛水器及同部分品	一、〇
一三	電燈器械及同部分品	一、〇
一四	消防器及同部分品	一、〇
一五	農具、工匠器具及同部分品	一、五
一六	樂器及同附屬品	一、五
一七	理學器具、化學器具、製圖器具、測量器具、外科器具其ノ他諸學術器具(別項ニ掲ケサルモノ)	一、〇
一八	寫眞器及同部分品	一、〇
一九	鐵道機關車及同部分品	一、〇
二〇	鐵道機車及同部分品	一、〇
二一	諸器械及同部分品(別項ニ掲ケサルモノ)	一、七
二二	顯微鏡及同部分品	一、八
二三	蓄音器及同部分品	一、九
二四	唧筒器及同部分品	二、〇
二五	縫衣機及同部分品	二、一
二六	眼鏡及同部分品	二、二
二七	獵銃及同附屬品	二、三
二八	汽錘、汽機及同部分品	二、四
二九	電話機及同部分品	二、五
三〇	望遠鏡	二、六
三一	印字機	二、七
三二	懷中時計、懷中時計側及同附屬品	二、八
三三	甲 金製及白金製ノモノ	二、九
三四	乙 銀製及其ノ他各種	三、〇
三五	懷中時計、機械及同部分品	三、一
三六	第二類 飲食物	三、二
三七	礦水、檸檬水、曹達水、加牛酒、精ヲ含マサル諸飲料	三、三
三八	乾麵包	三、四
三九	甲 船用ノモノ	三、五
四〇	乙 菓子製ノモノ	三、五
四一	乳油	三、五
四二	乾酪	三、五
四三	咖啡	三、五
四四	糖菓類	三、六
四五	生卵	三、七
四六	麥粉其ノ他澱粉、澱粉類	三、八
四七	生菓、乾菓及別項ニ掲ケサル菓子	三、九
四八	火腿及ベーコン	四、〇
四九	鮮肉	四、一
五〇	乳膏及乳粉	四、二
五一	胡椒	四、三
五二	胡椒	四、四
五三	食鹽(海鹽ト鹽田トヲ別タス)	四、五
五四	甲 粗製ノモノ	四、六
五五	乙 精製ノモノ	四、七
五六	鹹魚	四、八
五七	鹹肉	四、九
五八	茶	五、〇
五九	生菓、乾菓及鹹菓	五、一
六〇	其ノ他各種ノ食物	五、二
六一	第三類 衣服及附屬品	五、三
六二	長靴及短靴(各種)	五、四
六三	袴鈔	五、五
六四	甲 絹製及絹入ノモノ	五、六
六五	乙 其ノ他各種	五、七
六六	鈕釦、扣子、鈎子類(飾鈕釦ヲ除ク)	五、八
六七	甲 絹製及絹入ノモノ	五、九
六八	乙 其ノ他各種	六、〇
六九	襪卷	六、一
七〇	甲 絹製及絹入ノモノ	六、二
七一	乙 其ノ他各種	六、三
七二	襪卷	六、四
七三	甲 絹製及絹入ノモノ	六、五
七四	乙 其ノ他各種	六、六
七五	襪卷	六、七
七六	甲 絹製及絹入ノモノ	六、八
七七	乙 其ノ他各種	六、九
七八	襪卷	七、〇
七九	甲 絹製及絹入ノモノ	七、一
八〇	乙 其ノ他各種	七、二
八一	襪卷	七、三
八二	甲 絹製及絹入ノモノ	七、四
八三	乙 其ノ他各種	七、五
八四	襪卷	七、六
八五	甲 絹製及絹入ノモノ	七、七
八六	乙 其ノ他各種	七、八
八七	襪卷	七、九
八八	甲 絹製及絹入ノモノ	八、〇
八九	乙 其ノ他各種	八、一
九〇	襪卷	八、二
九一	甲 絹製及絹入ノモノ	八、三
九二	乙 其ノ他各種	八、四
九三	襪卷	八、五
九四	甲 絹製及絹入ノモノ	八、六
九五	乙 其ノ他各種	八、七
九六	襪卷	八、八
九七	甲 絹製及絹入ノモノ	八、九
九八	乙 其ノ他各種	九、〇
九九	襪卷	九、一
一〇〇	甲 絹製及絹入ノモノ	九、二
一〇一	乙 其ノ他各種	九、三
一〇二	襪卷	九、四
一〇三	甲 絹製及絹入ノモノ	九、五
一〇四	乙 其ノ他各種	九、六
一〇五	襪卷	九、七
一〇六	甲 絹製及絹入ノモノ	九、八
一〇七	乙 其ノ他各種	九、九
一〇八	襪卷	一〇、〇
一〇九	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、一
一一〇	乙 其ノ他各種	一〇、二
一一一	襪卷	一〇、三
一一二	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、四
一一三	乙 其ノ他各種	一〇、五
一一四	襪卷	一〇、六
一一五	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、七
一一六	乙 其ノ他各種	一〇、八
一一七	襪卷	一〇、九
一一八	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、〇
一一九	乙 其ノ他各種	一〇、一
一二〇	襪卷	一〇、二
一二一	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、三
一二二	乙 其ノ他各種	一〇、四
一二三	襪卷	一〇、五
一二四	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、六
一二五	乙 其ノ他各種	一〇、七
一二六	襪卷	一〇、八
一二七	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、九
一二八	乙 其ノ他各種	一〇、〇
一二九	襪卷	一〇、一
一三〇	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、二
一三一	乙 其ノ他各種	一〇、三
一三二	襪卷	一〇、四
一三三	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、五
一三四	乙 其ノ他各種	一〇、六
一三五	襪卷	一〇、七
一三六	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、八
一三七	乙 其ノ他各種	一〇、九
一三八	襪卷	一〇、〇
一三九	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、一
一四〇	乙 其ノ他各種	一〇、二
一四一	襪卷	一〇、三
一四二	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、四
一四三	乙 其ノ他各種	一〇、五
一四四	襪卷	一〇、六
一四五	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、七
一四六	乙 其ノ他各種	一〇、八
一四七	襪卷	一〇、九
一四八	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、〇
一四九	乙 其ノ他各種	一〇、一
一五〇	襪卷	一〇、二
一五一	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、三
一五二	乙 其ノ他各種	一〇、四
一五三	襪卷	一〇、五
一五四	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、六
一五五	乙 其ノ他各種	一〇、七
一五六	襪卷	一〇、八
一五七	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、九
一五八	乙 其ノ他各種	一〇、〇
一五九	襪卷	一〇、一
一六〇	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、二
一六一	乙 其ノ他各種	一〇、三
一六二	襪卷	一〇、四
一六三	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、五
一六四	乙 其ノ他各種	一〇、六
一六五	襪卷	一〇、七
一六六	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、八
一六七	乙 其ノ他各種	一〇、九
一六八	襪卷	一〇、〇
一六九	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、一
一七〇	乙 其ノ他各種	一〇、二
一七一	襪卷	一〇、三
一七二	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、四
一七三	乙 其ノ他各種	一〇、五
一七四	襪卷	一〇、六
一七五	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、七
一七六	乙 其ノ他各種	一〇、八
一七七	襪卷	一〇、九
一七八	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、〇
一七九	乙 其ノ他各種	一〇、一
一八〇	襪卷	一〇、二
一八一	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、三
一八二	乙 其ノ他各種	一〇、四
一八三	襪卷	一〇、五
一八四	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、六
一八五	乙 其ノ他各種	一〇、七
一八六	襪卷	一〇、八
一八七	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、九
一八八	乙 其ノ他各種	一〇、〇
一八九	襪卷	一〇、一
一九〇	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、二
一九一	乙 其ノ他各種	一〇、三
一九二	襪卷	一〇、四
一九三	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、五
一九四	乙 其ノ他各種	一〇、六
一九五	襪卷	一〇、七
一九六	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、八
一九七	乙 其ノ他各種	一〇、九
一九八	襪卷	一〇、〇
一九九	甲 絹製及絹入ノモノ	一〇、一
二〇〇	乙 其ノ他各種	一〇、二

五五	手袋(各種)	二、〇	六三	甲 金銀製及金銀入ノモノ 乙 絹製及絹入ノモノ 丙 其ノ他各種	三、〇 二、五 二、〇	七七	硼砂(硼酸曹達)	一、〇
五六	帽子	三、〇	六四	甲 絹製及絹入ノモノ 乙 絹製、毛製及毛綿製ノモノ 丙 其ノ他各種	二、五 二、〇 二、〇	七八	龍腦及艾片	一、〇
五七	襟飾	二、〇	六五	甲 絹製及絹入ノモノ 乙 其ノ他各種	二、五 二、〇	七九	桂皮油	一、〇
五八	肩衣	二、五	六六	甲 絹製及絹入ノモノ 乙 其ノ他各種	二、五 二、〇	八〇	桂皮	一、〇
五九	襪料	二、〇	六七	甲 絹製及絹入ノモノ 乙 其ノ他各種	二、五 二、〇	八一	霍香	一、〇
六〇	足袋(長短ヲ別タス、メリヤス製ノモノ)	二、〇	六八	甲 絹製及絹入ノモノ 乙 其ノ他各種	二、五 二、〇	八二	規那皮	一、〇
六一	飾鈕釦(襪料ノ襟袖胸ニ用ルモノ)	二、〇	六九	甲 絹製及絹入ノモノ 乙 其ノ他各種	二、五 二、〇	八三	聖古尼涅(鹽酸若クハ硫酸)	一、〇
六二	粧飾料(平組、組紐、レース、總ノツツ、スタール、金屬絲及金屬紐其ノ他別項ニ掲ケサル各種)	二、五	七〇	甲 絹製及絹入ノモノ 乙 其ノ他各種	二、五 二、〇	八四	辰砂(赤色硫化汞)	一、〇
			七一	安知必林	一、〇	八五	丁香	一、〇
			七二	檳榔子	一、〇	八六	鹽酸古加乙涅	一、〇
			七三	白朮	一、〇	八七	肝油	一、〇
			七四	次硝酸鈣	一、〇	八八	寫真用古魯胃膜及附屬ノ沃度	一、〇
			七五	晒白粉(粘着兒石灰)	一、〇	八九	古倫僕	一、〇
			七六		一、〇	九〇	牛黃	一、〇
						九一	阿仙藥及檳榔膏	一、〇
						九二	健質亞那(龍腦)	一、〇
						九三	人參	一、〇
						九四	佩里設林	一、〇
						九五	亞拉昆亞護謨	一、〇
						九六	安息香	一、〇
						九七	麒麟血	一、〇
						九八	沒藥	一、〇
						九九	乳香	一、〇
						一〇〇	沃度仿謨	一、〇
						一〇一	吐根	一、〇
						一〇二	刺刺巴根	一、〇
						一〇三	醋酸鉛(鉛糖)	一、〇
						一〇四		一、〇

〇五	甘草	一、〇	一三四	ウアスリン	一、〇	一五八	姜黃	一、〇
〇六	麻黃	一、〇	一三五	黃芩	一、〇	一五九	郡青	一、〇
〇七	過酸化消僂	一、〇	一三六	其ノ他諸藥材、化學藥及製藥	一、〇	一六〇	洋漆	一、〇
〇八	莫兒比涅(鹽酸若クハ硫酸)	一、〇	一三七	第五類 染料、彩料	一、〇	一六一	支那漆	一、〇
〇九	麝香(人造ノモノ)	一、〇	一三八	アリザリン染料	一、〇	一六二	綠青	一、〇
一〇	甘松	一、〇	一三九	アニリン染料	一、〇	一六三	朱	一、〇
一一	赤磷	一、〇	一四〇	紺青(乾濕ヲ別タス、礦物ヨリ製シタルモノ)	一、〇	一六四	碗青	一、〇
一二	鹽酸必魯加兒必涅	一、〇	一四一	洋紅	一、〇	一六五	白色亞鉛粉	一、〇
一三	靛羅製鉛錫亞斯	一、〇	一四二	酸化古拔爾葛	一、〇	一六六	其ノ他各種ノ染料、彩料及塗料	一、〇
一四	格魯兒酸錫錫亞斯	一、〇	一四三	花綠青	一、〇			
一五	沃度制錫亞斯	一、〇	一四四	沒食子及五倍子	一、〇			
一六	水香	一、〇	一四五	雌黃	一、〇			
一七	規尼涅 鹽酸若クハ硫酸	一、〇	一四六	金液、銀液及白金液	一、〇			
一八	松脂	一、〇	一四七	乾藍	一、〇			
一九	大黃(塊粉ヲ別タス)	一、〇	一四八	水藍	一、〇			
二〇	泊突蘭	一、〇	一四九	インダゴー、エキストラクト及インダゴー、カルマイン	一、〇			
二一	硝石(硝酸錫錫亞斯)	一、〇	一五〇	鉛粉(各色)	一、〇			
二二	珊瑚	一、〇	一五一	鉛粉(各色)	一、〇			
二三	撒兒沙巴利刺	一、〇	一五二	鉛粉(各色)	一、〇			
二四	撒兒支奈	一、〇	一五三	鉛粉(各色)	一、〇			
二五	沙刺克	一、〇	一五四	鉛粉(各色)	一、〇			
二六	曹達灰	一、〇	一五五	紅花	一、〇			
二七	重炭酸曹達	一、〇	一五六	蘇木	一、〇			
二八	苛性曹達	一、〇	一五七	花紺青	一、〇			
二九	結晶曹達(洗濯曹達)	一、〇						
三〇	撒里矢爾酸曹達	一、〇						
三一	芥朮	一、〇						
三二	紫梗	一、〇						
三三		一、〇						

一七七	胡麻子	一九八	髓甲	二一九	軌條及附屬ノ牝牡螺旋釘チ
一七八	小麥	一九九	其ノ他各種ノ骨角、生皮及介甲	二二〇	エルス、ドグス、バイキス、
一七九	其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ穀物及種子	二〇〇	其ノ他各種ノ牙類	二二〇	フロシブレース
		二〇一		二二一	板(波形ト否ト別タス)
		二〇二	第九類 金屬及金屬製品	二二二	電鍍板(波形ト否ト別タ
		二〇三	安知母尼(塊錠ヲ別タス)	二二三	ス)
		二〇四	眞鍮	二二四	有紋板
		二〇五	條竿及板	二二五	釘(電鍍シタルト否ト別
		二〇六	螺旋釘	二二六	タス別項ニ掲ケサルモノ)
		二〇七	故眞鍮(改造適用ノモノ)	二二七	螺絲釘及牝牡螺旋釘(別項
		二〇八	塊及錠	二二八	ニ掲ケサルモノ)
		二〇九	條竿及板	二二九	葉鐵(葉鐵(無地若クハ晶鏡
		二一〇	釘	二三〇	ノモノ)
		二一一	筒及管	二三一	線及徑一因ノ四分一ヲ超エ
		二一二	線	二三二	サル細竿(錫鍍シタルト
		二一三	鋼貨及白銅貨	二三三	否ト別タス)
		二一四	故鋼(改造適用ノモノ)	二三四	電線(電鍍線)
		二一五	日耳曼銀(板竿及線)		線索(電鍍シタルト否ト
		二一六	鐵及軟鋼		別タス)
		二一七	鐵及軟鋼		故線索(電鍍シタルト否ト
		二一八	鐵及軟鋼		ヲ別タス)
			鐵及軟鋼		故鋼、故線其ノ他改造適用
			鐵及軟鋼		ノ故鐵及故軟鋼
			鐵及軟鋼		板及錠
			鐵及軟鋼		筒及管

二三五	水銀	二五六	板	二七七	落花生豆油
二三六	暹結爾	二五七	故板及其ノ他改造適用ノ故	二七八	石油
二三七	白銀	二五八	亞鉛	二七九	亞麻子油
二三八	塊	二五九	別項ニ掲ケサル釘及螺旋釘	二八〇	阿列布油
二三九	條竿、板及線	二六〇	鐵及錫鐵(新故ヲ別タス)	二八一	櫻桐子油
二四〇	鐵(各種)	二六一	提濤用金具	二八二	無味香油
二四一	鋼(軟鋼ニ非サルモノ)	二六二	キヤブシニール(蠟ノ口ニ用	二八三	松精油
二四二	塊	二六三	非ル金具)	二八四	蟲白蠟(蠟)
二四三	條竿及板	二六四	鐵鏈(別項ニ掲ケサルモノ)	二八五	無味香蠟
二四四	筒及管	二六五	戶鎖、月鎖、月輪、蝶鎖類	二八六	其ノ他各種ノ油蠟
二四五	線及徑一因ノ四分一ヲ超エ	二六六	金銀其ノ他金屬箔及粉	二八七	第十一類 紙及文具
二四六	サル細竿	二六七	金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)	二八八	集畫帖(寫眞用及郵便切符貼
二四七	線(金骨用ノモノ)	二六八	鍍金銀器(別項ニ掲ケサルモ	二八九	用ノモノ)
二四八	線索(電鍍シタルト否ト	二六九	ノ)	二九〇	白紙、帳簿及書式類
二四九	別タス)	二七〇	壁爐、壁爐及附屬品	二九一	墨汁(印刷用、寫字用、筆記用
二五〇	錫	二七一	貨幣匣	二九二	及石版用ノモノ)
二五一	故鐵其ノ他改造適用ノ故鐵	二七二	金屬	二九三	唐紙類(各種)
二五二	塊及錠	二七三	其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ	二九四	壁紙
二五三	板	二七四	金屬製品	二九五	印刷料紙
二五四	條及竿	二七五	其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ	二九六	鉛筆
二五五	釘	二七六	金屬製品	二九七	甲 金製及白金製ノモノ
	筒及管		第十類 油蠟		乙 其ノ他各種
	故眞鍮(改造適用ノモノ)		蠟燭		甲 金製ノモノ
	亞鉛		氣油		乙 其ノ他各種
	塊及錠		豆油		封蠟
	塊及錠		椰子油		藥紙

二九八	其ノ他各種ノ文具	一、五	三二〇	絨金巾	一、五	三四一	生絲、然絲、玉絲、駝斗絲、屑絲及野繭絲	一、五
二九九	第十二類 砂糖	二、五	三二一	其ノ他各種ノ綿布(純綿ト他物ヲ交ヘタルト別タス但シ綿ノ重量超過スルモノ)	一、五	三四二	真綿	一、五
三〇〇	精糖	二、〇	三二二	毛絲及ウルステッド絲(各種)	一、〇	三四三	絹織絲(紡績シタル)及絹交織絲	二、〇
三〇一	水砂糖	二、五	三二三	第二	一、五	三四四	絹織類(別項ニ掲ケサルモノ)	二、〇
三〇二	糖蜜	一、〇	三二四	毛絲及ウルステッド絲(各種)	一、〇	三四五	支那絹織	二、〇
三〇三	糖水	一、〇	三二五	絹織類	一、〇	三四六	支那絹織	二、〇
	第十三類 布帛、織物及同材料		三二六	支那絹織	一、〇	三四七	支那絹織	二、〇
	第一		三二七	支那絹織	一、〇	三四八	支那絹織	二、〇
三〇四	綿織絲	一、〇	三二八	支那絹織	一、〇	三四九	支那絹織	二、〇
三〇五	綿織絲	一、〇	三二九	支那絹織	一、〇	三五〇	支那絹織	二、〇
三〇六	製本用綿布	一、〇	三三〇	支那絹織	一、〇	三五一	支那絹織	二、〇
三〇七	純純子	一、〇	三三一	支那絹織	一、〇	三五二	支那絹織	二、〇
三〇八	雲霄布	一、〇	三三二	支那絹織	一、〇	三五三	支那絹織	二、〇
三〇九	綿帆布	一、〇	三三三	支那絹織	一、〇	三五四	支那絹織	二、〇
三一〇	更紗類	一、〇	三三四	支那絹織	一、〇	三五五	支那絹織	二、〇
三一	綿織子、綿ブロード、綿イタリ、アンス及紋金巾	一、〇	三三五	支那絹織	一、〇	三五六	支那絹織	二、〇
三一二	綿天竺絨	一、〇	三三六	支那絹織	一、〇	三五七	支那絹織	二、〇
三一三	ギンハム	一、〇	三三七	支那絹織	一、〇	三五八	支那絹織	二、〇
三一四	生金巾	一、〇	三三八	支那絹織	一、〇	三五九	支那絹織	二、〇
三一五	晒金巾	一、〇	三三九	支那絹織	一、〇	三六〇	支那絹織	二、〇
三一六	綾金巾	一、〇	三四〇	支那絹織	一、〇	三六一	支那絹織	二、〇
三一七	色金巾	一、〇	三四一	支那絹織	一、〇	三六二	支那絹織	二、〇
三一八	唐棧	一、〇	三四二	支那絹織	一、〇	三六三	支那絹織	二、〇
三一九	天竺布(小領金巾)	一、〇	三四三	支那絹織	一、〇	三六四	支那絹織	二、〇

三五九	ブラッセルズ絨	二、〇	三七五	乙 其ノ他各種	一、〇	三九四	シエリー	三、五
三六〇	フェルト絨	二、〇	三七六	綿線及華麻線	一、〇	三九五	ウエルモット	三、五
三六一	麻織	二、〇	三七七	織絲及縫絲(別項ニ掲ケサル各種)	一、〇	三九六	ウヰスキー	四、〇
三六二	パテント、タペストリー絨	二、〇	三七七	其ノ他各種ノ布帛	一、五	三九七	葡萄酒(赤白ヲ別タス)	三、五
三六三	其ノ他各種ノ地氈	二、〇	三七七	其ノ他各種ノ布帛製品	一、五	三九八	其ノ他各種ノ蒸溜酒	四、〇
三六四	竹布	一、五	三七八	甲 絹製及絹入ノモノ	二、五	三九九	其ノ他各種ノ醸造酒	三、五
三六五	總帷	二、五		乙 其ノ他各種	二、〇			
三六六	甲 絹製及絹入ノモノ	二、〇		第十四類 煙草	四、〇			
三六七	乙 其ノ他各種	一、五	三七九	卷煙草及小巻煙草	四、〇	四〇〇	沈香	一、〇
三六八	手巾	一、五	三八〇	紙巻煙草	四、〇	四〇一	琥珀	一、〇
	甲 綿製、麻製及麻綿製ノ(單製連製ヲ別タス)	二、五	三八一	嗅煙草	四、〇			
	乙 絹製及レース製ノモノ	二、五	三八二	刺煙草	四、〇	四〇二	動物	一、〇
三六九	蚊帳(各種)	二、〇	三八三	其ノ他諸製煙草	三、五	四〇三	牛、馬、驢、騾、綿羊、山羊及雞	一、〇
三七〇	革布(家具等ニ用井ルモノ)	一、五	三八四	第十五類 酒類	二、五	四〇四	其ノ他各種ノ動物	一、〇
三七一	油布及リノリユム(林ニ用井ルモノ)	一、五	三八五	麥酒及黑麥酒	四、〇	四〇五	石絨(板)	一、〇
三七二	襪衣	二、五	三八六	ブランデー	四、〇	四〇六	竹材(エラ加ヘサルモノ)	一、〇
	甲 絹製及絹入ノモノ	二、五	三八七	シヤムパン	三、五	四〇七	革帶、護謄帶、帆布帶、護謄管及帆布管(機械ニ用井ルモノ)	一、〇
	乙 其ノ他各種	二、〇	三八八	支那酒(各種)	四、〇	四〇八	衝球臺及附屬品	三、〇
三七三	浴巾(單製連製ヲ別タス各種)	一、五	三八九	杜松子酒	四、〇	四〇九	他類似ノ爆發藥、デトネー	一、〇
三七四	旅氈(單製連製ヲ別タス)	二、五	三九〇	リキニール(各種)	四、〇	四一〇	磚瓦(建築用ノモノ)	一、〇
	甲 絹入ノモノ	二、五	三九一	ポルト	三、五	四一一	ブラシ及絨(各種)	二、〇
			三九二	ラム	四、〇			
			三九三	清酒(内地醸造類似ノモノ)	四、〇			

四二二	鐵膜及鋼管百兒沙	一、〇五	四三一	金剛砂	二、〇五	四五二	ラムプ、提燈及同部分品	二、〇〇
四一三	甲 生	一、〇〇	四三二	金剛砂布及砂紙	五、五五	四五三	歐脂類	一、〇〇
四一四	乙 板	二、〇〇	四三三	金剛砂紙其ノ他各種ノ砥石	五、五五	四五四	皮革製品(別項ニ掲ケサルモ)	二、〇〇
四一五	丙 工ヲ加ヘタルモノ(別項ニ掲ケサルモノ)	二、〇〇	四三四	フェルト(船底用者クハ厚背用ノモノ)	一、〇〇	四五五	麥芽	二、〇〇
四一六	乘車自轉車及同部分品	二、〇〇	四三五	煙火(各種)	三、〇〇	四五六	マツチ(各種)	二、〇〇
四一七	鐵道客車及同部分品	一、〇〇	四三六	天蠶絲(瀉用ノモノ)	五、五五	四五七	支那蓆(一卷四十碼)	二、〇〇
四一八	鐵道貨車及同部分品	一、〇〇	四三七	鑽石	五、五五	四五八	椰皮蓆	二、〇〇
四一九	鐵道馬車及同部分品	一、〇〇	四三八	造花	二、〇〇	四五九	其ノ他各種ノ地蓆	二、〇〇
四二〇	貨車	一、〇〇	四三九	額縁及天井蓆	二、〇〇	四六〇	マイカ(板)	一、〇〇
四二一	セリユロイド	一、〇〇	四四〇	海羅	五、五五	四六一	ライクム(船蓆)	一、〇〇
四二二	甲 板若クハ竿	二、〇〇	四四一	家具(新故ヲ別タス別項ニ掲ケサルモノ)	二、〇〇	四六二	パンキング(汽機用ノモノ)	一、〇〇
四二三	乙 工ヲ加ヘタルモノ	二、〇〇	四四二	アンニス、クリツケット、象棋	二、〇〇	四六三	油畫、水畫、石版畫、著色石版畫、寫眞畫、法帖其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ書畫類	二、〇〇
四二四	白堊及ホワイチンダ	五、五五	四四三	其ノ他ノ遊戯具(別項ニ掲ケサルモノ)	二、〇〇	四六四	瀝青、木炭兒及石炭兒	二、〇〇
四二五	木炭及骨炭	五、五五	四四四	阿膠(普通)	二、〇〇	四六五	巴黎灰	三、〇〇
四二六	粘土(各種)	五、五五	四四五	綿火藥(各種)	二、〇〇	四六六	骨牌(各種)	三、〇〇
四二七	石炭及磚炭	五、五五	四四六	石膏	二、〇〇	四六七	石盤	三、〇〇
四二八	魚炭	五、五五	四四七	飼草	二、〇〇	四六八	磁器及陶器(別項ニ掲ケサルモノ)	二、〇〇
四二九	珊瑚(加工シタルト否ト別タス)	三、〇〇	四四八	象牙製品(別項ニ掲ケサルモノ)	二、〇〇	四六九	寶石及眞珠	三、〇〇
四三〇	學麻繩索(船用ト否ト別タス)	一、〇〇	四四九	金銀細貨類(別項ニ掲ケサルモノ)	三、〇〇	四七〇	寶石及眞珠(假製ノモノ)	三、〇〇
	塞子樹皮	一、〇〇	四五〇	假製金銀細貨類(寶石眞珠等ヲ嵌メタルト否ト別タス)	三、〇〇	四七一	ホルプ(製紙料ノモノ)	三、〇〇
	玻璃刀	一、〇〇	四五二	貼札(繻繅等ニ用井ルモノ)	一、〇〇	四七二	パツチ井	三、〇〇
	ダイナマイト	一、〇〇				四七三	臘(割キタルト否ト別タス)	二、五五
						四七四	馬具	二、五五

四七五	白蠟	一、〇〇	四九二	傘類	二、五五	五二二	ゴニニ一裝(新故ヲ別タス)	二、五五
四七六	靴盤(各種)	二、〇〇	四九三	甲 絹及絹入ノモノ	二、〇〇	五二三	包蓆	二、〇〇
四七七	吸煙器具(阿片吸煙具ヲ除ク)	三、〇〇	四九四	乙 其ノ他各種	二、〇〇	五二四	雛形及工事圖面	二、〇〇
四七八	石鹼	一、〇〇	四九五	傘柄及傘手(金銀製ヲ除ク)	二、五五	五二五	油糟(塊粉ヲ別タス)	二、〇〇
四七九	甲 化粧用ノモノ	一、〇〇	四九六	汽船、帆船及舟艇	一、〇〇	五二六	藥料阿片(政府ノ輸入スルモノ)	二、〇〇
四八〇	乙 其ノ他各種	一、〇〇	四九七	紫標器及墨標器	一、〇〇	五二七	草木及苗根	二、〇〇
四八一	滑石(塊粉ヲ別タス)	一、〇〇		其ノ他税目中ニ掲ケサル生組	二、〇〇	五二八	米、粉	二、〇〇
四八二	スバルテリ(製帽用ノモノ)	一、〇〇		若クハ未製品	二、〇〇	五二九	乾鰯	二、〇〇
	海綿	一、〇〇		其ノ他税目中ニ掲ケサル全製	二、〇〇	五三〇	茶籃、茶節及茶筴	二、〇〇
	石類(別項ニ掲ケサルモノ)	一、〇〇		若クハ半製品	二、〇〇	五三一	茶鍋	二、〇〇
	甲 建築用其ノ他工作ヲ經サルモノ	五、五五		第二種 免稅品	二、〇〇	五三二	茶鉛	二、〇〇
	乙 裝飾用若クハ家具用其ノ他工作ヲ經タルモノ	二、〇〇		廣告ノ書畫及看板	二、〇〇		羊毛、山羊毛及駱駝毛(新故ヲ別タス)	二、〇〇
	丙 肖像其ノ他彫刻シタルモノ	二、〇〇		地圖、海圖及其ノ他學術圖	二、〇〇		第三種 禁制品	二、〇〇
	海底電線及地下電線	二、〇〇		銀行券、利札、株券其ノ他各種ノ有價證券	二、〇〇		法律命令ニ依リ有害ナリト認ムヘキ純良ナラサル藥材、化學藥、製藥食物若クハ飲料	二、〇〇
	紫標	二、〇〇		書籍、習字本、習畫本及新聞雜誌	二、〇〇		法律命令ニ依リ公共ノ衛生又ハ動植物ニ危險ナリト認ムヘキ物品	二、〇〇
	チキキ材	二、〇〇		金銀(地金)	二、〇〇		物ニ危險ナリト認ムヘキ物品	二、〇〇
	木材及板(別項ニ掲ケサル各種)	二、〇〇		金銀貨幣	二、〇〇		特許意匠商標及版權ニ關スル帝國ノ法律ニ違反シタル物品	二、〇〇
	化粧具匣	二、〇〇		繭(各種)	二、〇〇		製造貨幣及廢造ト認ムヘキ模造貨幣	二、〇〇
	香水、香油、洗滌藥其ノ他各種ノ脂粉及麝香類	二、〇〇		生綿	二、〇〇		阿片(政府ノ輸入スル藥料阿片ヲ除ク)	二、〇〇
	醋甲製品	二、〇〇		層綿	二、〇〇		公安及風俗ヲ害スヘキ書籍、圖畫彫刻物其ノ他ノ物品	二、〇〇
	磁甲製品	二、〇〇		層綿絲	二、〇〇			二、〇〇
	磁甲製品(各種)	二、〇〇		羊麻(梳理シタルト否ト別タス)	二、〇〇			二、〇〇
	旅籠、提燈及佩袋	二、〇〇			二、〇〇			二、〇〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル保稅倉庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第十五號(官報三月二十九日)

保稅倉庫法

第一章 總則

- 第一條 保稅倉庫ハ輸入手數未濟ノ貨物ヲ藏置スル所トス
- 第二條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物ハ其ノ藏置中ハ輸入シタルモノト看做サス
- 第三條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入税ハ其ノ最初庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス
- 第四條 保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ命令ヲ以テ定ムル通路ニ依ルヘシ
- 第五條 保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム
- 第六條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入ニ關シテハ此ノ法律ニ規定シタルモノノ外税關法及稅關規則ヲ適用ス
- 第七條 保稅倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ日ヨリ滿一箇年トス
- 第八條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物庫移ヲ爲ストキハ其ノ藏置期限ハ總テ最初庫入ノ日ヨリ通算ス
- 第九條 輸入手數未濟ノ貨物ヲ運搬スルトキハ當該官廳ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ニ對スル輸入税金ヲ假納セシムルコトヲ得

前項ノ貨物陸揚申告ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過キテ仕向地ニ到達セサルトキハ其ノ輸入税ヲ徵收ス

第二章 官設保稅倉庫

- 第十條 官設保稅倉庫ニ藏置スル貨物ニ對シテハ記名ノ預證券ヲ發スルモノトス
- 第十一條 預證券ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得
- 第十二條 預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ官當該官廳ニ届出ヘシ
- 第十三條 前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法ニ依リ其ノ證券ヲ無効トスル除權判決アリタルトキハ權利者ニ新證券ヲ交付ス
- 第十四條 前條第一項ノ届出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ持參人及届出人ニ於テ相當ノ手續ヲ爲シ其ノ權利者確定スル迄藏置貨物ノ引渡ヲ停止ス
- 第十五條 藏置ノ貨物ハ預證券引換ニ交付スルモノトス
- 第十六條 藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期限ノ延期ヲ求ムルコトヲ得
- 第十七條 藏置期限ヲ經過シテ貨主貨物ヲ引取ラサルトキハ無請求品トシ當該官廳ハ其ノ貨物ノ記號、番號、品名、箇數等ヲ公告スヘシ
- 第十八條 前項公告ノ日ヨリ滿六箇月ヲ經テ之ヲ引取ル者ナキトキハ當該官廳ハ其ノ貨物ヲ競賣ニ付シ輸入税、公告料、競賣手数料、庫敷料其ノ他一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ貨主ニ還付ス
- 第十九條 藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ當該官廳ハ公告シテ指定ノ期限内ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ當該官廳ハ之ヲ滅却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限内ニ於テモ仍之ヲ滅却スルコトヲ得
- 第二十條 前項ニ依リ滅却シタル貨物ニ對シテハ輸入税ヲ徵收セス

第三章 私設保稅倉庫

第十八條 保稅倉庫ヲ設ケ輸入手數未濟ノ貨物ヲ保管スル業ヲ營マムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第十九條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ當該官廳ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二十條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付自ラ一切ノ責任ヲ有シ天災事變其ノ他何等ノ事故ニ因ルヲ問ハス貨物紛失滅失シ若ハ盜難ニ罹ルモ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保管貨物輸入税ノ擔保トシテ金錢又ハ國債證券ヲ供託スヘシ

第二十二條 私設保稅倉庫ニハ庫主ニ屬スル貨物ヲ藏置スルコトヲ得ス

第二十三條 私設保稅倉庫ニ保管スル貨物ニシテ其ノ庫入ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過クルトキハ輸入税ヲ徵收ス

第二十四條 私設保稅倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十五條 當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ私設保稅倉庫ノ貨物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 私設保稅倉庫營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス
一 庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ
二 庫主死亡シタルトキ
三 庫主破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
四 特許ノ期限滿了シタルトキ

第二十七條 主務大臣ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ
私設保稅倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ當該官廳ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指

定ノ期限内ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼クカ爲ニ特許消滅後一箇月以内ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ指定期限ヲ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ當該官廳ハ之ヲ官設保稅倉庫又ハ他ノ私設保稅倉庫ノ保管ニ移スヘシ

前項庫移ノ費用ハ貨主ノ負擔トス

第二十八條 營業特許ノ消滅シタル私設保稅倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保稅倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條 第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保稅倉庫ニ於ケル諸般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得
一 業務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ
二 庫主輸入税ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ
三 庫主重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四十條 罰則

第三十一條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ貨物ヲ沒收ス若シニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第四十二條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入レスルコトヲ得ス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 主務大臣ノ認可ヲ受ケスシテ私設保稅倉庫ノ貨物保管規則又ハ庫敷料ヲ定メタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條ノ規程ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第二十四條 第二十五條ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

附則

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貨幣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第十六號(官報三月二十九日)

貨幣法

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

十錢

白銅貨幣

五錢

青銅貨幣

一錢

五厘

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用非一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一 金貨幣 純金九百分參和銅一百分

二 銀貨幣 純銀八百分參和銅二百分

三 白銅貨幣 「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分

四 青銅貨幣 銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一 二十圓金貨幣 四匁四分四厘四毛四(十六)グラム(六六六五)

二 十圓金貨幣 二匁二分二厘二毛二(八)グラム(三三三三)

三 五圓金貨幣 一匁一分一厘一毛一(四)グラム(一六六六)

四 五十錢銀貨幣 三匁五分九厘四毛二(十二)グラム(四七八三)

五 二十錢銀貨幣 一匁四分三厘七毛七五(五)グラム(三九一四)

六 十錢銀貨幣 七分一厘八毛八二(二)グラム六九五五
 七 白銅貨幣 一匁二分四厘四毛一(四)グラム六六五四
 八 一錢青銅貨幣 一匁九分零厘零毛八七(七)グラム二二八〇
 九 五厘青銅貨幣 九分五厘零毛四三(三)グラム五六四〇

第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ
 一 金貨幣二十圓ハ每片八毛六四(〇)グラム〇三三(四〇)一千枚毎ニ八分三厘(三)グラム一一二(五〇)十圓ハ每片六毛零五(〇)グラム〇二二(六九)一千枚毎ニ六分二厘(二)グラム三三三(五〇)五圓ハ每片四毛三三(〇)グラム〇一六(二〇)一千枚毎ニ四分一厘(一)グラム五三七(五〇)トス

二 銀貨幣ハ各種共每片二厘五毛九二(〇)グラム〇九七(二〇)五十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ一匁二分四厘(四)グラム六五五(〇〇)二十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ八分三厘(三)グラム一一二(五〇)十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ四分一厘(一)グラム五三七(五〇)トス

第十一條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘千六(六)グラム五七五(〇)十圓金貨幣二匁二分一厘八(八)グラム二二八(七五)五圓金貨幣一匁一分零厘五毛(四)グラム一四三(八)トス

第十二條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

附則

第十五條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條 從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 此ノ法律ニ牴觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯耆松方正義

法律第十七號(官報三月二十九日)

貨幣整理資金特別會計法

- 第一條 一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲貨幣整理資金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス
- 第二條 明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ
- 第三條 交換ノ上引揚タル一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
- 第四條 毎會計年度ニ於テ貨幣整理資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過利ヲ生スルトキハ其ノ過利金ヲ該資金ニ編入スヘシ
- 第五條 政府ハ毎年貨幣整理資金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第六條 貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第十八號(官報三月二十九日)

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通改正ス

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

第十八號布告兌換銀行券條例(明治十七年五月二十六日)抄錄

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條第一項

日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換シコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治十八年第十四號布告中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第十九號(官報三月二十九日)

明治十八年第十四號布告中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

第十四號布告(明治十八年六月六日)
政府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ
但交換ノ手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治十二年第三十五號布告廢止法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年三月二十六日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第二十號(官報 三月二十九日)

明治十二年第三十五號布告ヲ廢止ス

〔參照〕

法律第三十五號布告(明治十二年九月十二日)
一 貿易圓銀(量目七匁一分七厘六毛性合銀九銅一)ノ儀今後稅關ノ諸稅及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸稅定メ拂方ヲ
ナス爲メ之ヲ差出ストキハ 諸官廳ニ於テハ之ヲ洋銀ト認價ニテ受領スヘシ
一 本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ質債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結約シタル所ノ金貨ヲ拂フ爲メ右壹圓銀ヲ差
出ストキハ之ヲ洋銀ト認價ニテ受領スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第二十一號(官報 三月二十九日)

國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限

ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ

對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ

破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總

テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費

ニ對シテ先取セサルモノトス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付

スルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市

町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及

納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納税人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第三章 滞納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セザル者アルトキハ收税官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス

第十條 滞納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手数料及税金ヲ完納セザルトキハ其ノ財産ヲ差押フヘシ

第十一條 收税官吏滞納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證書ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收税官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收税官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收税官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收税官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受

人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

二 滞納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭

三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印

四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地

五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未ダ公ニセザルモノ

第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ滞納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生ズル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滞納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケララルコトナシ

第二十條 收税官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滞納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル

戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滞納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第二條ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滞納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收税官吏ハ前項ニ準シ處

分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ篋匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇
人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人
以上又ハ市町村吏員市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戶長及其ノ附屬吏員 若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨、地金銀、有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印シテ其ノ地ノ市町村長
市制町村制ヲ施行セザニ保管セシムヘシ

前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但シ不動産又ハ運搬
ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ保管ヲ滯納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ
債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收稅官吏ニ對シテ滯納處分費及稅金額ヲ限トシ自己ノ債務
ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滯納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政
府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却
スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其
ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ督促手数料、財產ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、通信費及訴訟費
用トス

滯納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徵收ス

滯納處分費ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及稅金ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ
滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件賣入書入ト爲シタルモノナルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ處分費及稅金ヲ控除シ
次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ但シ第三條
ニ掲ケタル質入書入ノ物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ負債金額ニ
充ツルマテヲ債主ニ交付シ次ニ稅金ヲ控除シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財產ヲ以テ滯納處分費及稅金ニ充テ
仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス
名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ
通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分ノ結了ヲ以テ終ル滯納處分ノ執行ヲ止メタル
トキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滯納處分結了スルモ滯納處分費及稅金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期限後一箇
年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徵收ス滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財產ヲ占有スル者其ノ財產ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ
タルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

油繩縣及東京府管内小笠原島伊豆七島ニハ當分ノ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水產物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法 同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十三年二月四日法律第四號ハ北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徵收ノ件ナリ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災地方租稅特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十年三月二十六日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第二十二號 (官報三月二十九日)

震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ秋田縣巖手縣ニ限リ明治二十九年八月三十一日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適

用ス

第二條 水源涵澗水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十九年分ヨリ修正

地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減損甚シキ

土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十九年ヨリ十箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ付與スルコトヲ得

第四條 市街ニ準スヘキ部落ニシテ過半ノ家屋壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キモノハ其ノ實

況ニ依リ明治二十九年ヨリ七箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅地ニ付與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修

正スルコトヲ得

第六條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受ケタルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十九年分地

租未納金ハ明治三十年ヨリ三箇年以内延納ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ延納ニ係ル地租ハ年賦納付ヲ許可スルコトヲ得

第七條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ

震災前檢査済ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第八條 菓子賣藥ノ營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ菓

子製造稅ハ明治二十九年分未納稅金賣藥營業稅ハ明治三十年前半年分ノ稅金ニ限リ減免スルコ

トヲ得

第九條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治二十年七月三十一日迄ニ申出ツヘシ若此ノ期

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル私設鐵道條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣伯耆松方正義
逕信大臣子爵野村 靖

法律第二十三號(官報 三月二十九日)

明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例中左ノ通改正ス

第六條 會社ハ其登記ノ日ヨリ六箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クモ二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス
第三十七條 會社ハ其登記ノ日ヨリ六箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手セス又ハ豫定期限及延期内ニ竣功セサルトキハ免許狀ニ其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ

〔參照〕

勅令第十二號私設鐵道條例(明治二十年五月十八日官報抄錄)

第六條 會社ハ免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クモ二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス
第三十七條 免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手セス又ハ豫定期限及延期内ニ竣功セサルトキハ免許狀ニ其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ

○

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル私設鐵道條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十六日

内閣總理大臣伯耆松方正義
逕信大臣子爵野村 靖

法律第二十四號(官報 三月二十九日)

明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例中左ノ通改正ス

第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ逕信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ增加スル場合ニ於テハ少クモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ
前項ノ旅客運賃額ヲ算定スルニ當リ一人ニ對スル最低額ヲ金三錢マテニ定ムルコトヲ得
本條例ニ依リ運賃ヲ半減スルトキ及哩數ニ對シテ運賃額ヲ定ムルトキ厘位以下端數ヲ生スルトキハ之ヲ錢位ニ切上グルコトヲ得

〔參照〕

勅令第十二號私設鐵道條例(明治二十年五月十八日官報抄錄)

第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ逕信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ增加スル場合ニ於テハ少クモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ

○

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年法律第九十二號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月九日

内閣總理大臣伯耆松方正義

法律第二十五號(官報三月三十日)

明治二十九年法律第九十二號ノ末ニ左ノ如ク追加ス

附則

會計検査院ハ當分ノ内左ノ職員ヲ増置シ本廳ニ於テ第一條ノ事務ヲ執行スルコトヲ得

部長 一員

検査官 二員

検査官補 二員

屬 若干員

〔參照〕

法律第九十二號(明治二十九年五月二日官報)抄録

第一條 臺灣地方所在官廳ノ出入歳出及官有物ニ關スル計算ヲ検査スル爲メ會計検査院ニ二部ヲ増設シ之ヲ臺灣ニ限キ會計検査院臺灣支廳ト稱ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道國有未開地處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十七日

内閣總理大臣伯耆松方正義
拓殖務大臣子爵高島綱之助

法律第二十六號(官報三月三十日)

北海道國有未開地處分法

第一條 北海道國有未開地ノ賣拂付與交換及貸付ノ處分ハ此ノ法律ニ依ル

第二條 前條ノ賣拂及貸付ハ此ノ法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外競争ニ付セス

第三條 開墾牧畜若ハ植樹等ニ供セムトスル土地ハ無償ニテ貸付シ全部成功ノ後無償ニテ付與ス

ヘシ 前項ノ貸付地面積ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ貸付地ハ全部成功ニ至ラスト雖土地整理上支障ナシト認ムル場合ニ於テハ其ノ成功地

ノ全部若ハ一部ヲ付與スルコトヲ得

第四條 公用若ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ直ニ賣拂付與又ハ有償若ハ

無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 市街地、市街線定地其ノ他土地ノ狀況ニ由リ必要ト認ムル土地ハ競争ニ付シ直ニ賣拂フ

コトヲ得

第六條 社寺地又ハ墓地ニ供セムトスル土地其ノ他事業ノ目的ニ由リ必要ト認ムル土地ハ直ニ賣

拂フコトヲ得

第七條 荒地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償若ハ無償貸付ヲナスコトヲ得

第八條 民有地ト交換スルコトヲ得ヘキ土地ハ其ノ評定價格相均キモノニ限ル

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

無償貸付 十箇年

有償貸付 十五箇年

植樹又ハ泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付スルコトヲ得

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルトキハ貸付期間ノ半

期間マテ延期スルコトヲ得

第十條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ豫定ノ事業成功ノ程度ニ從ヒ隨時其ノ成否ヲ點檢シ豫定ノ如ク成功セサルトキハ未成功地ノ全部ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部若ハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ

第十一條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ由リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價格ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償スルモノトス但シ第三條ニ依リ貸付シタル土地ニ關シテハ其ノ評定價格土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多額ナルトキハ其ノ價格ニ由リテ辨償スルモノトス

前項ニ掲グル總テノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第十二條 左ノ場合ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由ルモノ、外賣拂、付與及貸付處分ヲ取消スモノトス但シ賣拂ニ係ルモノハ其ノ既納ノ代價ヲ還付スヘシ

一 第三條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ

二 第四條及第六條ニ依リ賣拂、付與又ハ有償貸付ヲナシタル土地ニシテ三箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

三 第四條及第七條ニ依リ無償貸付ヲナシタル土地ニシテ二箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十三條 左ノ場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

一 第三條ニ依レル貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニヨリ貸付期間内ニ返還シ又ハ第十條ニ依リ返還セシメタルトキ

二 第四條及第七條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ヲ豫定ノ目的ニ使用セスシテ返還シ又ハ第十二條ノ處分ヲナシタルトキ

第十四條 第十條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付中ノ土地ヲ返還シタル場合又ハ第十二條ニ依リ賣拂、付與及貸付處分ノ取消ヲナシタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ行政廳ノ定メタル期間内ニ於テ之ヲ除去スヘシ若其ノ期間内ニ除去セサルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條 左ノ貸付地ニ限り行政廳ノ許可ヲ得テ其ノ貸付地ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シ又ハ賣買、讓與スルコトヲ得

一 第四條及第七條ニ依レル有償貸付地

二 行政廳ニ於テ特ニ指定シタル區域内ニ於ケル貸付地

三 命令ヲ以テ定メタル事項ニ該當スル貸付地

第十六條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間滿了後一箇年以内ニ其ノ土地ノ付與ヲ請求スヘシ一箇年ヲ經過シテ請求セサルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 第三條ニ依リ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ全部ヲ成功スルニ非サレハ他ノ土地ノ無償貸付ヲ受クルヲ得ス但シ相當ノ資力アリテ成功スルヲ得ル者ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 此ノ法律ニ依リ賣拂、付與又ハ交換シタル土地ハ其ノ民有トナリタル年ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス

第十九條 第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 此ノ法律ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則ニ依リ貸付中ノ土地ニ對シテモ之ヲ適用ス但シ此ノ法律施行前牧畜ノ爲ニ貸付シタル土地ニ限り五箇年以内貸付期間ヲ延期

スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ノ爲必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則及其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル成規ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル阿片法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十七日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
内務大臣 伯耆樺山資紀

法律第二十七號(官報三月三十日)

阿片法

第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 阿片製造人ハ毎年十二月二十日迄ニ其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試驗ヲ施シ其ノ莫見比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ燒却ス

第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限り封緘ヲ施シ之ヲ賣下クルモノトス

政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第四條 第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比涅含量及賠償金額竝ニ第三條ニ依リ賣下クヘキ阿片ノ價格ハ内務大臣之ヲ告示ス

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫見比涅含量ヲ増加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ

第五條 阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管内藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限り卸賣人ヲ指定シテ賣下ケシム

第六條 醫師及藥品營業者ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ數量竝ニ住所氏名年月日ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ卸賣人ヨリ購求スヘシ

醫師及製藥者ハ阿片ヲ藥劑師藥種商ヨリ購求シ又ハ藥劑師藥種商互ニ之ヲ賣買スルコトヲ得此ノ場合ニハ前項ノ證書ヲ以テスヘシ

第七條 阿片ハ前條ノ外醫師ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ

藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第八條 處方箋竝ニ第六條ノ證書ハ其ノ日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十一條 第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 阿片製造人又ハ阿片卸賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地

方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

附則

第十四條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ燒却ス

第十七條 明治十一年布告第二十一號藥用阿片買賣並ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年海軍省所管歲出臨時部臨時軍事費中支出未濟豫算額ノ繰越使用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十七日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義
海軍大臣 侯爵西郷從道

法律第二十八號 (官報 三月三十日)

明治二十九年海軍省所管歲出臨時部臨時軍事費中一時賜金及其ノ取扱ニ關スル諸費ニシテ明治二十九年度ニ於テ經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未濟ノ豫算額ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十七日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
內務大臣 伯爵樺山資紀

法律第二十九號 (官報 三月三十日)

砂防法

第一章 總則

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第四章 警察、監督及強制手續

第五章 訴願及訴訟

第六章 附則

砂防法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行

爲テ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第三條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受グルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セ

シメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石砂礫芝草竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管

轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命

令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合

ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五節 第五節 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタルトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章 附則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

〔參照〕

法律第七十一號河川法(明治二十九年四月八日官報)抄錄

第三十二條第二項

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スル

コトヲ妨ケス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水害地方地租特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十九日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第三十號(官報三月三十一日)

水害地方地租特別處分法

第一條 本法ハ明治二十九年七月ヨリ十月迄ノ洪水ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル土地ニ限リ明治二十九年分ノ地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治二十九年分ニ限リ之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

第五條 本法施行前ニ徵收シタル既納ノ地租金ハ之ヲ還附ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十年六月三十日迄ニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

第八條 此ノ法律ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登錄稅法中刪除法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第三十一號(官報三月三十一日)

明治二十九年法律第二十七號登錄稅法中第十五條及第十九條ヲ删除ス

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

法律第二十七號登錄稅法(明治二十九年三月二十八日官報)抄錄

第十五條 左ノ事項ニ付キ戶籍ニ登記スルトキハ届出人ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 左ニ列記スルモノ 金一圓

身分變換

復姓

改名

家督相續

相續人入籍

應戶主

廢嫡

分家

廢嫡者復立

絶家再興

離婚送籍

相續人送籍

私生子引受

左ニ列記スルモノ

養子女入籍

結婚入籍

金七十錢

三 左ニ列記スルモノ

戶籍訂正

戶内結婚

縁女入籍

結婚送籍

縁女送籍

養子女送籍

左ニ列記スルモノ

分家者復歸入籍

養子女離縁復籍

相續人離縁復籍

離婚復籍

縁女離縁復籍

左ニ列記スルモノ

出生

失踪者復歸

失踪者所在分明

左ニ列記スルモノ

携帶者入籍

親族入籍

附籍者入籍

携帶者送籍

親族送籍

金五十錢

金三十錢

金二十錢

金十錢

附籍者送籍

- 第十九條 無資力ニシテ左ニ掲クル者及窮民ニシテ公ノ救助ヲ受クル者ハ戸籍ノ登録稅ヲ免除ス
- 一 一定ノ職業ナク臨時日雇等ニ依リ生活スル者
 - 二 十三年未滿六十年以上ニシテ一定ノ職業ナキ者
 - 三 婦女子ニシテ一定ノ職業ナキカ又ハ他人ニ雇使セラル、者

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方 正義
陸軍大臣 臣子爵高島鞆之助
逓信大臣 臣子爵野村 靖

法律第三十二號 (官報 三月三十一日)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

一 岐阜縣下多治見ヨリ岐阜ニ至ル鐵道

政府ハ前項ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ本線ト中央線トノ管理ヲ統一スルノ必要ヲ認ムルトキハ其ノ建設實費ヲ以テ之ヲ政府ニ買收スル爲メ相當ノ條件ヲ附スヘシ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方 正義
陸軍大臣 臣子爵高島鞆之助
逓信大臣 臣子爵野村 靖

法律第三十三號 (官報 三月三十一日)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得

一 岐阜縣下太田ヨリ高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

一 富山縣下富山ヨリ新瀨縣下直江津ニ至ル鐵道

一 新瀨縣下新發田ヨリ山形縣下米澤ニ至ル鐵道線中新瀨縣下新發田ヨリ中保内ニ至ル鐵道

一 巖手縣下黑澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道線中巖手縣下黑澤尻ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ國部ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ

京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道線中兵庫縣下國部ヨリ同縣下谷川ニ至ル鐵道

一 廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

一 福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道線中大分縣下

大分ヨリ宮崎縣下宮崎ニ至ル鐵道

一福岡縣下久留米ヨリ山鹿ヲ經テ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道線中福岡縣下久留米ヨリ山鹿ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十七年法律第十五號中追加法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治三十年三月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方 正義
陸軍大臣 臣子爵高島鞆之助
遞信大臣 臣子爵野村 靖

法律第三十四號(官報三月三十一日)

明治二十七年法律第十五號第三項「福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道」ノ次ニ左ノ條項ヲ追加ス
政府ハ前項鐵道線路一部ノ敷設ヲ私設鐵道會社ニ許可スル場合ニ於テ本線路ノ全部ヲ敷設スルノ必要ヲ認ムルニ當リ其ノ會社ニ於テ之ヲ敷設ヲ爲ササルトキハ其ノ建設實費ヲ以テ本鐵道ヲ政府ニ買收シ又ハ他ノ會社ニ賣渡サシムル爲メ相當ノ條件ヲ附スヘシ

〔參照〕

法律第十五號(明治二十七年六月十二日官報)抄録
明治二十五年法律第四號鐵道敷設法律豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得
一福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道鐵道豫定線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方 正義
拓殖務大臣兼
陸軍大臣 臣子爵高島鞆之助
遞信大臣 臣子爵野村 靖

法律第三十五號(官報三月三十一日)

明治二十九年法律第九十三號北海道鐵道敷設法律豫定鐵道線路中左ノ線路ハ私設鐵道會社ニ其ノ敷設ヲ許可スルコトヲ得
一後志國小樽ヨリ渡島國函館ニ至ル鐵道

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三十日

内閣總理大臣伯爵松方正義
拓殖務大臣子爵高島綱之助
内務大臣伯爵樺山資紀

法律第三十六號(官報四月一日)

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布埤、利亞(格魯布)及ベストヲ謂フ

前項ニ掲グル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

當該吏員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近鄰ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニモ清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家及其ノ近鄰ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戸主、首長又ハ管理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出タル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乗客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用

ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得
 前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

- 一 傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト
 - 二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷スルコト
 - 三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
 - 四 古著、襪履、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト
 - 五 傳染病傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト
 - 六 船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命シ又ハ汽車船舶若ハ多數人民ノ集合スル場所ニ豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト
 - 七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厠圍ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト
 - 八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト
- 第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ
 陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ
- 第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス
- 一 豫防委員ニ關スル諸費

- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
 - 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
 - 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
 - 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料
 - 六 第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費
 - 七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費
- 其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
- 一 檢疫委員ニ關スル諸費
 - 二 船舶又ハ汽車ノ檢疫ニ關スル諸費
 - 三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費
- 其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法、消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得
- 市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得
- 第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ
- 第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助ス

ルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ期限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徴收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ期限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徴收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者第五條第二項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第二

條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

御名 御璽

明治三十年三月二十日

內閣總理大臣 伯耆松方正義
拓殖務大臣 子爵 高島鞆之助
內務大臣 伯爵 樺山資紀

法律第三十七號(官報 四月一日)

第一條 府縣都市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必

要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理並經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若クハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得

第二條 前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若クハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

第三條 此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得

第五條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三十日

內閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義
拓殖務大臣 子爵高島綱之助

法律第三十八號(官報四月一日)

臺灣銀行法

第一條 臺灣銀行ハ株式會社トス

臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設置ス

第二條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ要地ニ支店代理店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「ヨルレス」ホシテ「ス」ヲ締約スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 臺灣銀行ノ存立期間ハ設置免許ノ日ヨリ滿二十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第四條 臺灣銀行ノ資本金ハ五百萬圓以上トス

第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

第一 爲換手形其ノ他商業手形ノ割引

第二 爲換及荷爲換

第三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲手形金ノ取立

第四 確實ナル不動産ヲ抵當トシ又ハ動産ヲ質トスル貸付

第五 諸預リ金及當坐貸越勘定

第六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ

第七 地金銀ノ賣買

第八 他銀行ノ業務代理

右ノ外營業ノ都合ニ由リ國債證券、地方債券又ハ勸業債券、農工債券ヲ買入ルルコトヲ得

第六條 臺灣銀行ハ此ノ法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 政府ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條 臺灣銀行ハ五圓以上ノ無記名式一覽拂ノ手形ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ無記名式一覽拂ノ手形ノ所有者ハ臺灣銀行ノ財産ニ就キ先取特權ヲ有ス但シ其ノ順位ハ公課ノ次トス

第九條 臺灣銀行ハ無記名式一覽拂ノ手形發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ

前項準備ニ依レル外無記名式一覽拂ノ手形ヲ發行セムトスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ發行額ハ前項準備ニ依レル發行額ニ超過スルコトヲ得ス

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ無記名式一覽拂ノ手形ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ

第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル無記名式一覽拂ノ手形ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ收納ニ充ルコトヲ得

第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス

第十二條 臺灣銀行ニ頭取、副頭取各一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ四箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但

シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

第十四條 頭取、副頭取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス

第十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副頭取ハ頭取事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種トス

通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ頭取之ヲ招集ス

臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ招集スルコトヲ得

第十七條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法律上ノ代理人ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理官ヲ置キ臺灣銀行ノ業務ヲ監視セシム

第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

加ハルコトヲ得ス

第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 臺灣銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ臺灣銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此ノ法律又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

臺灣銀行ハ無記名式一覽拂手形ノ發行額及仕拂準備ニ關スル每週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第二十六條 臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第六條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二 第九條ノ規定ニ反シ手形ヲ發行シタルトキ

三 第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ

附 則

第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ置キ其ノ設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十八條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第二十九條 創立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ

第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ臺灣銀行頭取ニ引渡スヘシ

第三十一條 設立初度ノ理事及監査役ノ第十三條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ就テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地區劃改良ニ係ル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十年三月三十日

内閣總理大臣兼
大 藏 大 臣 伯 爵 松 方 正 義

法律第三十九號(官報四月一日)

政府ノ許可ヲ受ケ土地改良ノ爲市町村内ノ土地所有者ノ全部又ハ一部共同シテ其ノ區劃形狀ヲ變更スルトキハ其ノ變更ニ係ル土地ノ地價ハ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シ之ヲ定ム
同一土地所有者ニシテ地價數筆ノ土地ノ區劃形狀ヲ變更スルトキ亦同シ

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル煙草製造營業者煙草稅現金收納ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十年三月三十日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第四十號(官報四月一日)

第一條 明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第三十一條但書ノ場合ニ於テ煙草製造業者ハ煙草製造高ヲ豫定シ之ニ貼用スヘキ印紙ニ相當スル税金ヲ納付スルコトヲ得其ノ製造高及定價計算方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ納金額ハ政府ノ認許ヲ得テ之ヲ分納スルコトヲ得但明治三十一年六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

前二項ニ依レル納稅濟ノ煙草ニ對シテハ明治三十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用セス

附則

第二條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

法律第三十五號葉煙草專賣法(明治二十九年三月二十八日官報)抄錄

第三十一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル屯田兵土地給與規則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三十日

内閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島綱之助

法律第四十一號(官報四月一日)

屯田兵土地給與規則ニ左ノ四條ヲ追加ス

第九條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ土地ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

第十條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ間家族ヲシテ其ノ土地ヲ保管セシム

第十二條 此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十八年法律第二十六號改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三十日

内閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島綱之助

法律第四十二號(官報四月一日)

第一條 屯田兵ニ給與ノ建物、馬匹ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入書入ト爲シ又ハ債務ノ抵償トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ讓渡ノ許可ヲ得タルモノ及給與ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キタル建物ハ此ノ限ニアラス

第二條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ建物、馬匹ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

第三條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ建物、馬匹ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第四條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ問家族ヲシテ其ノ建物、馬匹ヲ保管セシム

第五條 第一條ハ第三條第一項及第四條ニ依リ給與ノ建物、馬匹ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

〔參照〕

法律第二十六號(明治二十八年四月二日官報)

官給ニ係ル屯田兵ノ建物及馬匹ハ之ヲ讓渡シ又ハ買入書入ト爲シ又ハ債務ノ抵償トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ス但讓渡ノ許可ヲ得タルモノ及給與ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キタル建物ハ此ノ限ニ在ラス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海上衝突豫防法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三十日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
 海軍大臣 侯爵 西鄉從道
 逓信大臣 子爵 野村 靖

法律第四十三號(官報四月一日)

明治二十五年法律第五號海上衝突豫防法中左ノ通改正ス

第七條中「總積量四十噸未満ノ汽船」ノ下「及檣樞若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未満ノ船」ヲ「總積量二十噸未満ノ帆船及檣樞ヲ以テ運轉スル船」ニ改メ同條第三項中「檣樞若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未満ノ船」ヲ「二十噸未満ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト檣樞ヲ用ウルトニ拘ハラス」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

四 檣樞ヲ以テ運轉スル船ハ檣樞ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

第九條 削除

第十五條第五項ヲ左ノ通改メ同條第六項第七項第八項及第九項ヲ削除ス

五 他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス

第二十一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十一條晝間信號第一項中及夜間信號第一項中「一砲發ヲ爲ス」ヲ「砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス」ニ改メ晝間信號第四項ヲ削除シ同第五項ヲ第四項ニ繰上ケ夜間信號第三項中「空中ニ高響及」ノ六字ヲ削除ス

附則
此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

法律第五號海上衝突豫防法(明治二十五年六月二十三日官報)抄録

第七條 總積量四十噸未満ノ汽船及揚機若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未満ノ船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若シテ揚ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

三 初機若ハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未満ノ船ハ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第九條 凡ソ漁船其ノ業ニ從事スルトキハ本條各項ノ規定ニ依ルヘシ但シ航行中ノモノ又ハ本條ニ規定ナキモノハ其積量ニ應ジテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

一 刺網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ最モ見易キ所ニ於テ二箇ノ白燈ヲ龍背線上前後ニ五尺乃至十尺ヲ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリモ六尺乃至十尺下方ニ掲クヘシ此ノ燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

二 刺網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ其ノ下方六尺乃至十二尺ノ所ニ白燈一箇ヲ増掲スヘシ此三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ正横後ノ二點マテハ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ホシ又増掲ノ白燈ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキモノタルヲ要ス

乙 總積量七噸以上ノ帆船ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキ白燈一箇ヲ掲ケル外尙少クモ三十秒時間發火スヘキ紅光燈管ヲ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ發スヘシ

丙 本項乙ニ記載スル諸船地中海ニアリテハ紅光燈管ノ代リニ他ノ閃火ヲ用ウルヲ得

本項甲乙ニ記載スル諸船ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量七噸未満ノ帆船ハ必スシモ本條第二項乙ニ記載スル白燈ヲ掲ケルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサル場合ニ於テハ白色光明ノ光ヲ發スル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ燈ヲ最モ見易キ所ニ表示シ且本條第二項乙ニ規定シタル紅光燈管ヲ發シ或ハ其ノ燈管ノ代リニ他ノ閃火ヲ發スヘシ

三 刺網漁業ニ從事スル船碇泊若ハ停留セザルトキハ刺網ヲ用井タル漁船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

四 漁船ハ本條ニ規定シタル燈火ヲ表示スルノ外何時ニテモ閃火ヲ發スルヲ得但シ線網其ノ他柁網ノ類ヲ以テ漁業ニ從事スル船ノ閃火ハ船尾ニ於テ之ヲ發スヘシ然レトモ漁具ヲ船尾ニ繋キタル場合ニ於テハ船首ニ於テ發スルヲ得

五 漁船碇泊スルトキハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ表示スヘシ

六 漁船其ノ漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ撞キタル爲メ所ニ停留スルトキハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ且碇泊船ノ霧中信號ヲ爲スヘシ

七 霧中降雪其ノ他暴雨中刺網、線網、柁網ノ類其ノ他柁網ノ業ニ從事スル漁船ニシテ總積量二十噸以上ナルトキハ汽船ナルハ汽笛又ハ汽角、帆船ナルハ霧中號角ヲ用井一分ヨリ多カラサル時間毎ニ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラ

スヘシ

八 刺網、線網又ハ編釣漁業ニ從事スル帆船運航中晝間ニアリテハ最モ見易キ所ニ藍又ハ其ノ他ノ信號ヲ掲ケ近寄ル他船ニ其ノ漁船ナルコトヲ表示スヘシ

本條諸項ノ漁船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第十五條 航行中ノ船船ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角
帆船及他船ニ引カレテ運行スル船船ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及號筒ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

五 船船普通ノ碇泊場外又ハ航行中ノ船船ニ障礙ヲ及ホス虞アル場所ニ碇泊シタルトキハ汽船ナルハ汽笛若ハ汽角ヲ用井二分時ヨリ多カラサル時間毎ニ長聲ヲ二發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラ

スヘシ又帆船ナルハ霧中號角ヲ用井一分時ヨリ多カラサル時間毎ニ二聲ヲ發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラ

スヘシ

六 他船ヲ引キテ運航スル船船ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル時間毎ニ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船船モ此ノ信號ヲ爲スハ妨

ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス

七 航路ニ餘地アリテ他船ノ航過スルニ障礙ナキコトヲ他船ニ通知セントスル汽船ハ短長短ノ三聲ヲ連發スルヲ得但シ其ノ三聲ノ間隔ハ大約一秒時タルヲ要ス

八 海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船船近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ臨ハサルカ又ハ本法ニ違テ運轉シ能ハサルトキニ際

スヘシ

九 船船航行中運轉自由ヲ得シテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ臨ハサルカ又ハ本法ニ違テ運轉シ能ハサルトキニ際

シ近寄り來ル他船ノ霧中信號ヲ閉キタルトキハ四短聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ
第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ航路及速力ヲ保ツヘシ
第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

夜間信號

- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス
- 四 夜間信號ノ部ニ規定シタル榴彈或ハ火箭ヲ打揚ク
- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス
- 三 空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一火一發ツ、度々打揚ク

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル株式會社十五銀行株式ヲ華族世襲財産ト爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三十日

内閣總理大臣伯耆松方正義

法律第四十四號(官報 四月一日)

第十五國立銀行明治二十九年法律第七號營業滿期國立銀行處分法第一條ニ依リ營業ヲ繼續シタル後ニ於テ仍ホ其ノ株式ハ華族世襲財産法第三條第二類ニ準シ世襲財産ト爲スコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遠洋漁業獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三十一日

内閣總理大臣伯耆松方正義
農商務大臣伯爵大隈重信

法律第四十五號(官報 四月二日)

遠洋漁業獎勵法

第一條 遠洋漁業ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年度十五萬圓以内ヲ支出スヘシ

第二條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登録シタル船舶ヲ以テ勅令ニ於テ指定スル漁獵又ハ漁場ノ漁業ニ従事スル者ニ限り遠洋漁業獎勵金ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

第三條 前條ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ船舶ハ木製ト鐵製トヲ問ハス登簿噸數汽船百噸以上帆船六十噸以上ニシテ農商務大臣ノ定ムル船舶噸裝規程ニ合格シ其ノ乘組員ハ總員ノ五分ノ四以上帝國臣民ヲ以テ組織シタルモノニ限ル

第四條 遠洋漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ農商務大臣ノ認許ヲ受ケヘシ
第五條 農商務大臣ハ第二條ノ出願者ニシテ漁業ノ組織確實ナリト認ムル者ニハ漁獵ノ種類又ハ漁獵ノ場所ニ依リ定率ヲ設ケ五箇年以内獎勵金ノ下付ヲ許可スルコトヲ得但シ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 汽船登簿噸數 每一噸 一箇年五圓
- 但シ登簿噸數二百五十噸以上ハ噸數ニ應シ増加セス
- 一 帆船登簿噸數 每一噸 一箇年五圓
- 但シ登簿噸數二百噸以上ハ噸數ニ應シ増加セス
- 一 乘組總員 每一人 一箇年十圓
- 但シ勅令ニ定ムル乘組定員以外及年齡十六歲未滿ノ者ヲ除ク

第六條 遠洋漁業獎勵金下付ノ許可期間ト雖一箇年中遠洋漁業ニ從事スルコト五箇月ニ滿タサルトキハ其ノ年ニ對シテハ獎勵金ヲ下付セス

第七條 左ニ記載スル船舶ヲ以テ遠洋漁業ニ從事スル者ニハ遠洋漁業獎勵金ヲ下付セス

第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登録ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶

第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第八條 農商務大臣ハ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ又ハ遠洋漁業練習生ヲ該船舶ニ乗組マシムルコトヲ得

第九條 第五條ノ許可ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ遠洋漁業獎勵金ヲ受ケ漁業ニ從事スル期間竝ニ其ノ漁業ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡交換贈與質入書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル遠洋漁業獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ農商務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第十條 遠洋漁業ノ監督及遠洋漁業練習生ヲ養成スルノ必要アルトキハ農商務大臣ハ第一條ニ掲グル金額ヨリ十分ノ一以内ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第十一條 詐偽ノ所爲ヲ以テ遠洋漁業獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル遠洋漁業獎勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第十三條 第五條ノ許可ヲ受ケタル者此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ遠洋漁業獎勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得

第十四條 前數條ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲グル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十五條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス

第十六條 此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年四月六日

內閣總理大臣 伯爵松方正義
農商務大臣 伯爵大隈重信

法律第四十六號 (官報 四月十二日)
森林法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造

林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂壤崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
 - 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
 - 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
 - 四 積雪、墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
 - 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
 - 六 魚附ニ必要ナル箇所
 - 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
 - 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
 - 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所
- 第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得
- 第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得
- 第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ

地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者並大林區署土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限リ補償ヲ求ムルコトヲ得但シ御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得

損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得シテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ攜帶スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 根株ヲ毀壞若ハ隠蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ
 七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ
 八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ
 九 差押ノ贓物ヲ隠匿若ハ消費シタルトキ
 第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス
 第四十四條 立木木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ
 第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス
 第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十九條 第二十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十圓以上ノ科料ニ處ス
 第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用井ス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス
 第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦樟腦油竊其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス
 第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅意納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得
 第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス
 第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得
 原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル
 第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要輸出品同業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年四月六日

内閣總理大臣伯耆松方正義
農商務大臣伯爵大隈重信

法律第四十七號(官報四月十二日)

重要輸出品同業組合法

- 第一條 重要輸出品ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得
- 重要輸出品及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル
- 第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲スヘシ
- 第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ五分ノ四以上ノ同意ヲ要ス
- 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地區ノ範圍及組合ニ加入スヘキ營業ノ種類ヲ指定シ若ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 同業組合ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及訴訟上原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得
- 同業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲左ノ役員ヲ置クヘシ

- 一 組長 一名
- 一 副組長 一名
- 一 評議員 若干名

役員ハ組合員中ヨリ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 同業組合又ハ同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規程ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキ検査規程ヲ設ケシムルコトヲ得

第十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ニ於テ違約者ニ對シ過怠金ヲ徴スルノ必要アルトキハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並ニ徴收法ハ各其ノ定款ノ規程ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算貸借對照表及業務成績ハ毎年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ業務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又主務官廳ノ諮問アルトキハ調査報告ヲ爲スヘシ

第十三條 同業組合及同業組合聯合會ハ農商務大臣ノ命シタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得又其ノ質問ニ對シ確實ニ答辯スヘキモノトス

第十四條 農商務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會又ハ其ノ役員ノ行爲若ハ同業組合會議及同業組合聯合會會議ノ決議ニシテ法律命令ニ違背シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ同業組合及同業組合聯合會ノ目的ニ違背スルモノト認ムルトキ又ハ此ノ法律ニ依リ農商務大臣ノ命スル事項ヲ執行セサルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 同業組合及同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止
- 二 役員ノ全部又ハ一部ノ改選
- 三 決議ノ取消

第十六條 同業組合及同業組合聯合會解散ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 第四條第十三條ノ規程ニ違背シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

過料ハ同業組合及同業組合聯合會ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規程ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ效力ヲ有ス

第十八條 同業組合若ハ同業組合聯合會ノ檢査證ヲ營業品ニ偽リテ附シタル者又ハ偽造若ハ模造ノ檢査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十九條 輸出ニ屬セサル物品ト雖同業者ニ於テ必要ト認ムルトキハ仍本法ヲ準用スルコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル生絲直輸出獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年四月二十二日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
農商務大臣伯爵大隈重信

法律第四十八號(官報四月二十七日)

生絲直輸出獎勵法

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ左ノ條件ヲ具備スル生絲ヲ外國ニ直輸出シタル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ生絲直輸出獎勵金ヲ下付ス

一 帝國内ニ於テ製造シタルモノナルコト

一 登録商標ヲ貼付シタルモノナルコト

一 勅令ヲ以テ定メラレタル檢査規定ニ合格シタルモノ毎回五百斤以上ナルコト

第二條 獎勵金ヲ受クヘキ生絲ノ等級及其ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 詐欺ノ所爲ヲ以テ生絲直輸出獎勵金ヲ受ケタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ因テ得タル金額ハ之ヲ償還セシメ爾後生絲獎勵金ヲ下付セス

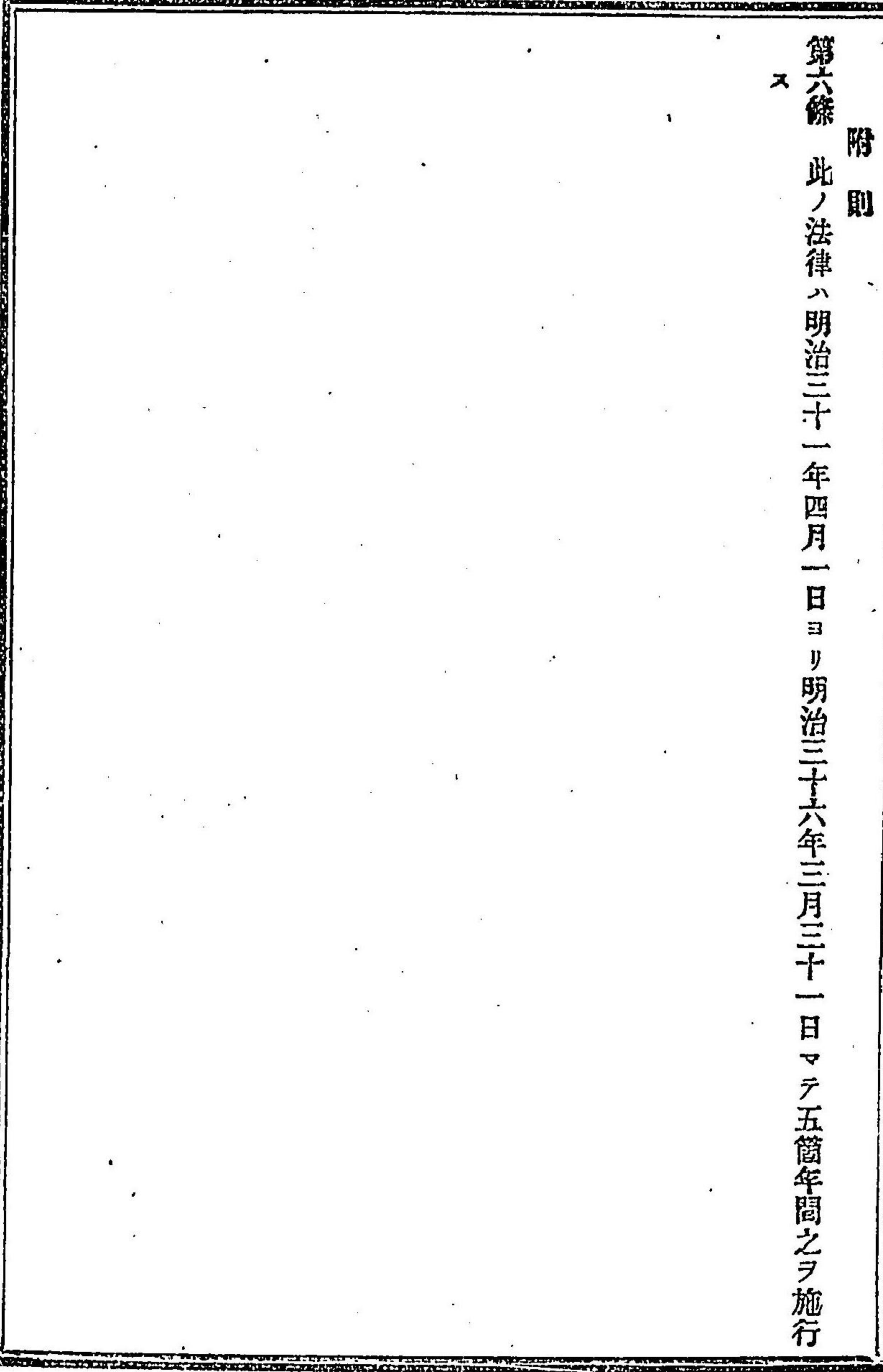
前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ所斷ス

第四條 前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第五條 此ノ法律施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第六條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ明治三十六年三月三十一日マテ五箇年間之ヲ施行ス



朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル古社寺保存法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年六月五日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
内務大臣 伯耆樺山資紀

法律第四十九號 (官報 六月十日)

古社寺保存法

- 第一條 古社寺ニシテ其ノ建造物及寶物類ヲ維持修理スルコト能ハサルモノハ保存金ノ下付ヲ内務大臣ニ出願スルコトヲ得
- 第二條 國費ヲ以テ補助保存スヘキ社寺ノ建造物及寶物類ハ歴史ノ證徴、由緒ノ特殊又ハ製作ノ優秀ニ就キ古社寺保存會ニ諮詢シテ内務大臣之ヲ定ム
- 第三條 前條ノ建造物及寶物類ノ修理ハ地方長官之ヲ指揮監督ス
- 第四條 社寺ノ建造物及寶物類ニシテ特ニ歴史ノ證徴又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ古社寺保存會ニ諮詢シ内務大臣ニ於テ特別保護建造物又ハ國寶ノ資格アルモノト定ムルコトヲ得
- 第五條 特別保護建造物及國寶ハ之ヲ處分シ又ハ差押フルコトヲ得ス但シ内務大臣ノ許可ヲ得テ國寶ヲ公開ノ展覽場ニ出陳スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 前條ノ物件ハ神職(官國幣社ニ在テハ官司、府縣郷社ニ在テハ)若ハ住職之ヲ監守シ内務大臣ノ監督ニ屬スルモノトス但シ内務大臣ノ許可ヲ經テ別ニ監守者ヲ置クコトヲ得
- 第七條 社寺ハ内務大臣ノ命ニ依リ官立又ハ公立ノ博物館ニ國寶ヲ出陳スルノ義務アルモノトス

但シ祭典法用ニ必要ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ命ニ對シテハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ニ依リ國寶ヲ出陳シタル社寺ニハ命令ニ定メタル標準ニ從ヒ國庫ヨリ補給金ヲ支給スルモノトス

第九條 神職任職其ノ他ノ監守者ニシテ内務大臣ノ命ニ違背シ國寶ヲ出陳セサルトキハ内務大臣

ハ其ノ出陳ヲ強要スルコトヲ得

第十條 社寺ニ下付シタル保存金ハ地方長官之ヲ管理ス

保存金ハ豫算額ヲ以テ之ヲ下付ス但シ精算ノ上剩餘アルトキハ内務大臣ハ之ヲ還付セシムルコトヲ得

第十一條 社寺ニ下付シタル保存金ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十二條 第十條及第十一條ノ保存金ハ其ノ利子ヲ包含スルモノトス

第十三條 監守者其ノ監守スル所ノ國寶ヲ竊取シ、毀棄シ、隱匿シ若ハ他ノ物件ト變換シ又ハ第五

條ノ規定ニ違背シタルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條ノ物件ナルコトヲ知リテ之ヲ讓受ケ、借受ケ、擔保ニ取リ、寄藏シ若ハ其ノ牙保ヲ爲シタル

者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 監守者怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處

ス

過料ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規定ヲ準用ス但シ此

ノ場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ效力ヲ有ス

第十五條 第七條ニ依リ出陳シタル國寶ノ監守者故意怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキ

ハ國庫ハ命令ニ定メタル評價ノ方法ニ從ヒ其ノ損害ヲ賠償スルモノトス但シ其ノ評價額ニ關シ

テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十六條 本法ニ定メタル保存金及補給金トシテ國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ一箇年拾五萬圓乃至

貳拾萬圓トス

附則

第十七條 本法施行前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シ内務大臣ハ第十條乃至第十二條ヲ適用スル

コトヲ得

第十八條 第四條ニ該當スル物件ハ社寺ニ屬セサルモノト雖所有者ノ請求アルトキハ第七條第一

項ニ掲ケタル博物館ニ出陳スルコトヲ許可シ之ニ補給金ヲ支給スルコトヲ得

第十九條 名所舊蹟ニ關シテハ社寺ニ屬セサルモノト雖仍本法ヲ準用スルコトヲ得

第二十條 本法施行上必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル家祿賞典祿處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年十月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第五十號(官報十一月二日)

家祿賞典祿處分法

第一條 明治三年九月十日太政官布告藩制施行以後家祿賞典祿ヲ有シタル者及其ノ家名承繼人ニシテ明治九年八月太政官第百八號布告及同年十二月太政官第百五十二號布告施行ノ際其ノ祿高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケサル者若ハ相當額ノ給與ニ不足アル者明治四年七月二十四日祿高ニ關スル太政官布告ニ依リ調査シタル以後ノ祿高及其ノ調査以前ニ係ル藩制施行以後ノ祿高ニ錯誤アルトキハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ本人又ハ其ノ家名承繼人ニ限リ其ノ給與未濟額ヲ明治九年八月太政官第百八號布告第一條及同年十二月太政官第百五十二號布告ノ率ニ據リ換算シ其ノ元金額ヲ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ給與ス

但シ常事犯ノ爲沒祿若ハ減祿セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 明治六年十二月太政官第四百二十五號布告ニ據リ處分ヲ受ケタル者ニシテ其ノ祿高ニ對スル相當額ノ給與ニ不足アル者ハ其ノ本人及本法施行ノ日ニ於テ現ニ其ノ家名承繼人タル者ニ限リ其ノ給與未濟額ヲ明治六年十二月太政官第四百二十六號布告第一條ノ率ニ據リ換算シ其ノ元金額ヲ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ給與ス

第三條 第一條及第二條ノ祿高ヲ金額ニ換算スルハ明治八年九月太政官第百二十八號布告ニ據リ取調ヘタル既定ノ石代相場ニ據ル

第四條 第一條及第二條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

但シ本法施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ願出サルトキハ本法ノ給與ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 此ノ法律ニ抵觸スル法律命令ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フモノトス

〔參照〕 明治四年七月二十四日太政官布告(抄録) 令般各藩被廢候ニ付テハ大藏省官員出張會計向夫々權取調可相成候(共差向キ從來ノ借債ヲ始別紙雛形ノ條々迅速取調杜復日數ノ外十五日ヲ限リ大藏省へ可差出尤尋問即答相成候者持差可致事(別紙略ス)

明治六年十一月二日太政官第四百二十五號布告(抄録) 士族卒在官ノ外自今農工商ノ職業相替候被差許候旨去ル明治四年辛未十二月布告候處籍録ノ者資本金無之ヨリ其志ヲ違フ候輩モ有之儀ニ相聞候ニ付特別ノ尋ヲ以テ別冊ノ通方法相替家藏寶典發行石未滿ノ者ニ限リ奉還屆候條望ノ者ハ其管轄廳へ可願出此旨士族並ニ元卒へ布告スヘキ事(別冊ハ大)

明治六年十一月二日太政官第四百二十六號布告(抄録) 士族以下家藏寶典發行石未滿ノ者願出次第奉還屆候旨及布告候ニ付別冊方法ノ通相心得夫々處分可致此旨相違候事(別冊ハ大)

明治八年七月七日太政官第三百三十八號布告 士族平民家藏寶典發行本年ヨリ米價ノ稱呼ヲ廢シ每地方ノ買納石代相替明治五年ヨリ七年マテ三箇年ノ平均ヲ以テ金際ニ改定支給候條此旨布告候事

但支給ノ方法順序等ノ儀ハ追テ可相違事 明治九年五月太政官第四百八號布告ハ金際公債證書發行條例ナリ

明治九年十一月太政官第五百二十二號布告 家藏寶典發行石未滿ノ者願出次第奉還屆候旨及布告候ニ付別冊方法ノ通相心得夫々處分可致此旨相違候事(別冊ハ大)

明治九年十一月太政官第五百二十二號布告 家藏寶典發行石未滿ノ者願出次第奉還屆候旨及布告候ニ付別冊方法ノ通相心得夫々處分可致此旨相違候事(別冊ハ大)

明治九年十一月太政官第五百二十二號布告 家藏寶典發行石未滿ノ者願出次第奉還屆候旨及布告候ニ付別冊方法ノ通相心得夫々處分可致此旨相違候事(別冊ハ大)

法令全書

豫算

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年一月二十四日

内閣總理大臣兼 大藏大臣 伯爵松方正義

豫算

明治二十九年年度歳出追加額ヲ七拾萬圓ト定ム其ノ款項ハ別冊歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

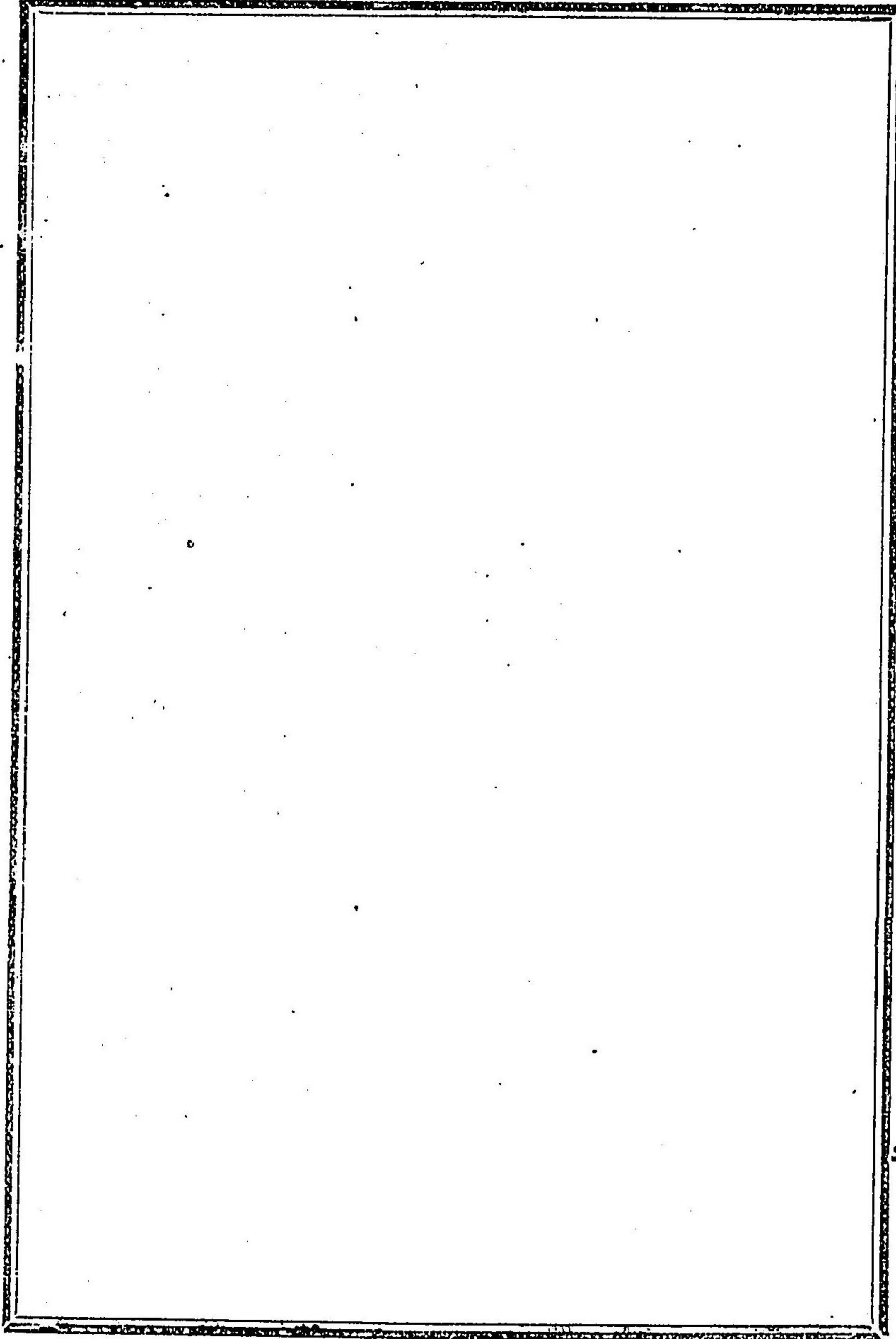
歳出臨時部

第一款 皇室費

金七拾萬圓

第一項 大喪費

金七拾萬圓



朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月三日(官報二月四日)

内閣總理大臣兼
大藏大臣 伯耆松方正義

豫算

第一條 明治二十九年年度歳入追加額ヲ參拾九萬參千七百五拾圓歳出追加額ヲ八拾六萬五千貳百貳圓拾六錢五厘ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ
第二條 明治二十九年年度歳出豫算追加中別冊乙號所掲ノ費途ハ其ノ規畫スル所ニ隨ヒ明治三十年度ニ互ル繼續費ト爲ス

(別冊)

甲號

歳入經常部

第五款 預金利息繰入

金參拾九萬參千七百五拾圓

第一項 預金利息繰入

金參拾九萬參千七百五拾圓

歳出經常部

外務省所管

第一款 外務本省

金壹萬貳千參百八拾七圓

第九項 電信料

金壹萬貳千參百八拾七圓

第二款 在外公館

- 第一項 俸給及諸給 金七萬八千七百四拾六圓
- 第二項 廳費 金貳萬四千五百六拾八圓
- 第三項 修繕費 金四千四百七拾七圓
- 第八項 既約備外國人諸給 金五百四拾九圓
- 第九項 既約地所家屋借料 金八百貳拾九圓
- 第十項 旅費 金四千七百參拾六圓
- 第十一項 雜給及雜費 金貳萬五千五百圓
- 第十二項 電信料 金貳千五百五拾四圓
- 第十三項 宴會費 金壹萬參千九百圓

外務省所管合計金九萬千百參拾參圓

內務省所管

- 第十六款 橫濱港維持費 金貳千六百參圓七拾六錢
- 第一項 俸給及諸給 金四百六拾圓
- 第二項 廳費 金九拾六圓六拾壹錢
- 第三項 修繕費 金貳拾五圓
- 第四項 死傷手當 金貳圓五拾錢
- 第五項 賠償及訴訟費 金貳圓
- 第六項 旅費 金參拾五圓四拾錢
- 第七項 雜給及雜費 金百八拾九圓參錢
- 第八項 港灣維持費 金千七百九拾參圓貳拾貳錢

大藏省所管

- 第二款 國債 金參拾九萬參千七百五拾圓
- 第二項 預金利息 金參拾九萬參千七百五拾圓
- 陸軍省所管
 - 第二款 軍事費 金四萬參千八百八拾壹圓七拾七錢參厘
 - 第十二項 修繕費 金四萬參千八百八拾壹圓七拾七錢參厘
 - 第三款 憲兵費 金八百參拾五圓五拾壹錢六厘
 - 第七項 修繕費 金八百參拾五圓五拾壹錢六厘
- 陸軍省所管合計金四萬四千七百拾七圓貳拾八錢九厘
- 遞信省所管
 - 第一款 遞信本省 金參千六百參拾參圓四拾貳錢
 - 第二款 廳費 金百九拾四圓八拾八錢
 - 第七項 旅費 金貳千五百參拾八圓五拾四錢
 - 第八項 雜給及雜費 金九百圓
- 歲出經常部合計金五拾參萬五千八百參拾七圓四拾六錢九厘
- 歲出臨時部
 - 外務省所管 金貳萬七千四百七拾五圓
 - 第一款 營繕費 金貳萬七千四百七拾五圓
 - 第三項 地所家屋購買費 金貳萬七千四百七拾五圓
 - 內務省所管 金六百圓
 - 第五款 府縣

第三項 消毒器械其他運搬費	金六百圓
第八款 營繕費	金貳萬九千八百八拾參圓四拾五錢壹厘
第五項 女神檢疫所改築費	金貳萬九千八百八拾參圓四拾五錢壹厘
內務省所管合計金貳萬九千七百八拾參圓四拾五錢壹厘	
大藏省所管	
第十款 特別給與金	金貳千九百四拾參圓九錢六厘
第一款 特別給與金	金貳千九百四拾參圓九錢六厘
陸軍省所管	
第八款 臨時陸軍建築部費	金七千七百九拾五圓五拾四錢
第五項 旅費	金七千七百九拾五圓五拾四錢
海軍省所管	
第二款 土木費	金拾八萬參千九百四拾八圓五拾七錢五厘
第一款 吳鎮守府建築費	金拾八萬參千九百四拾八圓五拾七錢五厘
第三款 營繕費	金五萬五千四百參拾貳圓八拾九錢四厘
第三款 吳鎮守府造船部工場火災營繕費	金五萬五千四百參拾貳圓八拾九錢四厘
海軍省所管合計金貳拾參萬九千參百八拾壹圓四拾六錢九厘	
文部省所管	
第一款 營繕費	金壹萬六千七百貳拾壹圓拾六錢五厘
第三款 新營費	金壹萬六千七百七圓四拾錢
第四項 修繕費	金六百拾參圓七拾六錢五厘
第八款 測地事業報告費	金五百九圓六拾六錢

第一項 測地事業報告費	金五百九圓六拾六錢
文部省所管合計金壹萬七千貳百參拾圓八拾貳錢五厘	
遞信省所管	
第三款 臨時外國行諸費	金四千七百五拾五圓參拾壹錢五厘
第三款 萬國聯合郵便大會議費	金四千七百五拾五圓參拾壹錢五厘
歲出臨時部合計金參拾貳萬九千參百六拾四圓六拾九錢六厘	
歲出總計金八拾六萬五千貳百貳圓拾六錢五厘	
(別冊)	
乙號	
第一	
女神檢疫所改築費	
總額	
金四萬四千六百參拾七圓六錢參厘	款營繕費
金四萬四千六百參拾七圓六錢參厘	項 女神檢疫所改築費
年額	
明治二十九年度	款營繕費
金貳萬九千八百八拾參圓四拾五錢壹厘	項 女神檢疫所改築費
金貳萬九千八百八拾參圓四拾五錢壹厘	款營繕費
明治三十年度	項 女神檢疫所改築費
金壹萬五千四百五拾參圓六拾壹錢貳厘	款營繕費

金壹萬五千四百五拾參圓六拾壹錢貳厘

項 女神檢疫所改築費

萬國聯合郵便大會議參會費

總額

金壹萬六千六百九圓七拾六錢

款 臨時外國行諸費

金壹萬六千六百九圓七拾六錢

項 萬國聯合郵便大會議參會費

年額

明治二十九年

款 臨時外國行諸費

金四千七百五拾五圓參拾壹錢五厘

項 萬國聯合郵便大會議參會費

明治三十年

款 臨時外國行諸費

金壹萬千八百五拾四圓四拾四錢五厘

項 萬國聯合郵便大會議參會費

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年

御名 御璽

明治三十年二月三日(官報二月四日)

内閣總理大臣兼大藏大臣 伯喬松方正義

豫算

明治二十九年

(別冊)

歲出臨時部

大藏省所管

第四款 法典調査會

金九千七百六拾圓

第一項 廳費

金四百五圓

第二項 修繕費

金參拾圓

第三項 雜給及雜費

金九千參百貳拾五圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年

御名 御璽

明治三十年二月三日(官報二月四日)

内閣總理大臣兼大藏大臣 伯喬松方正義

豫算

明治二十九年

(別冊)

歲出經常部

海軍省所管

第二款 軍事費

金壹萬七千貳百八拾八圓貳拾參錢

第二十項 旅費

金壹萬七千貳百八拾八圓貳拾參錢

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年各特別會計歳入歳出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月三日(官報二月四日)

内閣總理大臣兼 伯耆松方正義
大藏大臣

各特別會計豫算

明治二十九年大藏省所管大藏省預金利子文部省所管高等商業學校、札幌農學校、東京工業學校各歳入歳出豫算追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

大藏省所管

大藏省預金利子

歳出

第一款 歳入經常部繰入

金參拾九萬參千七百五拾圓

第一項 預金利子繰入

金參拾九萬參千七百五拾圓

文部省所管

高等商業學校

歳入

經常部

第一款 高等商業學校

金千參百貳拾圓

第二項 諸收入

金千參百貳拾圓

歳出

經常部

第一款 高等商業學校

金千參百貳拾圓

第二項 廳費

金千參百貳拾圓

札幌農學校

歳入

經常部

第二款 實驗農場收入

金貳千八百九拾五圓

第二項 生産物收入

金貳千八百九拾五圓

歳出

經常部

第二款 實驗農場

金貳千八百九拾五圓

第二項 修繕費

金貳千八百九拾五圓

東京工業學校

歳入

經常部

第二款 實驗製品場收入

金貳千圓

第一項 製品收入

金貳千圓

歳出

經常部

第一款 實驗製品場

金貳千圓

第一項 廳費

金千百圓

第二項 雜給及雜費

金九百圓

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十九年年度特別會計歳入歳出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月三日(官報二月四日)

内閣總理大臣兼 伯耆松方正義
大藏大臣

特別會計豫算

明治二十九年年度逓信省所管官設鐵道歳入歳出豫算追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

逓信省所管

官設鐵道

歳入

第一款 鐵道作業收入

金七拾八萬千七百貳拾六圓

第一項 運輸收入

金七拾八萬千七百貳拾六圓

歳出

第一款 鐵道作業費

金七拾六萬九千貳百參拾四圓八拾七錢貳厘

第五項 諸拂戻金

金貳拾貳萬七千八百四拾七圓貳拾六錢四厘

第六項 事業費

金五拾四萬千參百八拾七圓六拾錢八厘

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十九年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年二月十九日(官報二月二十日)

内閣總理大臣兼 伯耆松方正義
大藏大臣

豫算

明治二十九年年度歳出追加額ヲ八萬貳千九百八圓參拾五錢九厘ト定ム其ノ款項金額ハ別冊歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

歳出經常部

内務省所管

第六款 痘苗製造所

金參萬貳千參百貳拾八圓八拾四錢

第二項 廳費

金貳千四百圓

第六項 旅費

金千四百七拾五圓四錢

第七項 雜給及雜費

金千六百參拾圓

第八項 調製諸費

金貳萬六千八百貳拾參圓八拾錢

歳出臨時部

内務省所管

第二款 神社費補助

金四百壹圓貳拾四錢九厘

- 第一項 神社費補助 金四百壹圓貳拾四錢九厘
- 第八款 營繕費 金九百四拾八圓四拾參錢
- 第四項 修繕費 金九百四拾八圓四拾參錢
- 第十四款 傳染病豫防費 金四萬九千貳百貳拾九圓八拾四錢
- 第二項 臨時檢疫部費 金四萬九千貳百貳拾九圓八拾四錢
- 內務省所管合計金五萬五百七拾九圓五拾壹錢九厘
- 歲出總計金八萬貳千九百八圓參拾五錢九厘

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年年度歲入歲出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三日(官報三月四日)

內閣總理大臣兼 大藏大臣 伯爵松方正義

豫算

明治二十九年年度歲入追加額ヲ九拾六萬參千五百拾圓貳拾貳錢七厘歲出追加額ヲ八百參拾壹萬貳千貳百四圓五拾八錢九厘ト定ム其ノ款項金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

- 第五款 歲入臨時部 金九拾六萬參千五百拾圓貳拾貳錢七厘
- 第一項 中央備荒儲蓄金繰入 金九拾六萬參千五百拾圓貳拾貳錢七厘
- 內務省所管
- 第四款 土木事業費 金四萬參千四百拾五圓七錢九厘
- 第二十二項 富士川修築工修繕費 金四萬參千四百拾五圓七錢九厘
- 第十二款 水害費 金八百七拾萬五千參百四拾參圓拾七錢五厘
- 第一項 府縣水害諸費 金貳萬參百四拾參圓拾七錢五厘
- 第二項 富山縣水害土木費補助 金八拾六萬千圓

- 第三項 新潟縣水害土木費補助 金四拾四萬五千圓
- 第四項 石川縣水害土木費補助 金五拾五萬九千圓
- 第五項 岐阜縣水害土木費補助 金參拾八萬千圓
- 第六項 福井縣水害土木費補助 金參拾貳萬九千圓
- 第七項 京都府水害土木費補助 金六拾萬四千圓
- 第八項 和歌山縣水害土木費補助 金拾壹萬五千圓
- 第九項 大阪府水害土木費補助 金拾七萬五千圓
- 第十項 神奈川縣水害土木費補助 金九萬七千圓
- 第十一項 埼玉縣水害土木費補助 金八萬貳千圓
- 第十二項 群馬縣水害土木費補助 金貳拾萬五千圓
- 第十三項 茨城縣水害土木費補助 金拾五萬千圓
- 第十四項 栃木縣水害土木費補助 金參拾七萬貳千圓
- 第十五項 奈良縣水害土木費補助 金拾壹萬七千圓
- 第十六項 三重縣水害土木費補助 金貳拾壹萬千圓
- 第十七項 愛知縣水害土木費補助 金貳拾六萬貳千圓
- 第十八項 山梨縣水害土木費補助 金貳拾五萬五千圓
- 第十九項 滋賀縣水害土木費補助 金四拾六萬五千圓
- 第二十項 長野縣水害土木費補助 金四拾參萬參千圓
- 第二十一項 宮城縣水害土木費補助 金六萬九千圓
- 第二十二項 福島縣水害土木費補助 金貳拾八萬八千圓
- 第二十三項 青森縣水害土木費補助 金八萬六千圓

- 第二十四項 香川縣水害土木費補助 金拾貳萬參千圓
- 第二十三款 震災及水害費 金參拾六萬九千參百拾八圓九拾錢
- 第一項 秋田縣震災及水害費 金參百拾八圓九拾錢
- 第二項 櫻手縣震災及水害土木費補助 金貳拾九萬五千圓
- 第三項 秋田縣震災及水害土木費補助 金七萬四千圓
- 內務省所管合計金七百拾壹萬八千七拾七圓拾五錢四厘
- 大藏省所管
 - 第一款 中央備荒儲蓄金補助 金百拾九萬四千百貳拾七圓四拾參錢五厘
 - 第一項 中央備荒儲蓄金補助 金百拾九萬四千百貳拾七圓四拾參錢五厘
- 歲出臨時部合計金八百參拾壹萬貳千貳百四圓五拾八錢九厘

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年年度特別會計歲入歲出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治三十年三月三日(官報 三月四日)

內閣總理大臣兼 大藏大臣 伯耆松方正義

特別會計豫算
明治二十九年年度大藏省所管中央備荒儲蓄金歲入歲出豫算追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

大藏省所管

中央備荒儲蓄金

歳入

第一款 中央備荒儲蓄金收入

金九拾六萬貳千六百四拾八圓五拾錢

第三項 雜收入

金九拾六萬貳千六百四拾八圓五拾錢

歳出

第一款 中央備荒儲蓄金支出

金九拾六萬參千五百拾圓貳拾貳錢七厘

第一項 府縣備荒儲蓄金補助

金九拾六萬參千五百拾圓貳拾貳錢七厘

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十九年歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月三日(官報三月四日)

内閣總理大臣兼大藏大臣 伯爵松方正義

豫算

明治二十九年歳出追加額ヲ貳萬五千圓ト定ム其ノ款項ハ別冊歳出豫算ニ據ルヘシ

(別冊)

歳出臨時部

農商務省所管

第九款 獸疫費

金貳萬五千圓

第一項 獸疫費

金貳萬五千圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治三十年歳入歳出總豫算並明治三十年歳各特別會計歳入歳出豫算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十年三月二十四日(官報三月二十七日)

内閣總理大臣兼大藏大臣 伯爵松方正義

豫算

第一條 明治三十年歳ノ歳入總額ヲ貳億四千五百九拾九萬九千四百八拾貳圓六拾貳錢歳出總額ヲ貳億四千五百九拾萬五千九百貳拾六圓拾八錢七厘ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歳入豫算歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其ノ規畫スル所ニ隨ヒ明治三十年歳以降ノ繼續費ト爲シ若ハ既定ノ年限金額ヲ改定ス

第三條 明治三十年歳出豫算中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌明治三十一年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第四條 明治三十年歳ニ於テ發行スル大藏省證券ノ最高額ハ貳千八百萬圓ト定ム

(別冊)

甲號

歲入經常部

第一款 租稅	金九千八百四十四百五拾九圓拾七錢九厘
第一項 地租	金參千八百六拾六萬八千九百九拾壹圓拾參錢
第二項 所得稅	金百九拾萬五千六百九拾六圓拾貳錢參厘
第三項 酒稅	金貳千九百八拾貳萬參千八百五拾貳圓八拾參錢六厘
第四項 酒精營業稅	金八千五百五拾六圓拾八錢八厘
第五項 煙草稅	金貳百貳拾參萬四千四百拾六圓八拾六錢七厘
第六項 證券印稅	金九拾八萬千貳百八拾四圓參拾壹錢壹厘
第七項 醬油稅	金百四拾七萬九千九百九拾四圓七拾四錢六厘
第八項 沖繩縣酒類出港稅	金四萬六千參百拾圓九拾九錢九厘
第九項 取引所稅	金六拾八萬四千壹圓參拾壹錢六厘
第十項 國立銀行稅	金拾壹萬七千九拾六圓貳拾參錢四厘
第十一項 賣藥稅	金八拾參萬七千參百貳拾八圓九拾九錢九厘
第十二項 船稅	金拾圓八拾七錢貳厘
第十三項 鑛業稅	金貳拾八萬千圓八拾四錢九厘
第十四項 北海道水產稅	金參拾六萬六千貳拾參圓參拾錢貳厘
第十五項 狩獵免許稅	金拾四萬九千六百六拾六圓六拾錢
第十六項 營業稅	金五百八拾七萬四千六百六拾八圓四拾八錢七厘
第十七項 海關稅	金六百六拾貳萬六千八百貳拾九圓參拾貳錢
第二款 印紙收入	金七百五拾貳萬五千六百拾六圓拾壹錢壹厘
第一項 印紙收入	金七百五拾貳萬五千六百拾六圓拾壹錢壹厘

第三款 官業及官有財產收入

第一項 葉煙草專賣收入	金貳千貳拾八萬五千九拾八圓參拾四錢壹厘
第二項 官報收入	金八拾五萬九千六百九拾八圓
第三項 稅關雜收入	金拾八萬五千七拾七圓八拾五錢
第四項 北海道廳種畜場收入	金貳拾萬千七百貳拾六圓九拾壹錢壹厘
第五項 森林收入	金九百七拾壹圓參拾貳錢八厘
第六項 郵便電信收入	金百參拾五萬九千七百七拾參圓貳錢貳厘
第七項 囚徒工錢及製作收入	金千貳百拾參萬貳千參拾七圓四拾九錢四厘
第八項 藥用阿片拂下代	金貳拾五萬八千九百四拾貳圓參拾壹錢
第九項 官有物貸下料	金壹萬五千八百拾參圓九拾錢
第十項 度量衡原器拂下代	金參拾九萬五千六百拾圓六拾錢四厘
第十一項 造幣局益金	金百壹圓參拾貳錢壹厘
第十二項 印刷局益金	金貳拾七萬五百八拾九圓五錢壹厘
第十三項 鑛山益金	金拾六萬七千七百七拾七圓八拾參錢參厘
第十四項 千住製絨所益金	金千九百參拾五圓
第十五項 鐵道益金	金貳千七百七拾參圓五拾七錢五厘
第十六項 電信鐵道用品製造所益金	金五百四拾貳萬五千七百七拾參圓參拾八錢七厘
第四款 雜收入	金參千九拾六圓七拾五錢五厘
第一項 諸免許及手数料	金七拾九萬五千參百八拾六圓九拾錢八厘
第二項 懲罰及沒收金	金四千九百七拾四圓八拾六錢七厘
第三項 辨償金	金貳拾八萬七千六百參拾四圓七錢六厘
	金七萬八千貳百參拾壹圓七拾四錢四厘

第四項 雜入	金貳拾七萬五千八拾五圓五拾六錢壹厘
第五項 官吏遺族扶助法納金	金拾貳萬貳千六百四拾八圓八拾七錢四厘
第六項 學校長正教員退職及遺族扶助法納金	金壹萬六千百圓四拾參錢八厘
第七項 沖繩縣地方收入	金壹萬八拾參圓貳拾五錢六厘
第八項 小笠原島地方收入	金六百貳拾八圓九錢貳厘
第五款 預金利息繰入	金百七拾貳萬四千八百八拾五圓
第一款 預金利息繰入	金百七拾貳萬四千八百八拾五圓
歲入經常部合計金壹億貳千四百拾壹萬貳百四拾五圓五拾參錢九厘	
歲入臨時部	
第一款 官有物拂下代	金五拾五萬七千八百參拾壹圓八拾五錢四厘
第二款 鑛山拂下代	金貳拾五萬參千九百貳拾八圓
第三款 地所拂下代	金參萬五千五百六拾四圓四拾五錢
第四款 建物拂下代	金六千四百貳拾七圓參錢參厘
第五款 物品拂下代	金貳拾壹萬七千參拾五圓貳錢五厘
第六款 家畜拂下代	金壹萬九千九百九拾七圓四拾四錢六厘
第七款 嶼內嶼山所屬物件及嶼內嶼春別嶼道拂下代	金貳萬八千七百七拾九圓九拾錢
第二款 雜收入	金貳拾九萬八千七百六拾七圓六拾八錢貳厘
第一款 海軍受托造修船收入	金拾萬七千六拾四圓六拾六錢貳厘
第二款 返納金	金拾八萬四千四百貳拾參圓貳錢
第三款 雜入	金七千貳百八拾圓
第三款 公債證券製造及發行費繰入	金八千參百五拾七圓五拾八錢九厘

第一款 整理公債證券製造及發行費繰入	金八千參百五拾七圓五拾八錢九厘
第四款 製鐵費補足金	金貳百九萬九千五百拾九圓五拾九錢壹厘
第一款 御下付金	金參拾萬圓
第二款 納付金	金百七拾九萬九千五百拾九圓五拾九錢壹厘
第五款 威海衛守備費償却金	金七拾五萬圓
第一款 威海衛守備費償却金	金七拾五萬圓
第六款 地方分擔納付金	金參拾六萬千參百圓
第一款 地方分擔納付金	金參拾六萬千參百圓
第七款 公債募集金	金六千百參拾貳萬九千五百圓
第一款 公債募集金	金六千百參拾貳萬九千五百圓
第八款 前年度繰入金	金千五拾七萬參千七百八拾參圓貳拾貳錢七厘
第一款 前年度繰入金	金千五拾七萬參千七百八拾參圓貳拾貳錢七厘
第九款 償金繰入	金四千參百貳拾壹萬百七拾七圓拾參錢八厘
第一款 償金繰入	金四千參百貳拾壹萬百七拾七圓拾參錢八厘
歲入臨時部合計金壹億千九百拾八萬九千貳百參拾七圓八錢壹厘	
歲入總計金貳億四千五百拾九萬九千四百八拾貳圓六拾貳錢	
歲出經常部	
第一款 皇室費	金參百萬圓
外務省所管	金參百萬圓

第一款 外務本省	金拾六萬六千參百九拾七圓八拾五錢壹厘
第一項 俸給及諸給	金六萬九千九百七拾五圓
第二項 廳費	金壹萬六千九百九拾四圓八錢六厘
第三項 修繕費	金四千貳百五拾四圓五拾四錢五厘
第四項 死傷手當	金拾圓
第五項 賠償及訴訟費	金拾圓
第六項 既約備外國人諸給	金七千貳百圓
第七項 旅費	金千貳百六拾八圓
第八項 雜給及雜費	金壹萬九千九百參拾七圓貳拾貳錢
第九項 電信料	金四萬八千九百四拾九圓
第十項 宴會費	金參千圓
第十一項 備外國人諸給	金貳千八百圓
第二款 在外公館	金百參拾貳萬八千四百拾八圓四拾六錢
第一項 俸給及諸給	金七拾六萬七千四百拾壹圓拾參錢壹厘
第二項 廳費	金七萬參千四百貳拾八圓拾五錢五厘
第三項 修繕費	金壹萬貳千百參拾六圓八錢參厘
第四項 裁判及囚徒費	金貳千參百拾四圓
第五項 朝鮮國居留地取締費	金八萬七千拾貳圓
第六項 清國居留人取締費	金壹萬貳百拾圓六拾四錢
第七項 賠償及訴訟費	金拾圓
第八項 既約備外國人諸給	金貳萬八百七拾六圓四拾錢

第九項 既約地所家屋借料	金六萬五百七拾圓六拾七錢九厘
第十項 旅費	金六萬參千八百七拾六圓參拾貳錢九厘
第十一項 雜給及雜費	金參萬九千參百八拾五圓拾六錢七厘
第十二項 電信料	金六萬四千七百七拾四圓五拾四錢四厘
第十三項 宴會費	金貳萬貳千四百拾九圓
第十四項 在外國難民貸與金	金貳百四圓
第十五項 墓地管理費	金貳百五圓八拾壹錢貳厘
第十六項 外國留學生費	金五千百參拾參圓參拾壹錢六厘
第十七項 機密費	金八萬圓
第十八項 地所家屋借料	金壹萬八千七百貳拾壹圓貳拾錢四厘
外務省所管合計金百四拾九萬四千八百拾六圓參拾壹錢壹厘	
內務省所管	
第一款 神宮費	金貳萬七千百拾參圓
第一項 神宮費	金貳萬七千百拾參圓
第二款 神社費及國幣社例祭幣帛料	金拾七萬六千六百四圓貳拾五錢
第一項 神社費	金拾七萬四千九百貳拾四圓貳拾五錢
第二項 國幣社例祭幣帛料	金千六百八拾圓
第三款 內務本省	金貳拾九萬七千六百五拾貳圓六錢七厘
第一項 俸給及諸給	金拾貳萬八千七百四拾七圓
第二項 廳費	金貳萬貳千六百六拾九圓八拾參錢六厘
第三項 修繕費	金參千六百拾參圓四拾錢

第四項	死傷手當	金百參拾八圓
第五項	賠償及訴訟費	金八圓
第六項	旅費	金貳萬貳千八拾五圓八拾五錢
第七項	雜給及雜費	金參萬五千九百七拾壹圓參拾四錢貳厘
第八項	醫術及藥劑師試驗費	金貳萬貳千百拾八圓六拾參錢九厘
第九項	阿片費	金壹萬貳千參百圓
第十項	古社寺保存補助費	金五萬圓
第十一項	備外國人諸給	金五百圓
第四款 衛生試驗所		
第一項	俸給及諸給	金貳萬五千八百六圓貳拾八錢九厘
第二項	廳費	金壹萬五千五百七拾參圓
第三項	修繕費	金五千參百貳拾參圓七拾參錢五厘
第四項	死傷手當	金六百參拾七圓六拾六錢貳厘
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	旅費	金貳圓
第七項	雜給及雜費	金參百六圓
第八項	印紙製造費	金參千參百四拾貳圓拾四錢貳厘
第五款 血清藥院		
第一項	俸給及諸給	金六百貳拾圓七拾五錢
第二項	廳費	金貳萬七千貳百九圓貳拾貳錢
第三項	修繕費	金七千參百圓
		金千七百八拾貳圓四拾七錢
		金四百九拾貳圓

第四項	死傷手當	金壹圓
第五項	賠償及訴訟費	金貳圓
第六項	旅費	金參百圓
第七項	雜給及雜費	金參千六百九拾五圓六拾五錢
第八項	調製諸費	金壹萬參千六百參拾六圓拾錢
第六款 痘苗製造所		
第一項	俸給及諸給	金六萬六千五百貳圓拾錢
第二項	廳費	金壹萬千貳百圓
第三項	修繕費	金八千七百參拾壹圓九拾錢
第四項	死傷手當	金四百圓
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	旅費	金貳圓
第七項	雜給及雜費	金六百圓
第八項	調製諸費	金四千七百七拾壹圓貳拾錢
第七款 土木監督署		
第一項	俸給及諸給	金四萬七百九拾六圓
第二項	廳費	金九萬七百四拾貳圓五拾錢
第三項	修繕費	金四萬九千參百九拾壹圓
第四項	死傷手當	金參千九百參拾圓
第五項	賠償及訴訟費	金六百八拾七圓
第六項	既約備外國人諸給	金五百拾九圓
		金貳百四拾七圓
		金六千八百四拾圓

第七項	旅費	金貳萬千八百八拾圓
第八項	雜給及雜費	金六千五百九拾參圓五拾錢
第九項	測量費	金千百拾五圓
第八款 集治監		
第一項	俸給及諸給	金四拾萬四千八拾四圓拾九錢壹厘
第二項	廳費	金貳萬千六百四拾貳圓
第三項	修繕費	金七千七百七拾貳圓五拾四錢參厘
第四項	死傷手當	金八千五百八拾參圓拾七錢六厘
第五項	囚徒諸費	金壹圓
第六項	在府縣獄囚徒費	金貳拾參萬四千八百四拾四圓九拾八錢七厘
第七項	賠償及訴訟費	金九千四百四拾五圓六拾錢
第八項	旅費	金貳圓
第九項	雜給及雜費	金壹萬貳千六百參圓九拾五錢七厘
第九款 警視廳		
第一項	俸給及諸給	金拾萬九千七百八拾八圓九拾貳錢八厘
第二項	廳費	金拾六萬五千八百拾四圓
第三項	修繕費	金貳拾五萬參千七百七拾七圓九拾參錢六厘
第四項	褒賞費	金壹萬五千貳百貳拾五圓拾九錢八厘
第五項	東京府下外國人居留地取締費	金參千九拾七圓
第六項	死傷手當	金拾參圓
第七項	賠償及訴訟費	金四千參百七拾壹圓九拾四錢
		金四圓
		金貳圓

第八項	旅費	金五千貳百九拾圓四拾參錢
第九項	雜給及雜費	金五萬參百六拾圓參拾六錢八厘
第十項	機密費	金九千圓
第十款 伊豆七島地方警察費		
第一項	死傷手當	金參千五百九圓貳拾六錢
		金壹圓
第二項	廳費	金五拾壹圓
第三項	修繕費	金貳拾壹圓
第四項	旅費	金千貳百五拾圓七拾五錢
第五項	雜給及雜費	金貳千八百八拾五圓五拾壹錢
第十一款 府縣		
第一項	俸給及諸給	金四百八拾九萬四千參百參拾圓貳拾六錢壹厘
第二項	廳費	金貳百參拾壹萬八千七百五拾五圓
第三項	褒賞費	金拾八萬九千五百拾七圓七拾八錢壹厘
第四項	外國人居留地取締及修繕費	金壹萬五千參百六拾七圓
第五項	橫濱公園保存費	金拾四萬八千參百五拾壹圓七拾貳錢九厘
第六項	橫濱港雜貨物倉庫修繕費	金九百五拾圓
第七項	長崎外國人墓地諸費	金貳千四拾五圓
第八項	死傷手當	金參百拾壹圓五厘
第九項	徵兵費	金千五百五拾五圓
第十項	恩賜及救助費	金拾九萬四千九百參拾壹圓五拾九錢
第十一項	難破船費	金拾六萬五千四百拾參圓
		金千七百九拾九圓九拾貳錢四厘

第十二項	小笠原島及伊豆七島裁判費	金百六拾圓五拾錢
第十三項	賠償及訴訟費	金壹萬貳千八百九拾八圓
第十四項	既約備外國人諸給	金五千七百六拾圓
第十五項	警察費連帶支辨金	金九拾七萬九千五百拾八圓
第十六項	旅費	金五拾貳萬千六百八拾壹圓六拾錢
第十七項	雜給及雜費	金貳拾萬四千九百七拾圓參拾六錢六厘
第十八項	消毒所及避病院保存費	金四千九百九拾壹錢五厘
第十九項	營繕土木費	金貳萬六千六百參拾五圓五拾五錢壹厘
第二十項	機密費	金拾萬圓
第十二款	小笠原島地方費	金壹萬參百貳拾七圓八拾貳錢
第一項	死傷手當	金壹圓
第二項	修繕費	金五百八拾五圓
第三項	警察費	金參千參百八拾貳圓四拾貳錢
第四項	獄署諸費	金貳百七拾四圓四拾錢
第五項	在監人諸費	金百參拾圓
第六項	難破船費	金貳拾七圓
第七項	土木費	金千貳百七拾壹圓
第八項	教育費	金九百參拾貳圓
第九項	勸業費	金參千貳百九拾五圓
第十項	豫備米費	金參百圓
第十一項	傳染病豫防費	金百參拾圓

第十三款 沖繩縣地方費

第一項	死傷手當	金拾六萬參千參百九拾五圓五拾四錢八厘
第二項	修繕費	金壹圓
第三項	警察費	金千參百七拾五圓七拾錢
第四項	獄署諸費	金四萬千六百五拾九圓貳拾五錢四厘
第五項	在監人諸費	金壹萬貳千參百八拾八圓五拾七錢五厘
第六項	難破船費	金壹萬貳百九拾五圓參拾參錢五厘
第七項	土木費	金壹圓
第八項	衛生及病院費	金六千七百七拾六圓參拾八錢
第九項	教育費	金壹萬五千八百九拾貳圓五錢
第十項	勸業費	金貳萬貳千參拾圓七拾四錢四厘
第十一項	郡區役所費	金四千九百九拾圓貳拾五錢
第十二項	地役人雜給	金壹萬貳千五百五拾參圓六厘
第十三項	救育費	金參萬五千貳百七拾貳圓貳拾五錢四厘
第十四項	諸達書及揭示諸費	金九圓
第十四款	對馬地方警察費	金千五百五拾壹圓
第一項	死傷手當	金八千七百九拾參圓八拾六錢七厘
第二項	廳費	金參拾五圓
第三項	旅費	金六百拾五圓六錢六厘
第四項	雜給及雜費	金八百五拾壹圓四拾六錢五厘
第十五款	大島地方警察費	金七千貳百九拾貳圓參拾參錢六厘
		金八千拾五圓拾壹錢六厘

第一項 死傷手當	金壹圓
第二項 廳費	金參百九拾四圓參拾參錢參厘
第三項 旅費	金千五拾七圓拾五錢
第四項 雜給及雜費	金六千五百六拾貳圓六拾參錢參厘
第十六款 橫濱港維持費	金四十六百貳拾圓
第一項 俸給及諸給	金參百拾五圓四拾貳錢
第二項 廳費	金百拾七圓拾錢
第三項 修繕費	金壹圓
第四項 死傷手當	金貳圓
第五項 賠償及訴訟費	金貳百四拾六圓拾貳錢
第六項 旅費	金千貳百五拾四圓四拾六錢
第七項 雜給及雜費	金貳萬七千六百六拾參圓六拾六錢五厘
第八項 港灣維持費	金貳萬七千六百六拾參圓九錢
內務省所管合計金六百四拾九萬九千八百八拾參圓拾九錢	
大藏省所管	
第一款 大藏本省	金參拾貳萬八千參拾五圓八拾六錢六厘
第一項 俸給及諸給	金貳拾萬五千拾五圓五拾錢
第二項 廳費	金貳萬九千九百拾四圓參拾參錢五厘
第三項 修繕費	金參千六百拾圓九拾五錢參厘
第四項 萬國關稅表刊行同盟費	金五百參拾六圓
第五項 死傷手當	金貳圓

第六項 公債及銀行紙幣費	金千貳拾五圓六拾九錢參厘
第七項 賠償及訴訟費	金千四百六拾圓
第八項 旅費	金貳萬四千七百參拾貳圓九拾錢
第九項 雜給及雜費	金四萬九千六百七拾四圓五拾錢五厘
第十項 仕辦命令及保管金引 出切符用紙製造費	金壹萬貳千六拾參圓九拾八錢
第二款 國債	
第一項 公債元利及手數料	金貳千九百七拾壹萬參百七拾八圓拾六錢九厘
第二項 預金利息	金貳千七百貳拾八萬八千八百八拾壹圓四拾壹錢九厘
第三項 補助紙幣銷却	金百七拾貳萬四千八百八拾五圓
第三款 恩賞諸祿	金七拾萬五千參百拾壹圓七拾五錢
第一項 賞勳年金	金參百四拾九萬五千四百四圓貳拾九錢五厘
第二項 文官恩給	金百五萬五千四拾參圓
第三項 軍人恩給	金七拾九萬四千四百九拾四圓參拾參錢參厘
第四項 學校職員恩給	金百四拾五萬七千四百六拾參圓九拾九錢八厘
第五項 沖繩縣諸祿	金貳萬五千六百六拾七圓參錢參厘
第六項 既定外國人恩給	金拾四萬六千八拾五圓九拾參錢壹厘
第七項 特別年金	金壹萬四千百圓
第八項 外國人恩給	金參百圓
第四款 內閣	
第一項 俸給及諸給	金貳千貳百五拾圓
第二項 廳費	金拾七萬貳千五百五圓貳拾七錢五厘
	金九萬貳千五百七拾五圓
	金壹萬六百五拾貳圓

第三項	修繕費	金貳千貳百九拾七圓七拾錢
第四項	褒賞費	金壹萬八千貳百六拾六圓
第五項	死傷手当	金拾七圓
第六項	旅費	金八百八拾九圓六拾錢
第七項	雜給及雜費	金壹萬七千四百七圓九拾七錢五厘
第八項	機密費	金參萬圓
第五款 樞密院		
第一項	俸給及諸給	金拾萬參千八百四圓貳拾參錢
第二項	廳費	金九萬五千貳百參拾四圓
第三項	修繕費	金貳千七百貳拾圓
第四項	旅費	金千百拾六圓九拾錢
第五項	雜給及雜費	金五百九拾貳圓八拾錢
第六款 貴族院		
第一項	議員諸費	金貳拾四萬五千八百八拾參圓八拾八錢
第二項	俸給及諸給	金拾八萬六千五百貳拾七圓八拾八錢
第三項	廳費	金壹萬八千六百四拾圓
第四項	修繕費	金壹萬五千百參拾貳圓
第五項	旅費	金貳千圓
第六項	雜給及雜費	金百五拾圓
第七款 衆議院		
第一項	議員諸費	金參拾壹萬九千貳百五拾圓七拾參錢
		金貳拾五萬九千四百九拾九圓七拾參錢

第二項	俸給及諸給	金壹萬八千參百四拾五圓
第三項	廳費	金壹萬四千五百四拾八圓
第四項	修繕費	金貳千圓
第五項	旅費	金五拾圓
第六項	雜給及雜費	金貳萬五千五百五拾八圓
第八款 會計検査院		
第一項	俸給及諸給	金拾六萬五千六百六拾貳圓六拾錢五厘
第二項	廳費	金拾四萬四千七百七拾參圓
第三項	修繕費	金五千八百五拾六圓六錢壹厘
第四項	旅費	金千貳百七拾五圓
第五項	雜給及雜費	金參千五百圓
第九款 行政裁判所		
第一項	俸給及諸給	金壹萬八百五拾八圓五拾四錢四厘
第二項	廳費	金參萬四千九百八拾八圓
第三項	修繕費	金千四百九拾圓
第四項	旅費	金四百四拾五圓
第五項	雜給及雜費	金參百七拾壹圓
第十款 官報局		
第一項	俸給及諸給	金貳拾參萬八千四百貳圓貳拾壹錢參厘
第二項	廳費	金壹萬貳千六拾貳圓
第三項	修繕費	金貳千九百五拾五圓
		金五百六拾六圓四拾錢

第四項 旅費	金百參拾六圓八拾錢
第五項 雜給及雜費	金六千四百六拾六圓八拾八錢
第六項 刊行費	金貳拾壹萬五千九百五拾五圓拾參錢參厘
第十一款 稅關	金貳拾八萬七千七百九拾九圓
第一項 俸給及諸給	金拾四萬八千貳百參拾九圓
第二項 廳費	金貳萬七千參百五拾九圓
第三項 修繕費	金壹萬九千四百參拾七圓
第四項 從價稅品買上代	金貳百拾圓
第五項 死傷手當	金八圓
第六項 賠償及訴訟費	金參百參拾貳圓
第七項 旅費	金八千五百拾九圓
第八項 雜給及雜費	金八萬參千五百拾參圓
第九項 密輸出入申告者給與	金百八拾貳圓
第十二款 內國稅徵收費	金貳百參拾貳萬六千貳拾圓七拾四錢壹厘
第一項 俸給及諸給	金百四萬貳千四百八拾五圓
第二項 廳費	金拾七萬八千九百拾貳圓
第三項 修繕費	金八百八拾九圓
第四項 所得稅調查費	金參萬八千參百七拾四圓
第五項 市町村交付金	金參拾五萬七千貳拾四圓拾九錢壹厘
第六項 滯納及附隨國稅則者處分費	金貳萬貳千四百貳拾九圓七拾六錢貳厘
第七項 印紙鑑札類諸費	金拾萬八千八拾四圓

第八項 賠償及訴訟費	金貳百四拾四圓六厘
第九項 旅費	金參拾萬七千七百九圓
第十項 雜給及雜費	金貳拾六萬七千六百六拾貳圓參拾八錢八厘
第十一項 沖繩縣稅品取扱費	金貳千貳百七圓參拾九錢四厘
第十三款 葉煙草取扱費	金五拾貳萬貳千四百五拾四圓
第一項 俸給及諸給	金拾五萬貳千五百四拾九圓
第二項 廳費	金七萬五千九百七圓五拾五錢
第三項 修繕費	金壹萬參千九百八拾圓
第四項 賠償及訴訟費	金拾四圓
第五項 旅費	金五萬四千九百六拾貳圓五拾錢
第六項 雜給及雜費	金貳萬貳百九拾圓
第七項 葉煙草專賣事業費	金貳拾萬四千七百五拾圓九拾五錢
第十四款 文官試驗費	金參千九拾五圓拾錢四厘
第一項 廳費	金五百六拾四圓七拾六錢四厘
第二項 修繕費	金五拾圓
第三項 雜給及雜費	金貳千四百八拾圓參拾四錢
第十五款 貨幣取扱費	金五拾萬六千參百貳拾九圓貳拾貳錢四厘
第一項 流通不便貨幣交換金	金參千貳百參拾參圓
第二項 日本銀行交付金	金四拾萬圓
第三項 貨幣類取扱雜費	金五拾五圓貳拾錢九厘
第四項 臺灣國庫金取扱費	金拾萬參千四拾壹圓壹錢五厘

第十六款 諸拂戻及缺損補填金	金貳拾萬六千九百四拾七圓
第一項 諸拂戻金	金貳拾萬參百九拾六圓
第二項 缺損補填金	金六千五百五拾壹圓
第十七款 國庫豫備金	金參百萬圓
第一項 第一豫備	金百萬圓
第二項 第二豫備	金貳百萬圓
大藏省所管合計金四千六百六拾七萬四千四百拾壹圓參拾參錢貳厘	
陸軍省所管	
第一款 陸軍本省	
第一項 俸給及諸給	金貳拾四萬七拾六圓九拾九錢八厘
第二項 廳費	金拾五萬八千四百參拾五圓
第三項 修繕費	金貳萬八千貳百七拾六圓七拾錢九厘
第四項 旅費	金千四百拾六圓五拾九錢六厘
第五項 雜給及雜費	金壹萬七千五百四拾參圓拾五錢七厘
第六項 諸手当	金壹萬五千九百八拾參圓五拾參錢六厘
第七項 被服費	金壹萬七千貳拾貳圓
第八項 馬匹費	金貳百四拾圓
第二款 軍事費	
第一項 俸給及諸給	金貳千五百六拾八萬六千八百九拾圓九拾貳錢八厘
第二項 諸手当	金七百貳拾貳萬四千六百八拾六圓六拾五錢五厘
第三項 外國駐在視察員費	金八拾五萬五千六百五拾九圓五拾五錢六厘
	金五萬七千五百五圓八錢貳厘

第四項 糧食費	金五百六拾參萬四千七百六拾八圓七拾四錢七厘
第五項 被服費	金參百四拾四萬四千百拾圓拾七錢六厘
第六項 兵器彈藥費	金貳百拾參萬五千九圓五拾七錢貳厘
第七項 馬匹費	金百五拾四萬參千七百七拾六圓七拾錢
第八項 演習費	金七拾七萬八千八百貳拾壹圓四拾四錢
第九項 患者費	金參拾貳萬貳千百拾六圓六錢五厘
第十項 廳費	金六拾貳萬貳千五百六拾參圓四拾七錢八厘
第十一項 軍隊需品費	金五拾參萬四千百參拾九圓九拾壹錢六厘
第十二項 修繕費	金四拾壹萬八千百貳拾參圓貳拾參錢六厘
第十三項 死傷手当	金七千八百七拾八圓八拾八錢六厘
第十四項 罷役恤金	金七拾圓
第十五項 囚徒費	金四萬五千貳百七拾七圓八拾五錢八厘
第十六項 賠償及訴訟費	金五百五拾圓
第十七項 旅費	金九拾七萬貳千八百八拾七圓參拾錢七厘
第十八項 雜給及雜費	金九拾八萬九千九拾圓五拾六錢八厘
第十九項 兵要地圖費	金壹萬千貳百九拾六圓六拾八錢六厘
第二十項 供奉費	金千貳百拾五圓
第二十一項 機密費	金九萬參千六百圓
第二十二項 備外國人諸給	金九千八百四拾四圓
第三款 憲兵費	金貳百七拾萬貳千六百九拾壹圓六拾七錢七厘
第一項 俸給及諸給	金九拾參萬參千貳百六拾六圓六拾四錢六厘

第二項	諸手當	金拾貳萬四千九百參拾壹圓拾九錢
第三項	糧食費	金五拾參萬參百拾七圓參錢八厘
第四項	被服費	金貳拾八萬參千八百貳拾貳圓七拾參錢
第五項	兵器彈藥費	金六萬七千貳百九拾參圓壹錢五厘
第六項	馬匹費	金拾五萬參千拾參圓七拾參錢七厘
第七項	廳費	金八萬四千百拾圓五拾六錢貳厘
第八項	修繕費	金七千八百參拾貳圓
第九項	死傷手當	金千八百參拾貳圓
第十項	囚徒費	金四千七百五拾五圓貳拾四錢
第十一項	賠償及訴訟費	金六圓
第十二項	旅費	金拾壹萬九千四百七圓五錢
第十三項	雜給及雜費	金參拾六萬五千七百參拾五圓六拾八錢九厘
第十四項	機密費	金貳萬七千參拾四圓
第四款	屯田兵費	金四拾九萬貳千六百六拾八圓貳拾壹錢
第一項	俸給及諸給	金拾壹萬五千參百貳拾五圓貳拾八錢
第二項	諸手當	金壹萬千貳百貳圓七拾參錢七厘
第三項	糧食費	金拾八萬八千七拾七圓參拾九錢六厘
第四項	被服費	金參萬貳千九百六拾貳圓參拾壹錢五厘
第五項	兵器彈藥費	金壹萬五千六百六拾參圓八拾參錢九厘
第六項	馬匹費	金貳千八百五拾圓五拾六錢
第七項	演習費	金壹萬五千拾壹圓拾錢參厘

第八項	患者費	金六千四百參拾八圓拾七錢貳厘
第九項	廳費	金六千六百七圓拾錢貳厘
第十項	軍隊用品費	金七千貳百九拾九圓參拾貳錢六厘
第十一項	修繕費	金參千五百圓
第十二項	死傷手當	金五拾圓
第十三項	賠償及訴訟費	金壹萬五千四百拾八圓四拾四錢
第十四項	旅費	金壹萬貳千四百四拾九圓七拾四錢
第十五項	雜給及雜費	金五萬九千八百貳圓貳拾錢
第十六項	移住費	金七千五百五拾圓
第五款	靖國神社寄付金	金七千五百五拾圓
第一項	陸軍省所管合計金貳千九百拾貳萬九千參百七拾七圓八拾壹錢參厘	
海軍省所管		
第一款	海軍本省	金拾五萬五千八拾六圓壹錢
第一項	俸給及諸給	金拾壹萬七千七百六拾九圓貳拾錢
第二項	廳費	金壹萬五千八百參圓五拾錢
第三項	修繕費	金七百貳拾圓
第四項	死傷手當	金拾圓
第五項	賠償及訴訟費	金貳拾圓
第六項	旅費	金四千貳拾壹圓貳拾六錢
第七項	雜給及雜費	金壹萬六千六百四拾貳圓五錢

第二款 軍事費

- 第一項 俸給及諸給
- 第二項 諸手當
- 第三項 外國留學生費
- 第四項 既約備外國人諸給
- 第五項 糧食費
- 第六項 被服費
- 第七項 兵器彈藥及水雷費
- 第八項 造船及修理費
- 第九項 演習費
- 第十項 患者費
- 第十一項 廳費
- 第十二項 軍港要港費
- 第十三項 艦營費
- 第十四項 修繕費
- 第十五項 死傷手當
- 第十六項 扶助金
- 第十七項 囚徒費
- 第十八項 賠償及訴訟費
- 第十九項 既約地所家屋借料
- 第二十項 旅費

金九百六拾五萬七千九百六拾圓參拾六錢壹厘
 金貳百九拾六萬七千八百貳拾九圓拾四錢九厘
 金九萬七千參百六拾壹圓九拾五錢
 金四萬參千八百貳拾五圓七拾七錢參厘
 金七千貳百圓
 金百參萬五千九百九拾九圓四拾七錢參厘
 金五拾萬八千四拾參圓六拾四錢壹厘
 金百八拾七萬參千八百拾九圓貳拾八錢六厘
 金九拾七萬九千六百六拾五圓六拾五錢五厘
 金參萬圓
 金參萬八千貳百五拾壹圓拾四錢貳厘
 金貳拾貳萬千六百六拾貳圓七拾四錢貳厘
 金拾萬四千六百拾貳圓六拾壹錢五厘
 金九拾七萬六千五百六拾四圓四拾四錢六厘
 金六萬九千貳百四圓六拾貳錢九厘
 金貳千七百貳拾四圓
 金拾壹萬六千七百參拾貳圓七拾六錢六厘
 金七千參百四拾四圓六拾錢
 金百拾四圓貳拾五錢
 金參百拾七圓七拾四錢六厘
 金貳拾參萬九千八百七拾貳圓參錢

- 第二十一項 雜給及雜費
- 第二十二項 水路費
- 第二十三項 機密費
- 第二十四項 望樓費
- 第二十五項 備外國人諸給
- 第二十六項 機動費

海軍省所管合計金九百八拾壹萬參千四拾六圓參拾七錢壹厘

司法省所管

- 第一款 司法本省
- 第一項 俸給及諸給
- 第二項 廳費
- 第三項 修繕費
- 第四項 死傷手當
- 第五項 賠償及訴訟費
- 第六項 既約備外國人諸給
- 第七項 旅費
- 第八項 雜給及雜費
- 第九項 刑事檢察及辯護士試驗費
- 第二款 裁判所
- 第一項 俸給及諸給
- 第二項 廳費

金拾萬參千貳百四拾六圓九錢八厘
 金五萬七千四百貳拾壹圓六拾壹錢壹厘
 金壹萬四千九百參拾參圓貳拾貳錢八厘
 金千參百圓
 金七圓
 金五拾五圓
 金壹萬五千七百貳拾圓
 金九千七百四拾五圓四拾錢九厘
 金千五百六拾參圓八拾五錢
 金參百四拾四萬八千七百九拾壹圓拾八錢六厘
 金貳百貳拾七萬千六百七拾壹圓九拾貳錢七厘
 金參拾四萬貳千參百貳拾五圓拾錢七厘

第三項	修繕費	金五萬千六百拾貳圓九拾錢九厘
第四項	死傷手當	金貳拾六圓七拾五錢
第五項	裁判費	金拾貳萬六千四百七拾七圓六拾九錢壹厘
第六項	登記用紙及公告費	金參萬九百拾參圓九拾壹錢九厘
第七項	那役所戶長役場登記所費定額	金四千參百拾四圓
第八項	賠償及訴訟費	金八百四拾六圓九錢九厘
第九項	旅費	金八萬七千貳百四拾七圓六錢七厘
第十項	雜給及雜費	金五拾貳萬八千九百拾五圓七拾壹錢七厘
第十一項	機密費	金四千四百四拾圓
司法省所管合計金參百五拾五萬貳千參拾七圓貳拾八錢四厘		
文部省所管		
第一款	文部本省	金拾八萬四千參百五圓四拾五錢七厘
第一項	俸給及諸給	金六萬千七百六拾九圓拾貳錢六厘
第二項	廳費	金七千五百參拾圓九拾四錢八厘
第三項	修繕費	金貳千九百圓
第四項	死傷手當	金貳圓參拾四錢
第五項	賠償及訴訟費	金七圓
第六項	旅費	金五千七百八拾八圓九拾四錢
第七項	雜給及雜費	金壹萬四千八百壹圓拾九錢
第八項	編費	金貳千貳百圓
第九項	學校衛生取調費	金參千圓

第十項	東京學士會院年金	金千五百圓
第十一項	學生費	金八萬貳千五百拾壹圓六厘
第十二項	萬國測地學協會費	金貳千六百五拾四圓八拾六錢七厘
第二款 震災豫防調査會		
第一項	俸給及諸給	金貳萬五千圓
第二項	修繕費	金七百六拾貳圓
第三項	死傷手當	金壹圓
第四項	賠償及訴訟費	金貳圓
第五項	調査費	金貳萬參千參百參拾五圓
第三款 中央氣象臺		
第一項	俸給及諸給	金參萬千五百七拾參圓參拾八錢
第二項	廳費	金九千七拾壹圓
第三項	修繕費	金壹萬貳百貳拾四圓參拾錢
第四項	死傷手當	金六百參拾七圓五拾五錢
第五項	賠償及訴訟費	金壹圓
第六項	旅費	金貳圓
第七項	雜給及雜費	金千七百五拾九圓參拾八錢
第八項	委託電報料	金四千六百拾壹圓貳拾錢
第四款 諸學校及圖書館支出金		
第一項	帝國大學	金五千貳百六拾六圓九拾五錢
第二項	京都帝國大學	金百拾六萬六千六百五拾六圓七拾六錢五厘
		金五拾貳萬九千貳百八拾參圓參拾四錢參厘
		金參萬五千貳百八拾四圓七拾四錢七厘

第三項	高等師範學校	金七萬七千六百參拾九圓五拾八錢五厘
第四項	女子高等師範學校	金貳萬九千六百九拾八圓六拾壹錢四厘
第五項	高等商業學校	金四萬七千七百七拾九圓五拾貳錢
第六項	第一高等學校	金七萬參千六百六拾壹圓貳錢參厘
第七項	第二高等學校	金四萬參千六百八拾六圓拾五錢四厘
第八項	第三高等學校	金七萬貳千百拾壹圓拾七錢
第九項	第四高等學校	金四萬五千百拾壹圓六拾七錢
第十項	第五高等學校	金六萬貳百九拾六圓參拾參錢四厘
第十一項	札幌農學校	金貳萬五千五百壹圓參拾九錢九厘
第十二項	東京工業學校	金四萬九千九百四拾七圓參拾七錢六厘
第十三項	東京美術學校	金參萬六千四百拾五圓八拾參錢
第十四項	大阪工業學校	金貳萬貳千貳百四拾圓
第十五項	東京盲啞學校	金貳千圓
第十六項	東京圖書館	金貳萬圓
第五款	府縣立師範學校長俸給	金參萬九千五百四拾貳圓
第一項	府縣立師範學校長俸給	金參萬九千五百四拾貳圓
第六款	地方視學費	金六萬參千圓
第一項	地方視學費	金六萬參千圓
第七款	實業教育獎勵費	金拾五萬圓
第一項	實業教育獎勵費	金拾參萬五千圓
第二項	實業教員養成費	金壹萬五千圓

第八款	小學教育補助費	金參拾四萬五千貳百九拾八圓貳拾八錢九厘
第一項	小學校教員年功加俸	金參拾四萬五千貳百九拾八圓貳拾八錢九厘
	農商務省所管	文部省所管合計金貳百萬五千參百七拾五圓八拾九錢壹厘
第一款	農商務本省	金貳拾六萬貳千八百六拾五圓拾八錢八厘
第一項	俸給及諸給	金拾六萬七千參百參拾五圓
第二項	應費	金貳萬五千貳百五拾五圓五拾六錢五厘
第三項	修繕費	金貳千七百七拾六圓
第四項	萬國度量衡會費	金千九百五拾九圓參拾五錢
第五項	死傷手當	金五拾五圓
第六項	賠償及訴訟費	金百貳拾圓
第七項	旅費	金壹萬六千九拾五圓拾錢
第八項	雜給及雜費	金壹萬九千九百貳拾九圓七拾四錢五厘
第九項	度量衡原器費	金六千七百七拾八圓拾貳錢參厘
第十項	製茶試驗費	金貳千圓
第十一項	地質調查及製圖費	金壹萬六千九百貳拾貳圓六拾錢
第十二項	獸疫調查費	金四千貳百參拾八圓七拾錢五厘
第二款	林區署	金七拾四萬貳千百拾參圓壹錢五厘
第一項	俸給及諸給	金貳拾七萬四百八拾參圓參拾參錢貳厘
第二項	應費	金六萬千貳百八拾七圓八拾參錢六厘
第三項	修繕費	金參千七百圓

第四項	死傷手當	金百圓
第五項	賠償及訴訟費	金貳千七百圓
第六項	旅費	金九萬七千七百參拾九圓五拾貳錢
第七項	雜給及雜費	金壹萬五千四百九拾壹圓四拾六錢
第八項	造林及產物處理費	金貳拾九萬千貳百拾圓八拾六錢七厘
第三款 鑛山監督署		
第一項	俸給及諸給	金七萬貳千參百八拾圓參拾錢
第二項	廳費	金參萬九千七百八拾圓
第三項	修繕費	金壹萬千六百拾七圓
第四項	死傷手當	金七十五拾圓
第五項	賠償及訴訟費	金百圓
第六項	旅費	金壹萬參千八百貳拾五圓
第七項	雜給及雜費	金六千八百四拾八圓參拾錢
第四款 農事試驗場		
第一項	俸給及諸給	金六萬千四百拾圓五拾七錢六厘
第二項	廳費	金貳萬八千四百圓
第三項	修繕費	金千參百參拾九圓參拾四錢
第四項	死傷手當	金六百貳拾圓
第五項	賠償及訴訟費	金拾圓
第六項	旅費	金五圓
第七項	雜給及雜費	金四千貳百圓五拾六錢
		金貳千五百參拾七圓拾五錢

第八項 試驗費		
第五款 水產調查所		
第一項	俸給及諸給	金五萬千四百四拾四圓拾六錢
第二項	廳費	金壹萬七千八百八拾圓
第三項	修繕費	金千八百八拾九圓六拾五錢
第四項	死傷手當	金五百圓
第五項	賠償及訴訟費	金五圓
第六項	旅費	金六千六百七拾圓九錢
第七項	雜給及雜費	金六千七拾七圓九拾七錢五厘
第八項	調查費	金五千四百參拾六圓四拾四錢五厘
第九項	講習費	金壹萬貳千八百八拾圓
第六款 蠶業講習所		
第一項	俸給及諸給	金貳萬參千六百九拾六圓六拾錢
第二項	廳費	金六千參百六拾圓
第三項	修繕費	金八百九拾壹圓貳拾五錢
第四項	死傷手當	金千九百拾圓
第五項	賠償及訴訟費	金貳圓五拾錢
第六項	旅費	金貳圓五拾錢
第七項	雜給及雜費	金千五百參拾圓參拾五錢
第八項	講習及試驗費	金七千九百五圓
第九項	桑樹萎縮病調查費	金四千九百九拾五圓

第七款 生絲検査所

- 第一項 俸給及諸給 金參萬八千五百四拾九圓九錢四厘
 - 第二項 廳費 金壹萬貳千參百六拾圓
 - 第三項 修繕費 金千貳百參拾七圓八拾八錢壹厘
 - 第四項 死傷手當 金五百圓
 - 第五項 賠償及訴訟費 金五圓
 - 第六項 旅費 金八百拾四圓八拾八錢
 - 第七項 雜給及雜費 金九千六百五拾貳圓四拾五錢
 - 第八項 検査費 金壹萬參千九百七拾參圓八拾八錢參厘
- 第八款 貿易品陳列館
- 第一項 俸給及諸給 金壹萬九千六百九拾貳圓八拾五錢
 - 第二項 廳費 金參千七百六拾八圓
 - 第三項 修繕費 金千貳百七拾圓
 - 第四項 死傷手當 金千圓
 - 第五項 旅費 金五圓
 - 第六項 雜給及雜費 金五百圓
 - 第七項 列品費 金參千四百四拾九圓八拾五錢
 - 第九款 馬匹改良費
 - 第一項 俸給及諸給 金拾五萬九百參拾四圓
 - 第二項 廳費 金壹萬七千八百圓
 - 第三項 修繕費 金貳萬五千貳百貳拾圓七拾七錢五厘

- 第四項 死傷手當 金參拾圓
 - 第五項 賠償及訴訟費 金六拾圓
 - 第六項 旅費 金壹萬貳千圓
 - 第七項 雜給及雜費 金壹萬千七百七拾九圓貳拾貳錢五厘
 - 第八項 種馬購入及飼養費 金八萬參千八百四拾四圓
 - 第十款 朝鮮國牛疫豫防費 金千五百八拾圓
 - 第一項 朝鮮國牛疫豫防費 金千五百八拾圓
- 農商務省所管合計金百四拾貳萬四千貳百九拾五圓七拾八錢參厘
- 遞信省所管

- 遞信省所管
- 第一款 遞信本省 金貳拾六萬參千貳百貳拾貳圓五拾壹錢六厘
 - 第一項 俸給及諸給 金拾四萬七千九百四拾七圓貳拾七錢八厘
 - 第二項 廳費 金貳萬四千七百四拾參圓貳拾四錢五厘
 - 第三項 修繕費 金參千四百參拾七圓八拾參錢
 - 第四項 死傷手當 金五拾貳圓
 - 第五項 賠償及訴訟費 金五拾壹圓六拾九錢五厘
 - 第六項 既約備外國人諸給 金五千六百六拾八圓
 - 第七項 旅費 金四萬貳千七百七拾壹圓八拾四錢壹厘
 - 第八項 雜給及雜費 金參萬八千九百五拾圓六拾貳錢七厘
 - 第九項 萬國鐵道同盟會補助費 金貳百圓
 - 第二款 遞信費 金九百參拾壹萬參千八百九拾參圓六拾參錢六厘
 - 第一項 俸給及諸給 金百拾六萬九千參百四拾八圓五錢五厘

第二項 廳費	金拾八萬貳千八百五拾貳圓拾五錢五厘
第三項 修繕費	金參萬貳千貳百四拾壹圓五錢貳厘
第四項 萬國郵便電信聯約費	金貳千五百參拾九圓九拾參錢參厘
第五項 死傷手當	金六百七拾壹圓七拾壹錢六厘
第六項 遞信事業費	金六百參拾七萬貳千八百拾八圓參拾九錢七厘
第七項 賠償及訴訟費	金六百九拾五圓壹錢五厘
第八項 諸拂戻金	金百拾貳萬七千九百貳拾九圓九拾錢
第九項 旅費	金拾四萬四千四百參拾七圓五錢
第十項 雜給及雜費	金貳拾八萬參千參百六拾圓參拾六錢參厘
第三款 航路標識費	金拾八萬九千五百壹圓四拾四錢參厘
第二項 俸給及諸給	金八萬五百五拾貳圓參拾參錢參厘
第三項 廳費	金貳千八百七拾貳圓六拾四錢
第四項 修繕費	金六百參拾圓
第五項 死傷手當	金五百六圓參拾壹錢五厘
第六項 航路標識事業費	金七萬千八百八拾四圓六拾錢七厘
第七項 旅費	金五圓
第八項 雜給及雜費	金七千四百七拾九圓七拾貳錢
第四款 船舶海員費	金貳萬五千九百七拾圓八拾貳錢八厘
第一項 俸給及諸給	金八萬九千九百九拾六圓七拾八錢八厘
第二項 廳費	金六萬千貳百四拾四圓拾六錢六厘
第三項 廳費	金壹萬參千九百參拾圓七拾五錢七厘

第三項 修繕費	金參百八拾五圓貳拾錢
第四項 死傷手當	金拾圓
第五項 審判費	金千六百九拾參圓八拾六錢
第六項 賠償及訴訟費	金參圓
第七項 旅費	金五千百拾六圓五拾八錢
第八項 雜給及雜費	金七千六百拾參圓貳拾貳錢五厘
第五款 商船學校	金七萬貳千九百八拾圓七拾錢七厘
第一項 俸給及諸給	金壹萬九千六百拾圓
第二項 廳費	金壹萬九百參拾六圓參拾四錢六厘
第三項 修繕費	金五百參拾壹圓貳拾八錢
第四項 死傷手當	金六圓
第五項 賠償及訴訟費	金參圓
第六項 旅費	金八百六拾九圓四拾貳錢
第七項 雜給及雜費	金壹萬六百貳圓六拾九錢四厘
第八項 學生費	金貳萬五千八百九拾七圓九拾五錢參厘
第九項 外國留學生費	金四千九百七拾四圓壹錢四厘
第六款 東京郵便電信學校	金貳萬千八百參拾九圓八拾四錢參厘
第一項 俸給及諸給	金八千貳拾八圓
第二項 廳費	金四千八百參拾八圓八拾八錢八厘
第三項 修繕費	金五百圓
第四項 死傷手當	金五圓

第五項 賠償及訴訟費	金參圓
第六項 旅費	金四百八拾八圓參拾壹錢
第七項 雜給及雜費	金四千貳百五拾參圓九拾六錢
第八項 學生費	金參千七百貳拾貳圓六拾八錢五厘
第七款 航海獎勵費	金百七拾貳萬參百拾參圓八拾貳錢八厘
第一項 航海獎勵費	金百七拾貳萬參百拾參圓八拾貳錢八厘
遞信省所管合計金千六百六拾七萬千七百四拾八圓七拾六錢壹厘	
拓殖務省所管	
第一款 神社費及國幣社例祭幣帛料	金參千七拾壹圓貳拾五錢
第一項 神社費	金參千五拾壹圓貳拾五錢
第二款 拓殖務本省	金貳拾圓
第一項 俸給及諸給	金拾四萬四千四百貳拾圓
第二項 廳費	金八萬參千貳百四拾五圓
第三項 修繕費	金壹萬八千五百四拾圓
第四項 死傷手當	金貳千九百五拾圓
第五項 賠償及訴訟費	金貳拾五圓
第六項 旅費	金貳萬千七百七拾五圓
第七項 雜給及雜費	金壹萬五千四百八拾圓
第三款 北海道本廳	金百參拾參萬參千九百九拾五圓貳拾七錢七厘
第一項 俸給及諸給	金貳拾萬貳千九百九拾參圓貳拾五錢

第二項 廳費	金七萬六百圓五拾五錢五厘
第三項 修繕費	金壹萬千貳百九拾四圓七拾八錢
第四項 褒賞費	金六百參拾五圓四拾七錢五厘
第五項 外國人居留地營繕費	金百貳拾壹圓
第六項 死傷手當	金九拾圓九拾貳錢六厘
第七項 徵兵費	金五千七百貳拾貳圓八拾參錢七厘
第八項 恩賜及救助費	金千貳百八拾參圓六拾壹錢九厘
第九項 難破船費	金五百七圓四拾四錢七厘
第十項 滯納處分費	金百參拾六圓八拾錢
第十一項 刑事被告人犯罪人 移送及留置諸費	金壹萬七千六百貳圓四拾七錢貳厘
第十二項 在監人諸費	金四萬貳千七百貳拾九圓五錢
第十三項 賠償及訴訟費	金千參百五拾四圓拾八錢壹厘
第十四項 旅費	金八萬五千五百參拾圓拾四錢
第十五項 雜給及雜費	金貳拾六萬八千參百七拾壹圓七拾五錢貳厘
第十六項 海員取扱費	金百六拾貳圓四拾錢八厘
第十七項 北海道事業費	金貳拾四萬貳千貳百九拾貳圓九拾七錢五厘
第十八項 森林保護費	金六萬參千六百五拾四圓貳拾壹錢四厘
第十九項 獄署諸費	金參萬四千七百九拾九圓四拾六錢九厘
第二十項 土木費	金拾七萬八千五百五拾壹圓四拾四錢五厘
第二十一項 衛生費	金壹萬八百參圓八拾九錢六厘
第二十二項 教育費	金四萬六千四百七拾八圓參拾參錢

第二十三項	救育費	金五千七百八拾五圓四拾貳錢九厘
第二十四項	測候費	金壹萬七百九拾圓貳錢九厘
第二十五項	補助費	金貳萬九千五百五拾八圓七拾九錢八厘
第二十六項	函館消遊所及避病院保存費	金六百圓
第二十七項	機密費	金六千參百四拾四圓
第四款 北海道集治監		
第一項	俸給及諸給	金五拾四萬貳千四百貳拾八圓拾八錢九厘
第二項	廳費	金參萬參千八百六拾九圓
第三項	修繕費	金壹萬貳千貳百九拾九圓拾參錢參厘
第四項	死傷手當	金六千百參拾六圓拾七錢八厘
第五項	囚徒諸費	金貳拾九萬貳百四拾四圓參拾六錢壹厘
第六項	賠償及訴訟費	金貳圓
第七項	旅費	金壹萬參千貳百貳拾壹圓四拾六錢五厘
第八項	雜給及雜費	金拾八萬六千六百五拾五圓五錢貳厘
殖務省所管合計金貳百貳萬九百拾四圓七拾壹錢六厘		
歲出經常部合計金壹億千貳百貳拾七萬參千參拾七圓四拾五錢貳厘		
歲出臨時部		
外務省所管		
第一款	營繕費	金四萬六千九百拾九圓六拾六錢六厘
第一項	在天津領事館新營費	金壹萬參千圓

第二項	在廈門領事館新營費	金貳萬圓
第三項	新營費	金四千五百拾圓
第四項	修繕費	金九千八百六拾九圓六拾六錢六厘
第二款	在外公館創立費	金六萬四千五百圓
第一項	在外公館創立費	金六萬四千五百圓
第三款	電信符號調製費	金貳千圓
第一項	電信符號調製費	金貳千圓
外務省所管合計金拾壹萬參千四百拾九圓六拾六錢六厘		
內務省所管		
第一款 補助費		
第一項	沖繩縣先島航海費補助	金參萬五千貳百圓
第二項	東京府小笠原島航海費補助	金五千圓
第三項	鹿兒島縣大島郡各離島航海費補助	金六千貳百圓
第四項	沖繩縣各離島航海費補助	金六千圓
第五項	傳染病研究所費補助	金參千圓
第二款	土木費補助	金壹萬五千圓
第一項	東京市水道費補助	金參拾參萬五千六百參拾四圓
第二項	大阪市水道費補助	金拾五萬圓
第三項	神戸市水道費補助	金五萬圓
第四項	大阪府河港浚費補助	金六萬圓
第五項	熊本縣道路修築費補助	金壹萬參千六百參拾四圓
第六項	熊本縣道路修築費補助	金壹萬貳千圓

第六項	長崎港修築費補助	金五萬圓
第三款	土木事業費	金五百九拾參萬四千六拾七圓四錢貳厘
第一項	俸給及諸給	金七萬四百四拾四圓
第二項	廳費	金壹萬四千五百五拾六圓四拾八錢七厘
第三項	死傷手當	金百五拾參圓
第四項	旅費	金五萬八千貳百拾六圓
第五項	雜給及雜費	金四萬貳千五百六拾四圓六拾六錢六厘
第六項	營繕費	金貳千四百七拾五圓八拾參錢參厘
第七項	調査費	金參萬參千八百八拾九圓五拾貳錢七厘
第八項	利根川修築費	金貳拾九萬四千五百七拾六圓貳拾參錢九厘
第九項	北上川修築費	金七萬五千圓
第十項	最上川修築費	金六萬圓
第十一項	信濃川修築費	金八萬圓
第十二項	水曾川修築費	金五拾萬九千七百壹圓貳拾九錢
第十三項	大井川修築費	金七萬圓
第十四項	阿武隈川修築費	金五萬五千圓
第十五項	信濃川河口修築費	金貳拾萬圓
第十六項	富士川追加修築費	金參萬四千八百五拾四圓
第十七項	天龍川追加修築費	金五萬八千六百八拾壹圓
第十八項	澁川改修費	金參百八拾九萬千參百圓
第十九項	筑後川改修費	金參拾參萬圓

第二十項	阿賀野川修築費	金千貳百五拾圓
第二十一項	吉野川修築費	金參千八百貳拾五圓
第二十二項	庄川修築費	金千貳百圓
第二十三項	澁川修築工修繕及砂防費	金參萬圓
第二十四項	富士川修築工修繕費	金六千八百八拾圓
第二十五項	天龍川修築工修繕費	金壹萬貳百圓
第四款	營繕費	金拾壹萬五千八百四拾八圓四拾貳錢六厘
第一項	東京集治監獄瓦葺建設費	金八千參百九拾壹圓貳拾五錢四厘
第二項	女神檢疫所改築費	金壹萬五千四百五拾參圓六拾壹錢貳厘
第三項	新營費	金八萬四千九百八拾八圓四錢四厘
第四項	修繕費	金七千拾五圓五拾壹錢六厘
第五款	造神宮使廳	金千六百貳拾七圓九拾錢貳厘
第一項	俸給及諸給	金四百八拾圓
第二項	廳費	金貳百四圓九拾壹錢七厘
第三項	旅費	金四百參圓拾壹錢
第四項	雜給及雜費	金五百參拾九圓八拾七錢五厘
第六款	褒賞費	金拾六萬六千九拾參圓拾錢參厘
第一項	臨時褒賞諸費	金拾六萬六千九拾參圓拾錢參厘
內務省所管合計	金六百五拾八萬八千四百七拾圓四拾七錢參厘	
第一款	補助費	金貳百八拾四萬六百參拾圓六拾參錢八厘
大藏省所管		

第一項	日本鐵道株式會社利益補助	金五拾萬九千百貳圓六拾參錢八厘
第二項	九州鐵道株式會社補助	金拾萬五百七拾五圓
第三項	山陽鐵道株式會社補助	金拾七萬九百五拾參圓
第四項	日本勸業銀行補助	金六萬貳千五百圓
第五項	農工銀行補助	金百九拾九萬七千五百圓
第二款	公債證券製造及發行費	金貳拾五萬五千八百五拾九圓九拾參錢
第一項	鐵道公債證券製造及發行費	金貳萬四千貳百八拾圓八拾錢參厘
第二項	整理公債證券製造及發行費	金八千參百五拾七圓五拾八錢九厘
第三項	事業公債證券製造及發行費	金貳拾貳萬參千貳百貳拾壹圓五拾參錢八厘
第三款	營繕費	金參百八萬參千參百圓
第一項	葉煙草取扱所設置費	金參拾七萬六千八百六拾七圓五拾貳錢五厘
第二項	新營費	金壹萬四千八百五拾六圓參拾五錢
第四款	臨時軍事會計檢查費	金壹萬貳千六百圓
第一項	俸給及諸給	金八百參拾六圓
第二項	應費	金千四百貳拾圓參拾五錢
第三項	雜給及雜費	金七萬七千五百五拾六圓六拾六錢
第五款	償金取扱費	金七萬七千五百五拾六圓六拾六錢
第一項	償金取扱費	金拾七萬五百貳拾四圓四拾錢
第六款	褒賞費	金拾七萬五百貳拾四圓四拾錢
第一項	臨時賞杯製造諸費	金四百萬圓
第七款	葉煙草專賣資金	金四百萬圓

第一項	葉煙草專賣資金	金四百萬圓
第八款	臨時軍事費取扱手當	金貳千五百參圓九拾貳錢七厘
第一項	臨時軍事費取扱手當	金貳千五百參圓九拾貳錢七厘
陸軍省所管	大藏省所管合計金千八拾貳萬千六百九拾九圓四拾參錢	
第一款	砲臺建築費	金四百六拾萬參千貳百參拾七圓四拾九錢壹厘
第一項	東京灣砲臺建築費	金參拾萬參千圓
第二項	下ノ關砲臺建築費	金拾萬圓
第三項	紀淡海峽砲臺建築費	金九萬五千六百六拾參圓
第四項	鳴門海峽砲臺建築費	金九萬五千五百九拾八圓
第五項	吳砲臺建築費	金貳拾七萬六千六百四拾四圓
第六項	藝豫海峽砲臺建築費	金八萬七千四百參拾九圓
第七項	佐世保砲臺建築費	金六萬千參拾四圓
第八項	對馬砲臺建築費	金四萬參千六百八拾壹圓
第九項	長崎砲臺建築費	金九萬參千九百九拾圓
第十項	舞鶴砲臺建築費	金七萬千八百拾貳圓
第十一項	函館砲臺建築費	金參百貳拾七萬八千七百七拾六圓四拾九錢壹厘
第十二項	兵器彈藥費	金四拾五萬貳千七百九拾壹圓六拾八錢七厘
第二款	營繕費	金五萬七千四百參拾壹圓四拾六錢
第一項	紀淡海峽要砲兵營新營費	金參萬四千貳百九拾八圓五拾錢
第二項	東京灣要砲兵營新營費	

第三項 地田各兵隊本部及兵
屬附屬家其他新營費

第四項 新營費

第一款 測量費

第二款 俸給及諸給

第三款 測量費

第四款 廳費

第五款 雜給及雜費

第六款 營繕及初度調辦費

第七款 營繕及初度調辦費

第八款 兵器製造費

第九款 兵器彈藥費

第十款 砲兵工廠工場擴張費

第十一款 砲兵工廠擴張費

第十二款 所增築及新營費

第十三款 所增築及新營費

第十四款 東京砲兵工廠器械購買費

第十五款 大阪砲兵工廠器械購買費

第十六款 臨時陸軍建築部費

第十七款 臨時陸軍建築部費

第十八款 諸手當

第十九款 諸手當

第二十款 被服費

金拾貳萬八千八百七拾九圓四拾九錢

金貳拾參萬貳千八百拾貳圓貳拾參錢七厘

金拾八萬參千九百拾圓貳拾錢九厘

金貳萬七千貳百八拾八圓

金千貳百五拾六圓

金拾五萬參千貳拾五圓六拾七錢五厘

金參百四拾圓五拾參錢四厘

金貳千圓

金千七百九千四圓七拾八錢貳厘

金千七百九千四圓七拾八錢貳厘

金參百九拾七萬千圓

金貳拾九萬四千參百七拾貳圓九拾六錢五厘

金拾四萬千七百八拾參圓六拾七錢六厘

金拾參萬七千八百六拾六圓五拾錢

金四拾參萬四千參百八拾七圓五拾參錢

金五拾八萬參百參拾五圓貳拾五錢九厘

金拾壹萬八千四百六拾貳圓四拾八錢五厘

金八萬八千貳圓參拾六錢

金參千參百六拾參圓

金四百拾六圓四拾錢

第四項 馬匹費

第五項 廳費

第六項 死傷手當

第七項 賠償及訴訟費

第八項 旅費

第九項 雜給及雜費

第八款 臨時陸軍運輸通信部費

第一款 俸給及諸給

第二款 諸手當

第三款 糧食費

第四款 被服費

第五款 兵器彈藥費

第六款 馬匹費

第七款 患者費

第八款 輸送費

第九款 廳費

第十款 修繕費

第十一款 死傷手當

第十二款 賠償及訴訟費

第十三款 旅費

第十四款 雜給及雜費

金百圓

金壹萬貳千五百六拾六圓拾四錢

金百參拾五圓

金百五拾圓

金五千百圓

金八千六百貳拾九圓五拾八錢五厘

金百參拾七萬五千五百六圓四拾參錢

金四萬八千六百貳拾九圓四拾五錢

金六千九百貳拾九圓參拾錢

金五萬八千貳百八圓九拾壹錢四厘

金壹萬八千貳百拾參圓四錢七厘

金四拾七圓四拾五錢參厘

金千貳百四拾六圓四拾錢壹厘

金參千參拾圓拾八錢

金百拾七萬參千八百八拾五圓六拾錢六厘

金參萬貳千參百五拾圓拾錢四厘

金千四百貳拾五圓

金四百六拾參圓七拾五錢

金參千貳百五拾圓

金五千五百九拾貳圓四拾六錢

金壹萬八千九百參拾四圓七拾六錢五厘

第九款 臺灣憲兵隊營繕及初度調辦費	金貳拾壹萬貳千四百參拾八圓參拾五錢五厘
第十款 臨時軍事費	金貳拾壹萬貳千四百參拾八圓參拾五錢五厘
第一款 臺灣憲兵隊營繕及初度調辦費	金六百八拾萬貳千七拾參圓參拾錢六厘
第二款 臨時軍事費	金六百八拾萬貳千七拾參圓參拾錢六厘
陸軍省所管合計金參千八萬八千七百九拾七圓七拾壹錢	
海軍省所管	
第一款 軍艦製造費	金四百九拾七萬參千四百圓五拾九錢九厘
第二款 軍艦製造費	金四百八拾八萬四千五百八拾八圓八錢八厘
第三款 軍艦製造費	金八萬八千八百拾貳圓五拾壹錢壹厘
第四款 軍艦製造費	金參拾壹萬六千七百參拾四圓五拾四錢
第五款 軍艦製造費	金拾壹萬六千七百參拾四圓五拾四錢
第六款 軍艦製造費	金貳拾萬圓
第七款 軍艦製造費	金九萬七千七百八拾八圓六拾壹錢七厘
第八款 軍艦製造費	金九萬八千八百貳拾八圓六拾壹錢七厘
第九款 軍艦製造費	金九百六拾圓
第十款 軍艦製造費	金五萬四千參百拾壹圓
第一款 受託造船費	金五萬四千參百拾壹圓
第二款 受託造船費	金參萬千七百五拾五圓貳拾四錢
第三款 受託造船費	金八千五百六拾四圓貳拾錢
第四款 受託造船費	金貳萬貳千五百拾壹圓四錢
第五款 受託造船費	金貳萬七千七百四拾四圓貳拾七錢六厘
第六款 受託造船費	金貳萬七千七百四拾四圓貳拾七錢六厘

第七款 水路測量費	金參萬七千七百四拾四圓貳拾七錢六厘
第一款 造船費	金六千六拾六萬九百六拾五圓四拾八錢參厘
第二款 造船費	金參千五百七拾四萬五千八百九拾參圓參拾七錢參厘
第三款 造船費	金千九百四拾萬五千八百八拾參圓九錢
第四款 造船費	金五百五拾萬九千八百八拾九圓貳錢
第五款 造船費	金參拾四萬五千圓
第六款 造船費	金參拾四萬五千圓
第七款 造船費	金拾七萬九千七拾圓九拾壹錢
第八款 造船費	金拾七萬九千七拾圓九拾壹錢
第九款 造船費	金拾七萬九千七拾圓九拾壹錢
第十款 造船費	金拾貳萬六千七百九拾壹圓九拾六錢
第十一款 造船費	金拾貳萬六千七百九拾壹圓九拾六錢
第十二款 造船費	金拾貳萬圓
第十三款 造船費	金拾貳萬圓
第十四款 造船費	金五萬七千貳百四拾參圓參拾九錢五厘
第十五款 造船費	金參萬七千六百六拾八圓八拾七錢五厘
第十六款 造船費	金百貳拾七圓七拾五錢
第十七款 造船費	金參拾參圓五拾四錢四厘
第十八款 造船費	金拾八圓貳拾錢
第十九款 造船費	金貳千參百六拾四圓七拾貳錢六厘
第二十款 造船費	金參千八百五拾圓八拾壹錢
第二十一款 造船費	金貳千八百五拾五圓貳拾五錢

第八項 備外國人諸給
海軍省所管合計金六千六百九拾九萬四千百貳拾六圓貳錢

司法省所管

第一款 營繕費

第一項 大阪控訴院大阪地方裁判所建築費

第二項 新營繕費

文部省所管

第一款 營繕費

第一項 帝國大學醫科大學醫院內科外科等教室及病室改築費

第二項 帝國大學醫科大學衛生生理藥物教室改築費

第三項 第三高等學校應用化學及探礦冶金學實驗場新營繕費

第四項 新營繕費

第五項 修繕費

第二款 設備費

第一項 第二高等學校設備費

第二項 東京工業學校設備費

第三項 度支部副原器附屬器具器械設備費

第三款 京都帝國大學創立費

第一項 新營繕費

第二項 機械器具新調費

第三項 諸學校專門學部及特別學科創設費

第四款

金壹萬八百貳拾四圓貳拾四錢

金貳拾萬七千四百四拾壹圓參拾錢貳厘

金八萬九千七百八拾七圓

金拾壹萬七千六百五拾四圓參拾錢貳厘

金拾五萬六千六百八拾六圓八錢

金參萬圓

金參萬圓

金貳萬四百六拾貳圓五拾錢

金七萬四千七百貳拾參圓五拾八錢

金千五百圓

金參萬八千五百四拾貳圓

金貳萬七千六百九拾圓

金八千參百五拾貳圓

金貳千五百圓

金拾七萬圓

金拾六萬圓

金壹萬圓

金四萬貳千四百七拾參圓貳拾錢

金壹萬八百七拾參圓貳拾錢

金參千五百圓

金貳萬八千百圓

金四萬圓

金壹萬貳千九百圓

金壹萬貳千九百圓

金七萬貳千五百八拾參圓七拾參錢貳厘

金五千參百八拾參圓七拾參錢貳厘

金貳萬圓

金參萬貳千五百圓

金五千圓

金九千圓

金七百圓

文部省所管合計金五拾參萬參千八百八拾五圓壹錢貳厘

農商務省所管

第一款 山林原野調查費

第一項 廳費

第二項 旅費

第三項 雜給及雜費

金參萬九千五百五拾壹圓五拾錢

金四千貳百八拾九圓拾七錢五厘

金壹萬四千六百貳拾貳圓

金貳萬貳百四拾圓參拾貳錢五厘

- 第二款 馬匹調查費
 - 第一項 廳費 金壹萬貳千八拾九圓貳拾參錢
 - 第二項 旅費 金八百貳拾貳圓拾錢
 - 第三項 雜給及雜費 金參千七百九拾貳圓參拾八錢
 - 第四項 府縣聯合共進會費 金七千六百七拾四圓七拾五錢
 - 第五項 外國貿易擴張費 金貳萬千七百七拾參圓四拾八錢
 - 第六項 外國貿易擴張費 金六萬圓
- 第三款 府縣聯合共進會費
 - 第一項 府縣聯合共進會費 金百七拾四萬千六百貳拾壹圓參拾八錢
 - 第二項 廳費 金四萬五千八百圓
 - 第三項 死傷手當 金參千貳拾五圓
 - 第四項 旅費 金五百圓
 - 第五項 雜給及雜費 金壹萬九千七百四拾六圓參拾八錢
 - 第六項 建築及土工費 金貳拾八萬圓
 - 第七項 器械及工場費 金百參拾五萬七千圓
 - 第八項 備外國人諸給 金貳萬四千圓
- 第六款 第二回水產博覽會費
 - 第一項 第二回水產博覽會費 金拾萬六百五拾四圓六拾參錢
 - 第二項 廳費 金拾萬六百五拾四圓六拾參錢
- 第七款 巴里府萬國博覽會費
 - 第一項 廳費 金參萬千六百拾六圓四錢
 - 第二項 廳費 金四千貳百六拾八圓八拾七錢

- 第二項 旅費 金九千五百六拾八圓八拾貳錢
- 第三項 雜給及雜費 金壹萬五千七百貳拾八圓參拾五錢
- 第四項 出品費 金千五百圓
- 第八款 度量衡定期檢定費
 - 第一項 度量衡定期檢定費 金八萬千貳百七圓九拾參錢六厘
 - 第二項 種馬牧場及種馬所新營費 金八萬千貳百七圓九拾參錢六厘
 - 第九款 營繕費
 - 第一項 蠶業講習所新營費 金參萬五千百參拾五圓
 - 第二項 種馬牧場及種馬所新營費 金貳千四百圓
 - 第三項 農商務省所管合計金貳百拾貳萬貳千九拾九圓拾九錢六厘
- 遞信省所管
 - 第一款 補助費 金百七拾參萬參千七百九拾壹圓貳拾錢
 - 第二項 日本郵船株式會社補助 金八拾八萬圓
 - 第三項 海員養成補助 金壹萬圓
 - 第四項 航路擴張費 金五拾六萬六千五百四拾壹圓貳拾錢
 - 第五項 造船獎勵費 金貳拾七萬七千貳百五拾圓
- 第二款 營繕費
 - 第一項 隱岐電信線新設費 金百參拾八萬八千參拾參圓六拾錢
 - 第二項 國後擇捉電信線新設費 金貳萬千四百九拾五圓六拾七錢九厘
 - 第三項 東京函館間電信線增設費 金七萬九千九拾七圓九拾六錢六厘
 - 第四項 札幌根室間電信線增設及新設費 金貳萬千四百參拾壹圓四拾四錢六厘
 - 第五項 東京札幌間電信線增設費 金壹萬五千參百九拾圓七拾五錢四厘
 - 第六項 東京札幌間電信線增設費 金拾八萬八千參百九拾四圓八拾七錢貳厘

第六項	東京鹿兒島間電信線增設費	金參萬參百拾七圓七拾八錢貳厘
第七項	東京青森間電信線增設費	金壹萬五千五百六拾七圓九拾八錢九厘
第八項	入道崎航路標識新設費	金參萬千參百四拾六圓七錢
第九項	經ヶ岬航路標識新設費	金參萬六百七圓拾參錢參厘
第十項	地藏崎航路標識新設費	金貳萬參千四百五拾九圓六拾參錢四厘
第十一項	阿吐江也岬航路標識新設費	金貳萬七千九百九拾九圓八拾八錢
第十二項	室戸崎航路標識新設費	金參萬四千五百五拾圓
第十三項	鹽屋崎航路標識新設費	金貳萬五千八圓七拾錢參厘
第十四項	船舶購買費	金八萬千九百九拾壹圓參拾五錢五厘
第十五項	電信線架設費	金四拾萬八千五百九拾貳圓八拾四錢
第十六項	航路標識設置費	金四萬參千八百九拾八圓拾六錢參厘
第十七項	新營費	金貳拾五萬七千五百六拾八圓參拾參錢四厘
第十八項	航路標識修繕費	金壹萬貳千八百貳拾貳圓
第十九項	修繕費	金參萬九千七百貳拾參圓
第三款	電話交換擴張費	金貳百貳萬六千貳百九拾八圓八拾七錢六厘
第四款	電話交換擴張費	金貳百貳萬六千貳百九拾八圓八拾七錢六厘
第五款	官設既成鐵道改良費	金參百六拾萬圓
第六款	臨時外國行諸費	金參百六拾萬圓
第七款	官設既成鐵道改良費	金貳萬六千八百五拾四圓四拾四錢五厘
第八款	歐米諸國鐵道視察費	金壹萬五千圓
第九款	萬國聯合郵便大會議案會費	金壹萬千八百五拾四圓四拾四錢五厘

遞信省所管合計金八百七拾七萬四千九百七拾八圓拾貳錢壹厘 拓殖務省所管

第一款	補助費	金八萬七千圓
第二款	北海道炭礦鐵道株式會社補助	金八萬圓
第三款	北海道航海補助	金七千圓
第四款	神社費補助	金六百八拾圓拾壹錢壹厘
第五款	土木費補助	金六百八拾圓拾壹錢壹厘
第六款	函館區水道費補助	金八萬貳千七百七拾八圓
第七款	函館港修築費補助	金貳萬四千四百四拾四圓
第八款	營繕費	金五萬八千參百參拾四圓
第九款	新營費	金五萬五千貳百貳拾六圓四拾六錢參厘
第十款	修繕費	金五萬四千參百四拾四圓六拾六錢七厘
第十一款	北海道起業費	金八百八拾壹圓七拾九錢六厘
第十二款	道路橋梁排水隄防設置費	金貳拾壹萬八千貳百六拾七圓五拾五錢四厘
第十三款	北海道千島移民保護費	金貳拾壹萬八千貳百六拾七圓五拾五錢四厘
第十四款	北海道千島移民保護費	金九千五百圓
第十五款	北海道鐵道建設費	金九千五百圓
第十六款	空知太旭川間鐵道	金貳拾七萬五千參拾圓五拾五錢壹厘
第十七款	第二回水產博覽會北海道出品費	金貳拾七萬五千參拾圓五拾五錢壹厘
第十八款	第二回水產博覽會北海道出品費	金參千六百貳拾壹圓九錢五厘
第十九款	第二回水產博覽會北海道出品費	金參千六百貳拾壹圓九錢五厘

第九款 褒賞費

金六千四百六拾八圓參錢壹厘

第一項 臨時褒賞諸費

金六千四百六拾八圓參錢壹厘

第十款 北海道鐵道敷設費

金百萬圓

第一項 北海道第一期鐵道

金九拾九萬八千圓

第二項 鐵道線路測定費

金貳千圓

第十二款 小樽築港費

金貳拾五萬圓

第一項 小樽築港費

金貳拾五萬圓

拓殖務省所管合計金百九拾八萬八千六百七拾壹圓八拾錢五厘

歲出臨時部合計金壹億貳千八百貳拾參萬貳千八百八拾八圓七拾參錢五厘

歲出總計金貳億四千五百貳拾六圓拾八錢七厘

(別冊)

乙號

第一

在天津領事館新營費

總額

金貳萬七千四百參拾六圓八拾六錢

金貳萬七千四百參拾六圓八拾六錢

年額

明治三十年度

金壹萬參千圓

款營 繕 費

項 在天津領事館新營費

款營 繕 費

金壹萬參千圓

明治三十一年度

金壹萬四千四百參拾六圓八拾六錢

金壹萬四千四百參拾六圓八拾六錢

第二

在廈門領事館新營費

總額

金五萬參千圓

金五萬參千圓

年額

明治三十年度

金貳萬圓

金貳萬圓

明治三十一年度

金參萬參千圓

金參萬參千圓

第三

對馬砲臺建築費

總額

金拾六萬四千五百七拾貳圓拾八錢

金拾六萬四千五百七拾貳圓拾八錢

項 在天津領事館新營費

款營 繕 費

項 在天津領事館新營費

款營 繕 費

項 在廈門領事館新營費

款營 繕 費

項 在廈門領事館新營費

款營 繕 費

項 在廈門領事館新營費

款營 繕 費

項 在廈門領事館新營費

款 砲臺建築費

項 對馬砲臺建築費

年額

明治三十年度

金六萬千八百參拾四圓

金六萬千八百參拾四圓

明治三十一年度

金六萬千貳百參拾四圓

金六萬千貳百參拾四圓

明治三十二年度

金貳萬千貳百參拾四圓

金貳萬千貳百參拾四圓

明治三十三年度

金貳萬九百七拾圓拾八錢

金貳萬九百七拾圓拾八錢

第四

長崎砲臺建築費

總額

金貳拾七萬千參百六拾六圓參拾錢

金貳拾七萬千參百六拾六圓參拾錢

年額

明治三十年度

金四萬參千六百八拾壹圓

款 砲臺建築費

款 砲臺建築費

項 長崎砲臺建築費

金四萬參千六百八拾壹圓

明治三十一年度

金五萬百七拾壹圓

金五萬百七拾壹圓

明治三十二年度

金六萬六千四百拾七圓

金六萬六千四百拾七圓

明治三十三年度

金六萬五千五百八拾五圓

金六萬五千五百八拾五圓

明治三十四年度

金四萬五千五百拾貳圓參拾錢

金四萬五千五百拾貳圓參拾錢

第五

舞鶴砲臺建築費

總額

金五拾九萬六千四百四拾四圓四拾錢九厘

金五拾九萬六千四百四拾四圓四拾錢九厘

年額

明治三十年度

金九萬參千九百九拾圓

款 砲臺建築費

款 砲臺建築費

項 舞鶴砲臺建築費

金九萬參千九百九拾圓

項 舞鶴砲臺建築費

明治三十一年度

金拾萬七千八百六拾圓

款 砲臺建築費

金拾萬七千八百六拾圓

項 舞鶴砲臺建築費

明治三十二年度

金拾參萬千六百參拾圓

款 砲臺建築費

金拾參萬千六百參拾圓

項 舞鶴砲臺建築費

明治三十三年度

金拾參萬千六百參拾圓

款 砲臺建築費

金拾參萬千六百參拾圓

項 舞鶴砲臺建築費

明治三十四年度

金拾參萬千參百參拾四圓四拾錢九厘

款 砲臺建築費

金拾參萬千參百參拾四圓四拾錢九厘

項 舞鶴砲臺建築費

第六

函館砲臺建築費

總額

金五拾參萬貳千拾六圓九拾壹錢六厘

款 砲臺建築費

金五拾參萬貳千拾六圓九拾壹錢六厘

項 函館砲臺建築費

年額

明治三十年度

金七萬千八百拾貳圓

款 砲臺建築費

金七萬千八百拾貳圓

項 函館砲臺建築費

明治三十一年度

金七萬參千參百八拾貳圓

款 砲臺建築費

金七萬參千參百八拾貳圓

項 函館砲臺建築費

明治三十二年度

金拾萬九千五百五拾四圓

款 砲臺建築費

金拾萬九千五百五拾四圓

項 函館砲臺建築費

明治三十三年度

金拾四萬參千八百六拾貳圓

款 砲臺建築費

金拾四萬參千八百六拾貳圓

項 函館砲臺建築費

明治三十四年度

金拾參萬參千八百六圓九拾壹錢六厘

款 砲臺建築費

金拾參萬參千八百六圓九拾壹錢六厘

項 函館砲臺建築費

第七

兵器彈藥費

總額

金四百八拾九萬六千六百貳拾圓六拾錢四厘

款 砲臺建築費

金四百八拾九萬六千六百貳拾圓六拾錢四厘

項 兵器彈藥費

年額

明治三十年度

金九拾八萬貳千四百五拾七圓五拾壹錢五厘

款 砲臺建築費

金九拾八萬貳千四百五拾七圓五拾壹錢五厘

項 兵器 彈藥費

明治三十一年度

金九拾八萬貳千四百五拾七圓五拾壹錢五厘

款 砲臺 建築費

金九拾八萬貳千四百五拾七圓五拾壹錢五厘

項 兵器 彈藥費

明治三十二年度

金九拾八萬貳千四百五拾七圓五拾壹錢五厘

款 砲臺 建築費

金九拾八萬貳千四百五拾七圓五拾壹錢五厘

項 兵器 彈藥費

明治三十三年度

金九拾八萬貳千四百五拾七圓九拾貳錢五厘

款 砲臺 建築費

金九拾八萬貳千四百五拾七圓九拾貳錢五厘

項 兵器 彈藥費

明治三十四年度

金九拾六萬六千參百貳拾圓拾參錢四厘

款 砲臺 建築費

金九拾六萬六千參百貳拾圓拾參錢四厘

項 兵器 彈藥費

第八

營繕及初度調辦費

總額

金千九百參拾六萬參千七百四拾六圓九拾貳錢六厘

款 營繕及初度調辦費

金千九百參拾六萬參千七百四拾六圓九拾貳錢六厘

項 營繕及初度調辦費

年額

明治三十年度

金八百參拾四萬四千五百七拾五圓拾七錢九厘

款 營繕及初度調辦費

金八百參拾四萬四千五百七拾五圓拾七錢九厘

項 營繕及初度調辦費

明治三十一年度

金參百八拾六萬七千六百九拾壹圓七拾壹錢六厘

款 營繕及初度調辦費

金參百八拾六萬七千六百九拾壹圓七拾壹錢六厘

項 營繕及初度調辦費

明治三十二年度

金貳百貳拾壹萬八千參百拾參圓四錢五厘

款 營繕及初度調辦費

金貳百貳拾壹萬八千參百拾參圓四錢五厘

項 營繕及初度調辦費

明治三十三年度

金貳百拾六萬四千貳拾圓參拾九錢

款 營繕及初度調辦費

金貳百拾六萬四千貳拾圓參拾九錢

項 營繕及初度調辦費

明治三十四年度

金百拾九萬貳千四百六拾九圓六拾貳錢九厘

款 營繕及初度調辦費

金百拾九萬貳千四百六拾九圓六拾貳錢九厘

項 營繕及初度調辦費

明治三十五年度

金九拾九萬八千六百六拾七圓九拾四錢四厘

款 營繕及初度調辦費

金九拾九萬八千六百六拾七圓九拾四錢四厘

項 營繕及初度調辦費

明治三十六年度

金五拾七萬八千九圓貳錢參厘

款 營繕及初度調辦費

金五拾七萬八千九圓貳錢參厘

項 營繕及初度調辦費

第九

兵器製造費

總額

金九百八拾五萬四千五百參拾八圓四拾九錢九厘

金九百八拾五萬四千五百參拾八圓四拾九錢九厘

年額

明治三十年度

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬貳千圓

明治三十二年度

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬貳千圓

明治三十三年度

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬貳千圓

明治三十四年度

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬貳千圓

金百六拾四萬四千五百參拾八圓四拾九錢九厘

款 兵器製造費

項 兵器彈藥費

款 兵器製造費

項 兵器彈藥費

款 兵器製造費

項 兵器彈藥費

款 兵器製造費

項 兵器彈藥費

款 兵器製造費

項 兵器彈藥費

款 兵器製造費

項 兵器彈藥費

款 兵器製造費

第十
金百六拾四萬四千五百參拾八圓四拾九錢九厘

項 兵器彈藥費

造船造兵職工外國派遣費

總額

金五萬六千六百貳拾壹圓貳拾八錢

金五萬六千六百貳拾壹圓貳拾八錢

年額

明治三十年度

金貳萬貳千五百拾壹圓四錢

金貳萬貳千五百拾壹圓四錢

明治三十一年度

金壹萬五千四百九拾貳圓

金壹萬五千四百九拾貳圓

明治三十二年度

金壹萬八千六百拾八圓貳拾四錢

金壹萬八千六百拾八圓貳拾四錢

第十一

海軍擴張費

總額

金壹億千八百參拾貳萬四千七百拾八圓九拾九錢四厘

金七千八百八拾九萬參千參百九拾九圓貳錢

款 海軍擴張費

項 造船船費